

ME/a/ の発達過程について

平 郡 秀 信

8. 1. 序論

ME/a/ の変化過程を [a] > [æ] と捕らえることに関しては音韻論学者の間で異論はない。しかし、Shakespeare の時代の ME/a/ の音価に関しては見解が別れるところであり、従来から次の見解が提唱されている。

1) ME/a/ は 16 世紀末までに StE においても [æ] になっていた (Wyld, 1936³, pp. 196-201; Kökeritz, 1953, pp. 162-173)。

2) ME/a/ は 16-17 世紀では保守的な [a] と、進歩的な [æ] が並存していた (Dobson, 1968² § 59; Cercignai, 1981, § 33)。

3) ME/a/ の [a] > [æ] は StE でも既に 16 世紀に起こり始めていたが、一般に認められるようになったのは 17 世紀の後半からである (荒木, 1984, p. 60)。

ME/a/ の発達過程を推定するのに何らかの手掛かりを与える脚韻は

- a) ME/a/ : ME/ε/ (back : neck),
- b) ME/a/ : ME/ɔ/ (man : on),
- c) ME/a/ : ME/i/ (father : hither),
- d) ME/a/ : ME/u/ (adder : shudder),
- e) ME/a/ : ME/a/ (am : name),
- f) ME/a/ : ME/ε:/ (cat : eat),
- g) ME/a/ : ME/ai/ (man : plain),

であり、これらの脚韻がどの時期から、どの程度見出されるかが判れば、ME/a/ の発達過程を辿ることが可能となる。古音推定法の中で、特に組織的開発が一番遅れている脚韻を中心に ME/a/ の発達過程と EModE 期の ME/a/ の音価を推定するのが本稿の目的である。

8. 2. 証拠の検証

8. 2. 1. 臨時綴字

EModE 期の ME/a/ の音価を推定するのに役立つ、臨時綴字、正音学者の証拠を間接的に研書 (Wyld, 1936³, pp. 196-201, Kökeritz, 1953, pp. 162-173, Dobson, 1968², p. 548) から、脚韻の証拠を直接的に原資料から収集し、それらを整理すると以下ようになる。] Wyld は 15~6 世紀の文書に 1a) ME/a/ を e と綴った臨時綴字、及び 1b) ME/ɛ/ を a と綴った臨時綴字がしばしば見出されることを根拠にして、15 世紀に南部諸州で、16 世紀末までには StE においても ME/a/ は [æ] に前母音化されていたと考えている。

1a) ME/a/ を e と綴った臨時綴字

eddres(adders), sedness(sadness), wex(wax), wesshe(wash) --- Palladius, 1421; heve (have) --- W. Paston 1425-30; thinking(thanking) --- Duke of Buckingham Paston Letters, 1442-50; seck(sack) --- Marg. Paston, 1440-70; hendes(hands) --- Shillingford, 1447-50; bechler(Bachelor), cheryte(charity), fethem(fathom) jesper(jasper) --- Gregory, 1467 以前, bend(band) --- Bp. Knight, 1512; exemynde(examined) Jenewery(January), renk (rank) --- Lord Berners 1520; Crenmer(Cranmer) --- Machyn 1550-3; hed(had) --- Alleyne Papers 1580-1661; settisfie(satisfy) --- Mrs. Basire, 1654; Francis(Francis) --- ibid, 1655; sednes(sadness) --- ibid, 1656.

1b) ME/ɛ/ を a と綴った臨時綴字

massage(message), massynger(messenger), Wanysday(Wednesday), zastyrd(yesterday) --- Gregory, 1467 以前, massynger(messenger) --- Marg. Paston, (1440-70), mantion (mention) --- Sir T. Elyot, 1531; prast(pressed) --- Machyn, (1550-3).

しかし、Dobson(1968², § 59 Note 2)によると、1a) の臨時綴字の内、Paston Letters, Cely Papers からのものの殆どは MSS の誤読である。そして、残りのものは、その臨時綴字の筆者が ME/a/ が [e] になった地方 (東中部とケント) の出身者であるか、その臨時綴字には ME/ɛ/ 異形が並存しているか、又は語中で弱強勢を持つもののいずれかに属するものである。これらは ME/a/ = [æ] ではなくて、方言形・異形 [ɛ] 又は [e], 又は弱形 [ə] を表すものであり、StE での前母音化の証拠にはならない。1b) の臨時綴字の場合も、それが見出されるのは ME/ɛ/ が今日 [æ] となっている地方 (東部と南部) の出身者 (Margaret Paston [Norfolk], Gregory [Suffolk], Machyn [a Yorkshireman], Elyot [Southwest]) の文書に限られており、これらも方言形を表すものと見なすべきで StE での前母音化の証拠にはならない。Kökeritz も Shakespeare に次の臨時綴字が見出されることを報告している。

- a) exion(action < OF action), sendall(sandal < L. sandal),
 b) exle tree(axletree), reddish(radish), then(than), thetched(thatched), thres(thrash),
 wex(wax), lettice(lattice).

a) を ME/a/ = [æ] の証拠と見なしているが、exion は Quickly 婦人の台詞からのものであり、StE の ME/a/ = [æ] ではなくロンドン方言での ME/a/ = [ɛ] 又は [e] を示しているものかも知れない。b) は ME/a/ の ME/ɛ/ を持つ二重語 (OAngl. æ ↔ WS, Kent の e) に依存するものと想定している。

2a) Wyld は 15~18 世紀の文書に a) ME/ɔ/ を a と綴った臨時綴字、及び b) ME/a/ を o と綴った臨時綴字が見出されることを根拠にして、ME/ɔ/ の平唇化した ME/a/ 異形は本来西部方言訛りであったものが、16~17 世紀の標準英語に入り込み、いわば一種の流行音としてかなり行われていたと考えている。尚、この発音は PE でも南西・南西中部方言の日常会話においても見られる現象である。

a) ME/ɔ/ を a と綴った例

starme(storm), crasse(Cross) --- The Life of St. Editha(C. 1420), aftetymes(ofentimes) --- Shillingford: Mayor of Exeter(1447-50), last(lost) --- M. Paston(1440-70), yander(yonder) --- Lord Berners(1520), caffin(coffin), marrow(morrow), harse(horse), dasset (Dorset) --- Machyn(1550-53), swarn(sworn) --- Lad Hungerford(1569), stop(stap) --- Q. Elizabeth(1572-1602), skaler(scholar) --- Gill(1621), aclake(o'clock)(1652), fally(folly)(1647) --- V. Memoirs, Gearge(George) --- Mrs. Basire(1655), bax(Box), Gad(God), pasitive(positive), stap(stop), Tam(Tom) --- Lord Foppington, Anslow(Onslow 1708), beyand(beyond 1710) --- Lady Wentworth.

b) ME/a/ を o と綴った例

woss, whosse(was) --- Cely Paper(1473-88), wosse(wash) --- Macyn(1550-53), wos(was), whot(what), wore(ware), woshing(washing), woching(watching), quorril(quarrel), quollity(quality) --- Verney Memoirs(1639-96).

しかし、Dobson(1968², § 87)によると、正音学者の ME/a/ と ME/ɔ/ の同一視はせいぜい不注意な発音を記した同音語表に見られるぐらいで、それ以外は卑語・方言に依存している Bullakar の脚韻、北部人 Poole の脚韻表 (barb : orb, arch : torch) に散見されるに過ぎない。

3a) Wyld(1936³, pp. 232-4)は 15 世紀の中頃から ME/u/ を a と綴った臨時綴字が見出されることを根拠に、16 世紀の末までに ME/u/ は今日のそれと余り変わらない発音 = [ʌ] に、ME/a/ = [æ] になっていたと考えている。

3) ME/u/ を a と綴った例

gannes(guns) --- Marg. Paston(1440-70), sadanly(suddenly) --- Fortescue(1471-6), camyth

(cometh), warsse, wars(worse) --- Cely papers(1473-88), Samerset(Sumerset), Chamley (Chomley) --- Macyn(1550-3), apon(upon) --- Cely Papers, Machyn.

しかし、Dobson(1968², § 97 Note 7)によると、Wyldの挙げている臨時綴字の殆どは、実際には、aではなくて、oと綴られているものであり、ME/u/をoと綴っている人はME/u/がoに下げられた地方出身者である。又、残りの臨時綴字の中にも、真正なものはなく、warsse(worse)はME werse(wurseでなく)を表すものである。apon(upon)という綴字は、先ず間違いなく、強勢の欠如と無強勢のME/a/とME/u/の[ə]への縮小に基づくものである。つまり、StEのME/u/をaと綴ったものでなく、ME/a/の音価を推定する証拠には利用できないことになる。

4) KōkeritzはShakespeareに次の臨時綴字が見出されることを報告している。

made(mad --- S 129.9), sate(sat --- AYL 2. 7. 115), vaste(vast --- TmA 4. 3. 4409).

しかし、これらはOSL(ME/a/が開音節で長母音化し、ME/a:/になったこと)によるものである。更にME期の形容詞の屈折語尾は-eだったので、mad+eとなり形容詞は#__Ce#を満たし、ME/a:/異形が存在したことになる。

Dobson(1968², § 43 Note 2)は16世紀の文書にME/a/をauと綴った例を挙げている。

5) ME/a/をauと綴った例

auternoone(afternoon) --- Vice-Chancellor of Cambridge, 1578, chauter(charter --- Brown (1700)のphonetic spelling.

これらは、ME/a/が[f, r]の前で[a:]になったことを示すものではなくて、方言でのME/a/の[ɔ:]への長母音化を示すものである。

8. 2. 2. 正音学者の陳述

Dobson(1968², § 59)によると、ME/a/は16~7世紀には二つの発音[a], [æ]が存在していた。前者は1650年まで一般的な発音であり、後者は16世紀では卑俗ないしは平俗であったが、17世紀の前半に次第に広く受け入れられるようになり、1670年頃までには注意深い話し手によって、一般に受け入れられるようになった。ME/a/は[f, s, θ]の前では長母化を起こしたが、この長母音化についての正音学者の証拠はCooper以前には見出されない。Dobson(1968², § 50)はこの事実をME/a/の[æ]への変化が標準英語で生じたのは17世後半であるとする根拠の一つに利用している。彼は[f, s, θ]の前のME/a/の長母音化を自由位置のME/a/が[a]から[æ]へ高母音化したとき、無声摩擦音の前のME/a/はMEの音価のまま残り、この[a]が[a:]を経て、更に今日の[ɑ:]へ後退したと想定している。もしME/a/の長母音化についてのDobsonのこの見解が正しければ、長母音化の証拠は、自由位置のME/a/が[æ]に発達したことの間接証拠となる。17世紀後半に[f, s, θ]の前のME/a/に長母音化の証拠が存在すること

は自由位置の ME/a/ も 17 世紀後半に [a] > [æ] に変化したことの間接証拠となる。Wolfe (1972, p. 51) によると, ME/a/ = [æ] の最初の証拠を提示しているのは Robinson(1617)であり, Cercignani(1981, p. 86)によると, Cooper(1685) となっている。

8. 2. 3. 脚韻

Kökeritz(1953, pp. 162-173)は Shakespeare に ME/a/ と ME/ε/ の脚韻が見出されていることを根拠に 16 世紀末までに StE においても, ME/a/ = [æ] が一般に受け入れられていた考えい

1) ME/a/ : ME/a/

man : can

ME/a/([w] ___) : ME/a/

wan : man, want : grant

ME/a/(___ [r]) : ME/a/([w] ___ [r])

harm : warm, jar : war

2) ME/a/ : ME/ε/

a) am : gentlemen(TGV 1. 2. 18-19 韻文)

at : debt(CE 4. 2. 47-8 韻文)

backe : necke(R2 5. 5. 88 中間), (VA 593-4)

matter : letter(AYL 4. 3. 26-7 中間)

b) scratch : wretch(VA 703)

ran : began : than(then) (RL 1437-40)

a) は [æ] : [ε] の類韻, b) は wretch, then の ME/a/ 異形に依存するものであると想定している。Cercignani(1981, p. 100)によると, back には Mercia, Kent 方言で ME/ε/ を持つ二重語が並存していた。これは OAngle の /æ/ は WS, Kent では /ε/ (<ea) になったことに由来するものである。

c) ME/a/r : ME/ε/r

departest : convertest(S 11. 2-4), impart : desert(S 72. 6-8)

ME/ε/r の低母音化に由来する ME/a/r は今日では俗語・方言の特色であるが, EModE 期には極めて普通の現象である。___ [r] C の環境で [ε] > [a] は既に 14 世紀に北部方言で, 南部言では 15 世紀に生じた。ME/ε/r の [ə:] への中舌化を最初に示しているのは Daines(1640)であり, ME/ε/r を持つ語は [a : r] と発音されており, [ə:] はまだ一般的ではなかった。Shakespeare の頃には ME/ε/r には [a:], [ə:] の二つの発音が並存していたことになる。

3) ME/a/ : ME/a:/

- a) ame : came(RJ 2. 2. 53-4 中間)
- b) sad : shade(MND 4. 1. 98-9 韻文)
father : labor(P 1. 1. 66-7 韻文)
- c) have : crave(PP 10. 7-9 韻文)
have : grave(VA 757-9 韻文)
- d) chat : gate(VA 422-4)
mishaps : grapes(VA 601-3)

a) を am の ME/a:/ 異形に, b) を sad の ME/a:/ 異形か, shade の ME/a/ 異形に, c) を have の ME/a:/ 異形に, d) を gate, grapes の ME/a/ 異形に依存するものであると想定している。

- e) ME/a/(__ [s]) : ME/a:/
fast : haste(VA 55-7)
fast : taste(VA 527-8)
last : haste(RJ 3. 1. 199-200)
past : waste(S 30. 2-4)

これらを ME/a:/ を持つ語の ME/a/ 異形に依存するものと想定している。Kökeritz は [f, s, θ] の前の ME/a/ は 16 世紀後半には [æ:] になっていたと考えているが, それを示す脚韻の直接的証拠は少ない。一方, [f, s, θ] の前の ME/a/ の [æ:] の正音学者の証拠は Cooper(1685) に初めて現れる。この点に関しても, 脚韻の証拠と正音学者のそれとは大きく食違っており, 古い発音を正常音とする正音学者の保守性が垣間見られる。Wyld(1936³, 203) によると, ME/a/ は 15 世紀末に [æ] に, 16 世紀末に [f, s, θ] の前で [æ:] に, 17 世紀に [a:], 更に 18 世紀後半に [a:] になった。一方, Kökeritz(1953, p. 168)によると, ME/a/ は Bfd., Hnt., Oxf.. で [a] として保たれ, それが, 17 世紀に [a:] へ長母音化したことになっている。Dobson(1968², § 50) は自由位置の ME/a/ が [æ] に前母音化した時, [f, s, θ] の前の ME/a/ は ME の音価 [a] のまま残り, この [a] が [a:] を経て今日の [a:] に後退したもとしている。

4) ME/a/ : ME/ε:/

- a) cat : eat(H5 1. 2. 173 中間)

eat の ME/ε:/ > 短母音化 > [ε] に依存するものと想定している。しかし, これは無韻詩形の間からのものであり, これを脚韻と見ること自体が問題である。

ME/a/(__ [f, s, θ]) : ME/ε:/

- b) wrath : death(R3 1. 3. 267-8 中間) (TGV 5. 4. 126-7 中間)

この脚韻は [f, s, θ] の前の ME/a/ に [æ:] が存在していた決定的証拠のように見える。しかし, wrath, death には 16-7 世紀には短音が並存していた証拠があるので, wrath : death は実

質的には ME/a/ : ME/ɛ/ であるかも知れず, ME/a/(__ [f, s, θ]) = [æ:] の確証にはらない。これも又無韻詩形の間からのものであり, これを脚韻と見ること自体が問題ある。

5) ME/a/ : ME/ɔ/

a) am : Tom(L 2. 3. 20-1 rhymed tag)

crab : bob(MND 2. 1. 48-9 韻文)

hap : hop(MND 5. 1. 303-4 韻文)

b) dally : folly(RL 554-6 韻文)

c) hallow : follow(VA 973-5 韻文)

d) craft : doffed(LC 295-7 韻文)

a) を Warwickshire での ME/ɔ/ > 平唇化 > ME/a/ の完全韻, b) を Spenser 等に見出されていたため伝統的脚韻, c) を hallow の ME/ɔ/ 異形, d) を doffed の ME/a/ 異形に依存するものととらえている。そして, この ME/ɔ/ > ME/a/ の平唇化は George : charge(H 5 3. 1. 33-4 rhymed tag), short : heart : part(LLL 5. 2. 55-7 韻文), shorter : departure(L 1. 5. 51-2 rhymed tag), storms : arms(3 H 6 4. 7. 42-3 中間) のように [r] の前でも顕著である。

e) ME/a([w] __) : ME/ɔ/

what : wot(R 2 2. 2. 39-40)

[w] の ME/a/ に及ぼす円唇化の例はこの一例だけである。Shakespeare は ME/a/([w] __ [r]) = [ɔ:] であったことを示す 8g : 7c(war : before), 8g : 11c(warm : form) の具体例をあげていない。しかし, 南部・ロンドン方言で [w] __ [r] の環境で ME/a/ が [ɔ:] になった証拠として 1) che vor' ye(L 4. 6. 240) と 2) 地口 wards - words を挙げている。前者は Somerset 方言を話している Edgar に見られる臨時綴字であり, vor が warn, warrant の何れを意味する場合でも, [w] の ME/a/ に対する円唇化の影響が南部方言で及んでいたことを示しており, 後者は word の ME/ɔ/ 異形に依存するものであり, 南部方言では ME/a/([w] __ [r]) は [ɔ:] になっていたと想定している。Shakespeare は笑いを醸し出すために, 登場人物に方言で語らせる手法を取り入れている。彼が劇の中で方言を使う時は生まれ故郷の Warwickshire 方言ではなく, エリザベス朝の舞台の慣例に従って, 南(西)部方言を用いている。これは南(西)部方言が地理的にもロンドンに近いので, 一方ではその発音の特徴が印象的であったためである。

6) ME/a/ : ME/i/

father : hither(LLL 1. 1. 139-41 韻文)

father の ME/a/ と hither の ME/ɛ/ 異形に依存するものである。father には ME/a/ > 長母音に由来する [a:] 或いは [æ:] と ME/a/ に由来する [e:] (今日の Warwickshire 方言での発音)の二つの発音が並存していた。

7) ME/a/ : ME/u/

adder : shudder (VA 878-80)

languish : punish (P 1. 2. 32-3 中間)

これらを [æ:] : [ʌ] の類韻と見なしている。しかし、OED は shudder に ME/a/ 異形 (5 shadyr) が並存していることを示しており、実際には ME/a/ 同士の脚韻かもしれない。更にこれは女性韻ではなく [-dər] に依存する男性韻であるかも知れない。後者は無韻詩形の中間からのものであり、これを脚韻と見ること自体が問題である。

8) ME/a/ : ME/au/

after : caught her : daughter her : slaughter her : halter (L 1. 4. 0 340 5)

Fool が捲し立てるこの脚韻を 1600 年頃のロンドン英語で ME/a/([f] の前) に [æ:] の口語異形として [ɑ:] 又は [a:] が存在していた証拠と想定している。しかし、筆者は ME/a/f の [a:] は Cooper (1685) に初めて見出されているところから、ME/au/ の ME/a/ 異形に依存するものと想定しており、ME/a/f の [ɑ:] 又は [a:] の確証にはならない。

以下の例は筆者が、他の音韻論学者に先駆け、新たに発掘したものである (但し、稀である)。

9) ME/a/([w] ___) : ME/au/

was : cause

10) ME/a/([w] ___) : ME/ɔ/

was : cross

11) ME/a/([w] ___) : ME/a:/

water : nature

12) ME/a/([w] ___) : ME/ɔ:/r

war : before

13) ME/a/([w] ___ [r]) : ME/ɛ:/r

war : ear

14) ME/a/ : ME/ɔ:/

had : rad (rode)

15) ME/a/r : ME/u/r

dark : work, regard : word

16) ME/a/ : ME/ai/

man : plain

17) ME/a/r : ME/ɛ:/r

are : hear

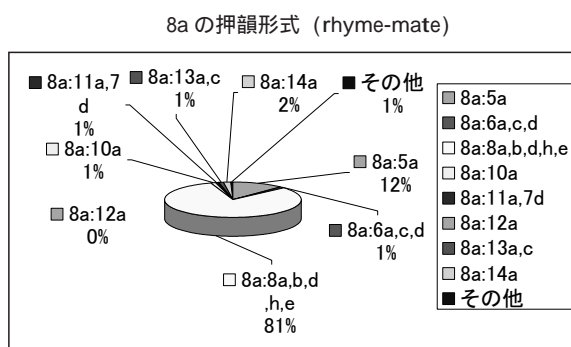
18) ME/a/r : ME/i:/r

hearth : birth, far : stir

- 19) ME/a/ : ME/i:/
gather : either, father : naither
- 20) ME/a/ : ME/ε:/r
carry : weary
- 21) ME/a/ : ME/o:/
began : noon
- 22) ME/a/ : ME/u/r
past : brast(burst)

8. 3. 脚韻の収集と分析

次の円グラフは筆者が調査した自由位置の ME/a/ を含む rhyme-mate とその相対頻度を示したものである。ME/a/ は EModE 期以降 ME/a/ だけでなく、ME/a:/、ME/au/、ME/ε/、ME/ε:/、ME/ɔ:/、ME/ai/、ME/u/、その他と押韻している。押韻率の点では ME/a/ : ME/a/ のそれ(81.5%)が一番



高く、以下 ME/a/ : ME/a:/ (12.2%)、ME/a/ : ME/au/ (16%)、ME/a/ : ME/ε/ (1.1%)、ME/a/ : ME/ai/ (1.1%)、ME/a/ : ME/ε/ (1.0%)、ME/a/ : E/ɔ/ (0.6%)、ME/a/ : ME/u/ (0.2%)、その他 (0.6%) の順になっている。ME/a/ : ME/a:/ (sad : shade) は ME/a/ の ME/a:/ 異形か、ME/a:/ の ME/a/ 異形に、ME/a/ : ME/au/ (shall : all) は ME/au/ の ME/a/ 異形に、ME/a/ : ME/ε/ (man : then) は [ε] 又は [e] に、ME/a/ : ME/ε:/ (catch : reach) は ME/ε:/ の ME/ε/ 異形に、ME/a/ : ME/ai/ (man : plain) は方言音 [ε] 又は [e] に、ME/a/ : ME/ɔ/ (hal-low : follow) は ME/ɔ/ の ME/a/ 異形に、ME/a/ : ME/u/ (man : sun) は方言音 [e] に依存するものである。

次の表は 16-18 世紀の各詩人の自由位置の ME/a/ を含む全脚韻の中で、ME/a/ と ME/a:/、ME/ε:/、ME/ε/、ME/ɔ/、ME/u/、ME/ai/、ME/au/ の脚韻の実数を示したものである。以下音番号順に考察する。

ME/a/ の押韻形式

	8a:5a	8a:6a, c, d	8a:8a, b, d, h, e	8a:10a	8a:11a, 7d	8a:12a	8a:13a, c	8a:14a	その他	total
T. Wyatt (1503-42)	63	6	84	14	9	1	0	19	1	197
H. Howard (?1517-47)	4	0	13	0	0	0	0	2	0	19
G. Turberville (?1540-1610)	14	0	96	0	0	0	0	2	0	112
E. Spenser (1552-99) Sc	1	2	33	0	2	0	0	1	2	41
Fairy Queen 1 巻	14	2	159	4	0	0	0	0	6	185
Fairy Queen 2 巻	28	4	188	8	2	0	1	1	28	260
Fairy Queen 3 巻	16	7	119	11	10	4	0	4	14	185
Fairy Queen 4 巻	8	11	152	8	6	7	0	0	6	198
Fairy Queen 5 巻	21	17	175	2	13	1	0	0	9	238
Fairy Queen 6 巻	22	21	74	5	5	1	0	3	4	135
Minor Poems	24	5	93	0	8	3	0	3	4	140
W. Raleigh (1552-1618)	6	0	27	1	0	0	0	0	0	34
P. Sidney (1554-84)	50	0	147	1	0	0	0	17	0	215
J. Lyly (?1554-1606)	8	0	64	1	0	0	0	0	0	73
W. Warner (1558-1609)	23	0	171	0	2	0	0	10	0	206
G. Chapman (?1559-1634)	35	0	135	3	0	0	1	0	0	174
R. Southwell (1561-95)	8	1	21	0	0	0	0	0	0	30
S. Daniel (?1563-1619)	57	2	302	11	7	0	2	23	0	404
M. Drayton (1563-1631)	47	1	364	1	1	0	0	7	2	423
C. Marlowe (1564- 93)	15	0	68	0	0	0	0	0	0	83
W. Shakespeare 韻文のみ	12	0	72	2	2	1	0	1	0	90
W. Shakespeare 全 data	18	0	141	2	7	1	0	2	0	171
T. Campion (1567-1620)	18	0	42	0	0	1	0	0	0	61
J. Davies (1569-1626)	4	0	37	0	0	0	0	1	0	42
J. Donne (1572-1631)	31	0	137	2	1	0	4	11	0	186
B. Jonson (1572-1637)	22	0	180	0	0	0	0	2	0	204
J. Marston (1576-1634)	6	0	31	0	0	0	0	0	0	37
J. Hall (1574-1656)	6	0	22	0	1	0	1	0	1	31
E. Stirling (1580-1640)	79	43	313	2	0	0	2	0	0	439
R. Corbet (1582-1635)	9	0	33	0	1	0	0	1	0	44
P. Fletcher (1582-1650)	24	0	122	1	0	0	2	3	0	152
J. Beaumont (1583-1627)	7	0	59	0	0	0	0	0	0	66
F. Beaumont (1584-1616)	11	0	64	0	1	0	0	2	1	79
W. Drummond (1585-1649)	37	5	87	3	0	0	2	0	0	134
J. Ford (1586-1639)	15	0	27	0	0	2	0	0	0	42
F. Kynaston (1587-1642)	21	0	54	0	0	0	0	1	0	76
G. Fletcher (?1588-1623)	12	0	36	1	0	0	0	0	0	51
W. Browne (?1591-?1641)	29	0	211	1	3	0	0	3	1	248
R. Herrick (1591-1674)	38	0	124	0	0	0	3	21	1	187
G. Herbert (1593-1633)	28	0	86	3	0	0	0	2	0	119
H. King (1592-1669)	13	0	41	0	0	0	1	2	0	57
T. Carew (1594-1639)	11	0	61	0	0	0	0	5	0	77
J. Chalkhill (fl.1600)	13	1	44	1	0	0	1	2	0	62
S. Marmion (1603-39)	6	0	20	0	0	0	0	0	0	26
E. Benlowes (1603-76)	21	0	114	0	0	2	5	11	0	153

W. Habington (1605-54)	10	0	40	2	0	0	0	8	0	60
J. Davenant (1606-68)	12	0	48	0	0	0	0	1	0	61
E. Waller (1606-87)	13	0	44	0	0	0	0	2	0	59
W. Bosworth (1607-50?)	9	1	51	1	0	0	0	1	0	63
J. Milton (1608-74)	8	0	42	0	0	0	1	0	0	51
J. Suckling (1609-41)	3	1	14	0	0	1	0	1	1	21
N. Whiting (?)	11	1	126	0	0	0	0	3	0	141
S. Godolphin (1610-42-3)	0	0	9	1	0	0	0	0	0	10
R. Cartwright (1611-45)	6	0	27	1	0	0	0	1	0	35
S. Butler (1612-80)	63	2	167	3	2	3	13	1	0	254
R. Crashaw (1613-49)	10	0	76	0	0	0	2	1	0	89
J. Cleveland (1615-69)	8	0	28	0	0	0	1	0	0	37
J. Denham (1615-69)	12	0	57	0	0	0	0	0	2	71
R. Lovelace (1613-58)	13	0	63	2	2	0	2	1	0	83
A. Cowley (1618-67)	27	0	138	2	0	0	1	7	0	175
E. Sherburne (1618-1702)	7	0	27	1	0	0	0	3	0	38
W. Chamberlayne (1619-89)	49	0	229	3	1	1	0	13	0	296
A. Brome (1620-66)	25	0	104	2	0	1	1	3	1	137
A. Marvell (1621-78)	5	0	45	0	0	0	1	1	0	52
H. Vaughan (1622-95)	24	0	168	0	0	1	0	1	0	194
T. Stanley (1625-78)	6	0	8	0	0	0	0	0	0	14
P. Hannay (died 1629?)	23	5	48	9	0	0	5	0	0	90
J. Hall (1627-56)	9	3	31	1	0	0	2	13	0	59
C. Cotton (1630-87)	36	0	72	3	0	0	2	0	0	113
K. Philips (1631-64)	12	0	36	0	0	0	0	0	0	48
J. Dryden (1631-1700) 1巻	20	0	170	3	0	0	1	2	0	196
2巻	26	0	172	1	1	1	5	0	0	206
3巻	22	1	293	0	0	0	2	0	0	318
4巻	21	0	157	0	1	0	3	1	1	184
E. Roscommon (c.1633-85)	0	0	10	0	0	0	0	0	0	10
T. Sprat (1636-1713)	9	1	22	4	0	0	4	0	0	40
T. Flatman (1637-88)	12	0	52	2	2	0	1	1	0	70
E. Dorset (1638-1706)	1	0	13	0	0	0	0	0	0	14
P. Ayres (1638-1712)	7	0	29	0	0	0	0	0	0	36
T. Shadwell (?1642-92)	8	0	44	0	0	0	0	0	0	52
E. Rochester (1647-80)	20	3	41	1	1	0	1	1	0	68
J. Sheffied (1648-1721)	5	1	24	0	0	0	0	3	0	33
T. Otway (1651-85)	5	0	30	0	1	0	1	0	0	37
P. Carey (fl.1651)	3	0	41	0	0	0	2	0	0	46
W. Hammond (fl.1655)	2	0	16	0	0	0	2	0	0	20
R. Blackmore (?1655-1729)	18	0	60	0	0	0	2	0	0	80
R. Duke (1658-1711)	4	1	22	0	0	0	2	0	0	29
E. Halifax (1661-1715)	0	0	9	0	0	0	1	0	0	10
S. Garth (1661-1719)	6	0	11	1	0	0	1	0	0	19
G. Stepney (1663-1707)	3	0	18	0	0	0	0	1	0	22
W. Walsh (1663-1708)	1	0	11	0	0	0	1	0	0	13
W. King (1663-1712)	17	1	81	1	0	0	3	1	0	104
M. Prior (1664-1721)	36	5	169	3	0	1	11	3	3	231

J. Pomfret (1667-1702)	11	0	31	0	0	0	1	0	0	43
G. Granville (1667-1735)	3	1	33	2	0	0	4	0	0	43
J. Swift (1667-1745)	6	1	236	1	2	0	0	0	0	246
W. Congreve (1670-1729)	15	1	33	3	0	0	2	0	0	54
T. Yalden (1671-1736)	4	1	25	0	0	0	1	0	0	31
E. Smith (1672-1710)	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3
N. Rowe (1673-1718)	6	0	17	0	0	0	0	0	0	23
J. Addison (1673-1719)	2	2	41	0	0	0	10	0	0	55
I. Watts (1674-1748)	12	2	81	2	0	0	1	0	0	98
W. Somerville (1675- 1742)	6	0	54	1	0	0	2	0	0	63
A. Philips (c.1675-1749)	3	0	17	0	0	0	0	1	0	21
J. Hughes (1677-1720)	6	0	49	0	0	0	2	0	0	57
T. Parnell (1678-1718)	0	0	85	0	0	0	0	0	0	85
E. Young (1681-1765)	0	1	95	0	0	0	0	0	0	96
E. Fenton (1683-1730)	6	0	33	0	0	0	2	0	0	41
W. Diaper (1685-1717)	23	0	29	0	0	0	5	0	0	57
J. Gay (1685-1732)	10	0	184	0	0	0	0	1	0	195
T. Tickell (1686-1740)	0	0	81	0	0	1	1	0	0	83
A. Pope (1688-1744)	15	2	178	0	0	0	6	0	0	201
W. Broome (1689-1745)	0	0	32	0	0	0	0	0	0	32
J. Byrom (1692-1763)	2	0	238	0	0	0	4	0	0	244
M. Green (1646-1737)	0	1	4	0	0	0	0	0	0	5
R. Savage (c.1697-1743)	2	0	26	0	0	0	0	1	0	29
C. Pitt (1699-1748)	5	0	37	0	0	0	5	0	0	47
J. Thomson (1700-48)	0	3	54	1	0	0	0	0	0	58
J. Dyer (?1700-58)	3	0	5	0	0	0	0	0	0	8
G. West (1703-56)	2	0	29	0	0	0	0	1	0	32
R. Dodsley (1703-64)	7	0	23	0	0	0	8	0	0	38
S. Jenyns (1703-87)	2	1	52	0	0	0	0	0	0	55
W. Hamilton (1704-54)	3	0	34	2	0	0	0	0	0	39
D. Mallet (?1705-65)	0	0	22	0	0	0	0	0	0	22
H. Brooke (1706-83)	4	2	140	0	0	0	0	0	0	146
W. Harte (?1707-74)	5	0	93	0	0	0	0	0	0	98
S. Boyse (1708-49)	4	0	70	0	0	0	0	0	0	74
L. Lyttleton (1709-73)	0	0	16	0	0	0	2	0	0	18
P. Whitehead (1709-74)	3	0	16	0	0	0	0	0	0	19
J. Armstrong (1709-79)	2	2	6	1	0	0	0	1	1	13
S. Johnson (1709-84)	1	0	28	0	0	0	3	0	0	32
J. Hammond (1710-42)	0	0	7	0	0	0	0	0	0	7
E. Moore (1712-57)	3	1	36	0	0	0	1	0	0	41
W. Thompson (1712-67)	1	1	19	0	0	0	1	0	0	22
W. Shenston (1714-63)	4	0	34	0	0	0	0	0	0	38
R. Jago (1715-81)	1	0	13	0	0	0	0	0	0	14
W. Whitehead (1715-85)	17	0	110	0	0	0	4	0	0	131
T. Gray (1716- 85)	1	1	12	0	0	0	0	0	0	14
R. Cambridge (1710- 1802)	7	2	106	2	0	0	1	0	0	118
J. Cawthorn (1719-62?)	0	1	39	0	0	0	0	1	0	41
W. Collins (1721-59)	0	0	24	0	0	0	0	0	0	24

M. Akenside (1721-70)	1	0	50	0	0	0	0	0	0	51
T. Smollett (1721-71)	2	0	11	0	0	0	0	0	0	13
W. Wilkie (1721-72)	9	0	178	1	0	0	1	0	0	189
F. Fawkes (1721-77)	0	0	41	0	0	0	0	0	0	41
T. Blacklock (1721-91)	0	0	18	0	0	0	0	0	0	18
C. Smart (1722-70)	2	0	60	0	1	0	0	0	0	63
J. Warton (1722-1800)	2	0	13	0	0	0	0	0	0	15
J. Grainger (1723-66)	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5
J.G. Cooper (1723- 69)	7	0	22	0	0	0	1	0	0	30
W. Mason (1725-97)	5	0	48	0	0	0	0	0	0	53
O. Goldsmith (1728-74)	2	1	62	1	0	0	0	0	0	66
T. Warton (1728-90)	5	0	55	0	0	0	0	0	0	60
J. Cunningham (1629-73)	0	0	43	0	0	0	0	0	0	43
J. Scott (1730-85)	0	0	41	0	0	0	0	0	0	41
C. Churchill (1731-64)	1	0	218	0	0	0	2	0	0	221
W. Cowper (1731-1800)	10	0	147	0	1	0	3	1	0	162
W. Falconer (1732-69)	0	0	48	0	0	0	0	0	0	48
R. Lloyd (1733-64)	2	0	129	0	0	0	2	0	0	133
J. Langhorne (1735-79)	1	0	33	0	0	0	0	0	0	34
W.J. Mickle (1735-88)	4	0	45	1	0	0	0	0	0	50
J. Beattie (1735-1803)	2	0	56	2	0	0	0	0	0	60
E. Lovibond (?1735-75)	0	0	18	0	0	0	0	0	0	18
S.W. Jones (1746-94)	0	0	56	0	0	0	0	0	0	56
J. Logan (1744-88)	1	0	12	0	0	0	0	0	0	13
T.Chatterton (1752-70)	0	0	76	0	0	0	0	0	0	76
G.Crabbe (1754-1832)	17	0	234	0	0	0	0	0	0	251
W.Wordsworth (1770-1850)	2	0	50	0	0	0	0	0	0	52
G.G. Byron (1788-1824)	20	3	251	2	0	0	1	9	2	288
P.B. Shelley (1772-1822)	4	0	63	0	0	0	0	0	0	67
J. Keats (1795-1821)	1	0	170	0	3	0	2	0	0	176
	1925	184	12872	158	99	34	177	256	91	15796

8. 3. 1. 1. 8a : 1a(ME/a/ : ME/u:/)

hond : bond, lond : bond, hond : fond, land : fond, lond : fond, vnderstond : fond(Spenser1),
brond : bond, hand : bond, hond : bond, vnderstond : bond, withstond : bond, bond : fond, brond :
fond, hand : fond, hond : fond(6t), lond : fond(3t), stond : fond, strond : fond, vnderstond :
fond(2t), withstond : fond(2t) (Spenser2), hand : fond, hond : fond, lond : fond(3t), strond :
fond(2t), vnderstand : fond, vnderstond : fond, withstand : fond(Spenser3), hond : bond, hond :
fond(2t) (Spenser4), sponne : donne, begunne : wonne(2t) (Spenser4), hond : bond, stond : bond,
hond : fond, stond : fond(Spenser5), withstond : bond, withstond : fond(Spenser6), hond :
found(Brown).

8a : 1a は PE では [æ] : [au] の不完全韻であるが、EModE 期以降散見されている。その多
くは Spenser からのものであり、8a, 1a を持つ語の ME/ɔ/ 異形 (1-5 hond, 1-5 bond, 1-5 fond)

に依存する脚韻である。Spenser にとって、bound, found の ME/ɔ/ 異形は Chaucer の 模倣で、しかも中世的な綴字 bond, brond, hond, strond 等に対し便利な視脚韻を提供することとなった。Donson(1968², §71)によると、EModE 期には、nd, ng の前の ME/a/ (e.g. band, hand, stand; hang; stamp)には、LOE/a:/ = [a:] > [ɔ:] > [ɔ] の過程を経て発達した [ɔ] 異形が並存していた。bind(find) は OE では bindan(inf.), band (pret.), bundon(pret pl.), bunnden(pp.) と変化し、過去形 band には bond(1-5) 異形が並存していた。PE [ai] は本来の ME/i/ が -nd の前で ME/i:/ に変化し、大母音推移で二重母音化した結果であり、過去形の bound は OE band の発達ではなく、15 世紀に ME/u:/ (OE/u/ が -nd の前で長母音化した bound) を持つ過去複数形・過去分詞形の類推で出来たものである。今日の bond は本来の形 band と異形の間、機能の分業化が行われた結果である。

8. 3. 1. 2. 8a : 5a, 8b : 5a (ME/a/ : ME/a:/) 用例多数にて著名な詩人の具体例を挙げに留める (具体例は 5a : 8a, 5a : 8b で入力)。

8a : 5a

alteration : fashion, apace : hase, apase : Alas, became : am, blame : ame, cace : alas, case : alas (4t), vase : alase, craue : † haue(2t), *crave : † have(9t), dam : am, fable : saddel, face : alas, fade : badd, fade : † glad, fade : † madde, *gate : † fat, grace : alas, grace : alase, *grave : † have(2t), hate : that, lade : hade, lame : ame, made : † glad, mak : lakk(2t), operation : fashion, pace : alas, place : hase(2t), Rave : † have, saue : haue, save : † have(3t), *shade : hade, shame : ame, slave : † have(2t), space : alas, spas : Alas, state : † fat, tame : ame, tast : hast, trace : alas(2t), wast : hast(Wyatt), came : am, came : lambe, craue : haue, dame : ame, graue : haue, haste : hast, occasion : passion, Plate : sate, sam : dam, sam : lam, same : ame, scath : hath, Shame : am, waue : haue(Spenser1), bathe : hath, came : am(2t), *crave : † have(4t), craving : having, danger : anger, deprave : † have, endanger : anger, estimation : passion, forsake : wrack, frame : am, game : am, *gave : † have(2t), *grave : † have(5t), hate : sate, knave : † have(2t), lamentation : passion, late : sate, mate : sate, plac't : hast, plast : hast, rathe : hath, save : † have(11t), slave : † have(6t), state : sate(2t)(Sidney), cave : † have, *crave : † have(10t), creation : fashion, deprave : † have(3t), estate : sate, estimation : fashion, fame : am, fate : sate, favour : † have-her, *gave : † have(6t), *grave : † have(5t), incantation : passion, nam'd : damn'd, nation : fashion(2t), nation : fashion, nature : stature(2t), save : † have(3t), station : pasion, unstable : bable, wanne : began, wave : † have(Drayton), chamber : amber, *crave : † have, face : has, *gave : † have, *grapes : mishaps, *grave : † have(6t), *grave-it : † have-it, place : ass, *shade : † sad, slave : † have(4t)(Shakespeare), came : am

(2t), *crave : † have(3t), *engrave : † have, Fate : begat, *gave : † have(3t), *grave : † have (12t), hate : begat, name : am(2t), nations : fashions, prophan'd : land, rate : hat, save : † have(2t), taste : hast(Donne), cave : † have, chamber : Amber(2t), chast : hast, *crave : † have(2t), *gave : † have, grac't : hast(2t), *grave : † have(23t), rave : † have, save : † have (2t), slave : † have, wave : † have(Herrick), adoration : fashion, alteration : fashion, *be-gave : † have, condemnation : passion, contemplation : passion, creation : fashion, creation : passion, education : dashion, face : alas, flame : am, *grave : † have(5t), late : sate, nature : stature, proclamation : fashion, rave : † have, reservation : fashion, sake : back, salvation : passion, save-it : † have-it, shame : am(3t), wave : † have, waving : † having(Herbert), Fate : sate, graue : haue(3t), *Grave : † have(2t), late : at(2t), operation : fashion(Crashaw), Cham-ber : Amber, *crave : † have(2t), Face : alas, Flame : am, *Grave : † have(2t), Hate : at, save : † have, Slave : † have(3t), State : sate(Lovelace), *crave : † have(3t), estate : sate, fate : sate, *gave : have, *grave : † have(8t), made : † glad, made : had, overcame : Lamb, shame : Lamb, slave : † have, State : sate, wave : † have(3t)(Vaughan), base : has, became : am, case : has, Cave : † have(3t), Conversation : Fashion, *crave-it : † have-it, Creation : fashion, fable : Rabble, fables : rabbles, fame : Damne, Fate : that(2t), flame : am(2t), grace : has(2t), *gra-ve : † have(2t), hate : that, made : add, made : had, make : crack, Obligation : fashion, plac't : hast, place : has, prophan'd : hand, *shade : clad *shade : had(2t), state : that, take : back, take : wrack, takes : Axe, wave : † have(Cotton), became : swam, *crave : † have, damnation : passion, escap'd : Clap'd, Face : alas, Fate : sat, Fate : sate, Imagination : Fashion, make : back, Nation : fashion(3t), place : Ass, place : mass, shake : back, shaming : damming, Salve : † have, State : sate(2t), State : that(Dryden1), chamber : amber(2t), *crave : † have, demon-stration : passion, embrace : lass, face : has, fate : sat, fate : sate, fate : that, *gate : sate, *gave-it : † have-it, *grave : † have(2t), late : sate, made : add, make : back, make : crack, name : am, nature : stature, profane : man, quotation : passion, rave : † have, reputation : passion, save : † have, slave : † have(3t), state : chat, state : sat, table : babble, take : back (3t), trade : had(Prior), Chamber : clamber, face : lass, Nation : Passion, Patent : sat-in't, Slave : † have(Swift), cake : black, came : swam(2t), case : Mass, create : forgat, embrace : Mass, escape : wrap, Face : Mass, Fate : Bat, Fate : Bat, Fate : forgat, Fate : sat, Fate : sate (2t), grate : sate, made : had, make : Back, race : Mass, save : † have, *Shade : clad, Space : Mass(2t), State : chat, Station : fashion(Diaper), *crave : † have, debate : at, debate : that, estate : that, face : mass, fate : sate, *gave : † have, knave : † have, make : back, slave : † have, state : sate(2t), state : that, take : track, wave : † have(Pope),

8b : 5a

apase : pas, Case : alas, Case : pas, chace : passe(2t), escaped : passed, face : alas, face : passe (2t), fase : passe, grace : passe, hast : fast, hast : fore-cast, hast : last, hast : past, haste : paste, nature : † master, space : passe(2t), tast : fast(4t), tast : last(3t), tast : past, taste : paste, taste : repast, trace : passe, wast : blaste, wast : fast(3t), wast : last(4t), wast : past (3t), waste : agaste, waste : past, waste : paste, waste : repast(Wyatt), chast : aghast, chast : cast, chast : ouercast, chast : repast, hast : fast, hast : forcast, hast : last, hast : ouercast, hast : ouerpast, haste : past, hast : repast, hast : vast, haste : fast, haste : past, place : pace, plaste : repast, taste : repast, waste : faste(2t)(Spenser1), chas'd : cast, chaste : faste, de-faste : past, embrac't : cast, graste : caste, hast : last(2t), haste : cast, plac't : cast(2t), plac't : fast, place : grasse, rast : fast, tast : cast, tast : last, taste : cast(2t), taste : caste(2t), taste : overpaste, wast : blast, wast : cast, wast : last, waste : blast, waste : last, waste : past, was-teth : lasteth(Sidney), grac'd : cast, grac'd : past, hast : cast(2t), haste : cast(3t), haste : fast (3t), haste : forecast, haste : past(2t), hasts : casts(2t), hasts-them : casts-them, tast : cast, taste : last, taste : past, wast : cast(2t), wast : past, waste : cast(3t),waste : last, waste : past (2t), wastes : blasts, wasts : casts(Drayton), haste : blast, haste : fast(7t), haste : last, has-te : past(2t), taste : fast(2t), taste : last(3t), waste : past(Shakespeare), chast : last, hast : last, haste : cast, haste : fast, plac'd : cast, plac'd : o'rpast, tast : last, tast : past, taste : cast, taste : last, wast : fast(2t), wast : last(3t), wast : mast, wast : o'past, waste : cast, waste : fast, waste : last(Donne), hast : last, haste : fast, haste : past, plac'd : last, tast : cast, wast : last, waste : fast(Herrick), grace : glasse, place : glasse, taste : fast, taste : last(2t), taste : re-past, taster : † Master(2t), wasted : blasted(Herbert), face : glasse(3t), hast : blast, hast : past, tast : Fast(4t), wast : blast(Crashaw), face : glasse(3t), face : pase, hast : blast, hast : cast, hast : fast, haste : cast, haste : fast, Taste : † Master, waste : blast(Lovelace), grace : was, place : was(Brome), haste : cast, haste : past(2t), plac'd : last, space : pass, tast : blast, tast : last, wasts : blasts(Vaughan), chaste : last, defac't : last, embrac't : laste, embrac't : last, face : Glass, face : glasse(2t), grace : glass, hast : fast, haste : fast(2t), haste : past, pace : Glass, plac't : fast, rac't : last, space : glass, taste : laste, waster : faster, Wasters : Mai-sters(Cotton), chast : past, chaste : fast, chast : last, embac'd : cast, face : Glass, face : grass, gaze : pass, grac't : last, Grace : pass, hast : cast(2t), hast : fast, hast : last(3t), hast : past (3t), hast-her : faster, haste : cast, haste : fast(2t), haste : last(2t), haste : past(6t), hasts : Masts, imbrac'd : last, imbrac'd : past, pace : grass, place : pass, taste : last, taste : past, tasted : lasted, waste : fast(3t)(Dryden1), case : pass, embrace : brass, face : glass, grace :

pass, haste : cast, haste : last, haste : past(5t), haste : repast, paste : aghast, place : pass, race : pass, taste : fast(2t), taste : last, taste : past, trac'd : past, unlac'd : cast, unlac'd : fast, waste : cast(2t), waste : past(Prior), debas'd : pass'd, Grace : pass, safe : Staff, Taste : cast, Taste : Last, Taste : pass'd, Taste : past(2t), wasted : fasted(Swift), defac'd : Blast, face : pass, Grace : Brass, hast : cast(3t), haste : Blast, Pace : Grass, Place : Grass, Race : Grass, Space : psss, Tast : Fast, Tast : Repast, Taste : last, Taste : past, waste : cast, Waste : Blast(Diaper), chas'd : pass'd, chaste : last, face : brass, face : glass(2t), grace : bras, haste : last, plac'd : last, plac'd : mast, place : glass, place : pass, race : grass, race : pass, safe : laugh, taste : last, taste : repast (2t), waste : past(Pope).

この種の脚韻は PE では 8a = [æ] : 5a = [ei] となり不完全韻であるが、EModE 期以降、詩人は 8a を持つ語と 5a を持つ語をしばしば押韻させている。16 世紀の詩人がある語(A)と他の語(B)を押韻させており、B 語には二つに異形 B-1 と B-2 が並存し、我々は B-1 しか知らず、詩人は B-2 のみを用いていたと仮定しよう。その時、我々は詩人の A : B-2 を不完全韻とか詩的許容によるものと考え、これらの脚韻を古音推定法に利用できないと片付けてしまうかもしれない。しかし、詩人が脚韻に用いているのは、我々がその存在に気付いていなかった B-2 という異形であり、その脚韻が当時としては完全韻であったことになる。一見したところ不完全と見える多く脚韻も、現代英語の成り立ちについての知識があれば、完全韻であることが判る。8a : 5a は、押韻している語の何れか一方に相手方の音韻を持つ異形が並存しており、つまり ME/a:/ の ME/a/ 異形か、ME/a/ の ME/a:/ 異形に依存するかのどちらかであり、何れにしても完全韻である。

] Dobson(1968², § 62)によると、1) 鼻音の前の ME/a/ を持つフランス語借用語には ME/au/ 異形が並存し、StE ではこの ME/au/ 異形が定着したが、この ME/au/ 異形は LME までに ME/a:/ に発達した。しかし、次の語には本来の ME/a/ も異形として、並存していた : ancient, angel, chamber, change, range, stranger.

2) Dobson(1968², § 6)によると、ME/a/ は開音節では長母音化して ME/a:/ となったが、EModE 期にはこの長母音化を免れた ME/a/ 異形が次の諸語に並存していた : able, ace, aged, argue, cage, chaste, dame, fable, favour, gage, grace, haste, James, labour, lace, mace, matron, misplace, nature, page, raging, sacred, savour, taste, waist, waste.

3) Dobson(1968², § 25)によると、behave, crave, gave, grave には短母音化による ME/a/ 異形が並存していた。但し、これは標準英語ではなく北部・東部方言に固有の現象である。

4) Kökeritz(1953, p. 165)によると、次の語にも ME/a/ 異形が並存していた : gate, grape, shade. 従って、8a : 5a の内、] の諸語との脚韻は ME/a/ に依存する完全韻であるかも知れない。ME/a:/ の ME/a/ 異形に依存するものには * を付す。

] Dobson(1968², § 6)によると, 1) ME/a/ は開音節では長母音化して ME/a:/ となったが, 今日この長母音化を免れて ME/a/ を持つ語の内, any, fat, father, majesty, master, rather には ME/a:/ 異形が並存していた。

2) Kökeritz(1953, pp. 164-5)によると, 次の ME/a/ を持つ語にも EModE 期には ME/a:/ 異形が並存していた: glad, mad, sad, small. 中世英語の形容詞の屈折語尾は -e であったので, sad-e は# __VCe #の音声環境を満たし, 形容詞は ME/a:/ 異形を持つことになった。

3) Dobson(1968², § 4)によると, have には強形の ME/a:/ 異形が並存していた。8a: 5a の内,] の諸語との脚韻は ME/a:/ に依存する完全韻であるかも知れない。ME/a/ の ME/a:/ 異形に依存するものには†を付す。

[f, s, θ] の前の ME/a/ が何時 [æ:] になったかは未だに開かれた問題である。Wyld(1936³, p. 204) はこの環境の ME/a/ は以下の発達過程を経たものと想定している。

[æ] (15 世紀末) > [æ:] (16 世紀末) > [a:] (17 世紀) > [ɑ:]

Kökeritz(1953, pp. 167-8)は [f, s, θ] の前の ME/a/ に長母音化が生じたのは ME/a/ が [æ] に変化した 1650 年以降であるとしている。しかし, 彼は Wyld 説の [æ] > [æ:] > [a:] は「余りにも短期間に余りにも多すぎる変化である」と言う理由で反対し, 今日 [ɑ:] は ME/a/ 前母音化しなかった方言音 (Bedford, Oxford) が標準英語に取って代わったものとしている。Dobson (1968², § 50)は自由位置の ME/a/ が前母音化したとき, [f, s, θ] の前の ME/a/ は ME の音価のまま残り, この [a] が 17 世紀後半に [a:] を経て, 更に [ɑ:] に後退したのとしている。Cooper が初めて長母音の証拠を提示している。16 世紀後半に [f, s, θ] 前の ME/a/ に [æ] ないし [æ:] が存在していたことに関しては 8a: 5a(past: waste), 8a: 6c(fast: feast), 8b: 5a(fast: waiste), 8b: 6a(fast: feast), 8b: 13a(path faith), 8h: 5a(wrath: scathe), 8h: 6c(wrath: breath) により証明される。一見したところでは, これらは当時 [f, s, θ] の前の ME/a/ に [æ] ないし [æ:] が存在していた決定的証拠のように見える。しかし, ME/a:/, ME/ε:/, ME/ai/ を持つ語, wrath には 16-7 世には短音が存在していた証拠があるので, これらの脚韻も [æ:] の確証にはならない。それどころか 8a: 6a, 8a: 5a, 8h: 5a, 8h: 6c は [æ] ないし [æ:] の類韻ではなく, 脚韻の本質及びこれらの脚韻が見出される地域性を考慮すれば, 方言音 [ε] 又は [e] に依存する完全韻である可能性が高くなる。1650 年以前に [f, s, θ] の前の ME/a/ に [æ] ないし [æ:] が存在していたという何らかの決定的な正音学者の証拠は勿論のこと脚韻, 臨時綴字からの証拠もない。

8. 3. 1. 3. 8d: 5a (ME/a/(長母音化): ME/a:/)

father: labor(Shakespeare), enhance: apace, father: bathe-her, rather: bathe-her, enhance: face(G. Fletcher), example: shameful(Butler), Chance: Embrace(Dryden2), trance: em-

brace(Prior), trance : race(Tickle), trance : place(Savage).

8d : 5a は PE では [a:] : [ei] の不完全韻であるが, EModE 期以降散見されている。

] Dobson(1968², § 6)によれば bathe に, Kökeritz(1953, p. 176)によれば face, embrace に ME/a/ 異形が並存している。更に OED によると, pace, race, shame にも ME/a/ 異形 (3-5 pas, 3-4 ras, 6 sham) が並存していた。従って, 8d : 5a は 5a を持つ語の ME/a/ 異形に依存する完全韻であるかも知れない。

] Dobson(1968², § 53)によれば father, rather には ME/a:/ 異形が並存していた。Wright (EDGr, § 202)は chance, dance に [ɛə] 或いは [e:] を示しているので, これらの語にも ME/a:/ 異形が並存していた。従って, 8d : 5a は 8d を持つ語の ME/a:/ に依存する完全韻であるかも知れない。Dobson(1968², § 53)によれば, father, rather 等の PE [a:] は __ [d] + [r] 環境で散発的に長母音化した結果であり, Prins(1972, § 4. 13. 2)によると, bath, path 等の [θ] に終わる語が使用頻度の高い father, rather に影響したものである。8d : 5a は押韻語の何れか一方に相手方の音韻を持つ異形が並存しており, 何れにしても完全韻である。

8. 3. 1. 4. 8a : 6a (ME/a/ : ME/ɛ:/)

fashion : † reason, passion : † season(Wyatt), *haue : sheaue(Spenser : Sc), stature : Creature, stature : creature, stature : feature(Spenser : Minor), *haue : receaue(Spenser2), stature : creature, stature : feature, *haue : leaue, *haue : reau(e)(Spenser4), *haue : leaue(Spenser5), *haue : leaue(Spenser6), *have : receive(Southwell), *have : conceive(5t), *haue : decaue, *have : deceave, *have : deceive(3t), *have : leave(13t), *have : reave(4t), *haue : receaue, *have : receive, *haue : receive, *have : receive(10t), backe : wreake, lacke : wreake(Stirling), *have : deceive, *have : leave, *have : receive(Drummond), stature : feature(Chalkhill), *have : leave(Bosworth), *have : leave(Butler), *have : bereave, *have-it : conceive-it, stature : feature, *had : plead, *have : receive(Hannay), *have : deceive, hap : leap(Hall), flatter : Creature, matter : Creature, Cap : heap(Wilmot), sate : treat(Moore), mass : increase(Addison), *have : receive, axe : speaks(Watts), *have : leave(Young), catch : † reach(Jenyms), sate : † treat(Moore), *have : leave(Cambridge), claret : bear-it(Cawthorn),

8b : 6a

pass'd : east, last : feast(Sprat), pass : ease(King), last : beast(Addison), brass : seas(Watts), cast : east, pass'd : east(Keats),

8a : 6a は PE では [æ:] : [i:] の不完全韻であるが, 当初想定していた以上に, EModE 期以降見出されている。

] Dobson(1968², § 4)によると, have は, 少なくとも, EModE 期には ME/a:/ 異形が並

存していた証拠がある。従って、have と 6a の脚韻は 5a : 6a = [e(:)] であるかも知れない (* を付す)。

] Dobson(1968², § 8)によると、reach, season, treat には ME/ε/ 異形が並存していた証拠があるので 8a とこれらの語との脚韻は 8a : 10a であるかも知れない (+印を付す)。

] Dobson (§§ 115, Notes 3, 7, 127)によると、creature, speak には ME/a:/ 異形が並存していた証拠があるので、8a と creature, speak の脚韻は 8a : 5a > 短母音化 > 8a 同士の脚韻となる。

] bear, encrease, feature, heap, leap に ME/ε/ 異形が並存していた正音学者の直接的証拠はないが、OED は ME/ε/ 異形(4-5 ber, 4-5 encresse, 4-6 geture, 3-5 hep, 4-lepe)を記録しているので、8a とこれらの語との脚韻も実際には 8a : 10a であるかも知れない。これらの脚韻が見出されるのは北部・Scotland・Kent 出身者であること、及びこれらの方言では ME/a:/, ME/ε:/ は短母音化されていることを考慮すれば、ME/a:/ : ME/ε:/ は [æ:] : [ε] 又は [e] の類韻ではなく、ME/a/ の方言音・異形 [ε] 又は [e] に依存す完全韻であろう。8a : 6a が見出される詩人では同時に 10a : 5a, 5a : 6a が見出され ME/a/, ME/a:/, ME/ε/ は [e] になっていたもので、8a : 6a は [e] に依存する完全韻である蓋然性が高くなる。

8b : 6a (fast : feast) = [æ:] : [ε:] は一見したところ、[f, s, θ] の前で ME/a/ > [æ:] に変化したことの証拠のように思われる。しかし、beast, east, feast に ME/ε/ 異形が在していたので 8b : 6a は実質 8a : 10a かもしれない。ease, sea に ME/ε/ 異形が並存していた正音学者の証拠はない。ease, seas と 8b の脚韻は ME/a/ が [f, s, θ] の前で [æ:] になった証拠となる。しかし、easy には ME/ε/ 異形が並存していた正音学者の証拠があるので ease にも ME/ε/ 異形が並存していた可能性が大である。ME/ε:/ を持つ語の多くは EModE 期には ME/ε/ 異形が並存していたので、類推により、sea に ME/ε/ 異形が並存していたこと充分に考えられる。8b : 6a は [æ:] : [ε:] の類韻ではなく、実質 8a : 10a かも知れず、ME/a/ が [f, s, θ] の前で [æ:] に長母音化した確証にはならない。

8. 3. 1. 5. 8a : 6c (ME/a/ : ME/ε:/ > ME/ε/)

glad : bestad, had : bestad, had : drad, sad : bestad (Wyatt), bestadde : gladde (Spenser : Sc), had : adrad, hath : death (Spenser : Minor), sate : ate, kest : brest (Spenser1), clad : drad, had : drad, sad : drad (Spenser2), bad : stad, bad : rad, glad : drad, had : bestad, had : drad, sad : frad (2t) (Spenser3), glad : bestad, had : bestad (2t), glad : rad (2t), had : rad (2t) (Spenser4), bad : bestad, had : bestad, sad : bestad (2t), bad : drad, glad : drad (3t), had : drad (2t), sad : drad (2t), bad : rad, sad : rad, bad : sprad, had : sprad (Spenser5), had : adrad, bad : bestad, forbad : bestad, had : bestad (3t), sad : bestad (2t), kest : brest, add : drad, glad : drad, had :

drad(2t), sad : drad, had : rad, sad : rad, clad : sprad, had : sprad(2t), sad : sprad(Spenser6), bad : dread, had : dread(Daniel), gathering : weathering(Drayton), shadow : meadow, Azure : pleasure(Drummond), hath : breath(Sucking), had : head(Whiting), gather : feather(Butler), sate : Sweat(Dryden3), gather : weather(Sheffield), gathers : Feathers(Swift), bad : head(Congreve), glad : head(Yalden), Shadows : Medows(Pope), gather : weather(Green), had : dead(King), hath : breath, hath : death, glad : spread(Thompson), mad : head, had : spread(Armstrong), clad : head(Gray), forbad : tread(Cambridge), cat : ate, haddead(Byron),

8b : 6c

kest : brest(Spenser2), Path : Death(2t)(Drummond), Fast : breast(Prior), last : breast(Rowe), past : breast(Beattie),

8h : 6c

Wrath : breath, Wrath : Death(5t), Wrath : death(Drummond),

8a : 6c は PE では [æ] : [e] の不完全韻であるが、当初想定していた以上に、EModE 期以降北・西部出身者に多く見出されている。

] OED によると、bestead, dread, read, spread には ME/a/ 異形 (bestadd 4-7, drad 4-6, rad 6, sprad 4) が並存していた証拠がある。従って、これらの語と ME/a/ との脚韻は ME /a/ 同士の視脚韻であるかも知れない。

] Spenser の cast の kest という臨時綴字が示しているように、cast には ME/ε/ 異形 (kes 3-7) が並存していた。gather にも ME/ε/ 異形 (gether 6) が並存していた。一方、Dobson (1968², § 30)によると、ME/ε:/ は [d, f, t, θ] の前でしばしば短母音化したので、cast, gather と 6c との脚韻は ME/ε/ 同士のものかも知れない。

] 8h : 6c は実質 8a : 10a となる。筆者は 8a : 10a は [æ] : [ε] の類韻ではなく、これらの脚韻が見出される詩人 Drummond の出身地を考慮すれば、ME/a/ の方言形・異形 [ε] 又は [e] に依存する完全韻である蓋然性が高くなる (8a : 10a 参照)。

8. 3. 1. 6. 8a : 6d (ME/a/ : ME/ε:/ > [ei])

back : break(Hall), crack : break(Sprat), sat : great(Duke), back : break(Granville), crack : break(Addison), crack : break(Pope), sat : great(Thompson), cat : great(Byron),

8a : 6d は PE では [æ] : [ei] の不完全韻であるが、EModE 期以降、北・西部出身者に散されている。

] OED によれば、break, great には ME/ε/ 異形(4 brek, grett 4-6)が並存していたので 8a : 6d は実質 8a : 10a かも知れない。

] OED は back, cat, crack, sat に ME/a/ 異形(5-7 backe, 4-6 catte, 6-7 cracke, 4-sate)が

並存していたことを記録している。従って、8a : 6d は ME/a:/ と ME/ε:/ の脚韻あるかも知れない。8a : 6d は押韻語の何れか一方に相手方の音韻を持つ異形が並存しており、何れにしても完全韻である。

8. 3. 1. 7. 8a : 8e (ME/a/ : ME/a/([w] ___)) 用例多数にて著名な数人の詩人の例を挙るに留める。
 can : swane, kant : want, las : was, man : wan, Pan : swane, ranne : wann, skant : want, skant : wantt, that : what(Wyatt), alas : was, Asse : was(2t), man : wan(3t), skant : want(3t) (Gascoigne), alas : was, flat : what, has : was(4t), ran : wan(Spenser1), catch : watche, lasse : was, matche : watche(Sidney), match : watch, scant : want(Shakespeare), alas : was(3t), catch'd : watch'd, dash : outwash, masse : was, Scant : want, that : what(3t) (Donne), Alas : 'twas, Alas : was(2t), Ant : want, at : what, can : Swan, catch-it : watch-it, hand : wand(2t), has : was, Lasse : was(2t), man : Swan, stand : wand(2t), that : what(4t) (Herrick), dash : wash, man : wan(2t), scant : want, that : what(Herbert), dash't : wash't(Crashaw), Barrells : Quarrels, dash'd : wash'd, fan : Wan, hand-her : wander(Lovelace), dasht : washt, man : wan, Mass : was (Marvell), alas : was, as : was, catch : watch(2t), has : was, hatch : watch(2t), man : wan(2t), thatch : watch(Vaughan), Land : Wand(Dryden1), Ant : want, Hand : wand, land : wand, scant : want, stand : wand, understand : wand(Dryden2), Ants : wants, Band : wand, began : Swan, hand : Wand(3t), Man : wan(Dryden3), began : wan, dispatch'd : overwatch'd, Hand : wand, Man : wan, Mass : was(Dryden4), ant : want, catch : watch, chat : what, man : swam, man : wan, mass : was, ran : swan, scant : want(Prior), descant : want, gallows : wallows, hand : wand, hands : wands, Hospitality : Quality, land : wand, Natch : watch, scratch : watch, stander : wander(Swift), hand : wand(2t), man : Swan, stand : wand, that : what, thatch : watch(Pope), despatch : watch, hatch : watch, land : wand, latch : watch, match : watch, ran : wan(Wordsworth), alas : was(6t), ants : wants, ass : was, batch : watch, chat : what, hand : wand, land : wand, match : watch(2t), pant : want, scant : want, that : what(2t) (Byron),

8b : 8e

pase : was(Wyatt), Grasse : was, passe : was(Turberville), brasse : was, glass : was, grasse : was, pass : was, passe : was(16t) (Gascoigne), brasse : was, glasse : was(Spenser-Sc), alas : was, bras : was(3t), glas : was(4t), gras : was(3t), mas : was, pas : was(15t), trespas : was (Spenser1), bras : was(2t), gras : was(2t), has : was, masse : was, pas : was(5t), pass : was (Spenser2), glas : was(3t), gras : was(2t), pas : was(8t), passe : was(Spenser3), bras : was, brasse : was, glasse : was(2t), gras : was, ouerpas : was, pas : was(8t) (Spenser4), pas : was (6t) (Spenser5), bras : was, glas : was, gras : was(2t), ouerpasse : was, pas : was(6t), pass :

was, passe : was(6t) (Spenser6), glasse : was, grasse : was(2t), pas : was, passe : was(5t) (Sidney), passe : was(2t) (Lyly), glas : was, was : glass, was : pas(13t), pass : was(3t), passe : was(11t) (Warner), glass : was(Southwell), glass : was, pass : was(14t) (Daniel), claspe : was-pe, glasse : was(4t), graspe : waspe, grasse : was, lasse : was, pass : was(2t), passe : was(5t) (Drayton), glass : was(2t), grass : was, pass : was(2t) (Shakespeare), glasse : was(3t), pass : was, passe : was(3t) (Marlow), grass : was, pass : was(6t) (Davies), glasse : was(4t), grasse : was(2t), passe : 'twas, passe : was(12t) (Donne), brasse : was, Glasse : was(2t), passe : was (Jonson), glass : was(4t), passe : was(2t) (Stirling), glas : was(Marston), pas : was, pase : was(3t) (Corbet), glass : was(P. Fletcher), passe : was(J. Beaumont), glass : was, glasse : was, passe : was(F. Beaumont), glass : was(2t), was : grass, was : pass(3t) (G. Fletcher), glass : was(2t), pass : was(4t) (Kynaston), brass : was(2t), pass : was(Ford), Glass : was(4t), glass : was(3t), pass : was(3t) (Drummond), glasse : was, passe : was(4t), passe : wash(Browne), Brasse : was(2t), glasse : was(6t), grasse : was, pass : was, passe : was(4t) (Herrick), grant : want, pass : was(King), glasse : was(2t), passe : was(3t) (Herbert), pass : was(3t) (Chalkhill), pass : was(2t) (Marnion), last : wast, pass : was(2t), past : wast(Benlowes), was : glass (Waller), brass : was, glass : was(7t), grass : was(2t), pass : was(3t) (Whiting), glass : was (Suckling), pass : was(Milton), glass : was, overpass : was, pass : was(4t) (Bosworth), glass : was(3t) (Cartwright), bras : was, grass : was, pass : was(Butler), glasse : was, passe : was (Crashaw), pass : was(3t) (Denham), glass : was, pass : was(2t), passe : was(Lovelace), was : glass, was : pass(3t) (Cowley), Glasse : was, Grass : was(3t), pass : was(Marvell), can't : want, glass : was(2t), pass : was(Brome), chant : want, grass : was, pass : was(5t) (Hannay), glasse : was, grass : was, pass : was, passe : was(2t) (Vaughan), pass : was(Hall), brass : was, Glass : was(2t), glass : was(2t), pass : was(Cotton), pass : was(Dryden1), Glass : was(2t), pass : was(2t) (Dryden2), pass : was(Dryden3), was : pass(2t) (Dryden4), mass : was(Sprat), pass : was(Halifax), pass : was(Walsh), pass : was(Pomfret), pass : was(Rowe), was : glas (Fenton), glass : was, pass : was(Gay), pass : was(Pope), class : was, last : was't, pass : was(5t) (Byrom), command : wand(Thompson), glass : was(Boyse), brass : was(W. Thompson), class : was, grass : was, pass : was(5t) (Byron), asp : wasp, grasp : wasp, grass : was(2t), pass : was(4t) (Keats),

8d : 8e

plant : want(Wyatt), plant : want(Gascoigne), answered : wandered(Spenser3), granteth : wanteth, graunt : want, plant : want(3t), planteth : wanteth(Sidney), grant : want(Daniel), grant : want, granted : wanted(2t), plant : want, planted : wanted(Drayton), plants : wants

(Marlow), command : wand, enchanting : wanting(Campion), grant : want(Jonson), enchaunts : wants, grant : want, supplant : want(2t)(Stirling), plant : want, plants : wants(Herbert), grant : want(Marmion), want : plant(Davenant), grant : want, plant : want, supplant : want(Bosworth), enchant : want, supplant : want(Butler), grant : want(Cleveland), grant : want(Cleveland), grant : want, plant : want, plants : wants(Denham), plant : wont(Lovelace), plants : wants(Chamberlain), command : wand(2t), Plant : want, Plants : wants(Marvell), grant : want, granted : wanted(Hannay), Plant : want(Vaughan), granted : wanted, Plant : want(Cotton), Grants : Wants(2t)(Dryden1), grant : want(5t), granting : wanting, grants : wants(Dryden3), Command : Wand, Grant : Want(4t)(Dryden4), grant : want(Wilmot), granted : wanted(Carey), grant : want(Hammond), grants : want(3t), grants : wants(Blackmore), command : wand(Garth), command : wands, grant : want, plant : want(King), granted : wanted, grants : wants, plant : want, planted : wanted, planting : wanting(Prior), grant : want(Granville), wand : command, want : grant(Pomfret), grant : want(2t)(Swift), plant : want(Congreve), want : grant(Yalden), wand : command(Hughes), command : wand, grant : want(3t)(Parnell), grant : want(Fenton), commands : wands, Plants : wants(Diaper), aunts : wants, panting : wanting, unplanted : wanted(Gay), grant : want(10t), plant : want(Byrom), command : wanf(Pitt), command : wand(Thompson), grant : want(Savage), granted : wanted(Jenyms), grant : want, plants : wants(Hamilton), grant : want(2t), grants : wants(2t), planting : wanting(Harte), grant : want(Boyse), command : wand, grant : want, planted : wanted(W. Whitehead), grant : want(Wilkie), chanting : wanting(Blacklock), grant : want(2t), granting : wanting(Smart), command : wand(Mason), grant : want, want : plant, wants : plants(Cowper), command : wand(Lloyd), command : wand(Mickle), command : wand(Jones), grant : want(3t)(Crabbe), grant : want(Byron),

8a : 8e, 8b : 8e, 8d : 8e は PE では [æ] : [ɔ] の不完全韻であるが、EModE 期以降豊富に見出されている。8a : 8e, 8b : 8e, 8d : 8e は押韻語が同じ母音であることを示すだけで、それ以上のことは示さない。17 世紀半ばまでの詩人は明らかに wand : hand, warm : harm 等が日常の発音から押韻しなくなっても詩的伝統により、使い続けている。これが所謂伝統的脚韻である。唯、忘れてならないことはこれらの脚韻はかつては完全韻であったということである。一方、war : for ; sore はそれらが今日と同様当時においても完全韻であっても綴字が違うという理由で避けている。EModE 期に PE の発音からすれば一見不完全韻と思われる wand : hand が多く、完全韻と思われる war : for が少ないのはこの理由のためである。want, warrant, was, etc. の PE [ɔ] は ME/a/ が [w] の後で円唇化を起こしたものである。Dobson(1968², § 194)によると、16 世紀の正音学者は誰も [w] の ME/a/ に及ぶ円唇化の影響を示しておらず、Robinson(1619)

が初めて [w] __C (C [g, k, ŋ]) で ME/a/ = [a] > [ɔ] を示している。17 世紀半ばには hand : wand 等は伝統的脚韻になっていた可能性が大である。

8. 3. 1. 8. 8a : 9a (ME/a/ : ME/i/)

gether : hether (Spenser-Sc), geather : thether (Spenser-Minor), gather : thither (2t) (Drayton),

8d : 9a

father : hither (Shakespeare), France : prince (Watts).

8a : 9a, 8d : 9a は PE ではそれぞれ [æ] : [i], [a:] : [i] の不完全韻であるが, EModE 期以降, 稀ではあるが, 見出されている。Spenser の脚韻が示しているように gather には ME /ε/ 異形 (3-5 gether) が並存していたので, Spenser からのものは e に依存する視脚韻ある。Kökeritz (1953, p. 187)によると, hither, thither には ME/ε/ 異形が並存していた。従って, 8a : 9a は gather の ME/ε/ 異形と hither, thither の ME/ε/ 異形に依存する完全韻となる。father は EModE 期以降 1) ME/a/ を持つ語 (father : rather : gather), 2) ME/a:/ を持つ語 (father : labour), 3) ME/i/ を持つ語 (father : hither) と押韻している。1)は ME/a/ に, 2)は ME/a:/ を持つ語の ME/a/ 異形に, 3)は hither の ME/ε/ 異形に依存する脚韻となる。Dobson (1968², § 6)によると, Levins, Smith, Bullokar は father に ME/a/, Robinson, Hodges は ME/a:/, Hart, Gil は ME/a/, ME/a:/ の両形を示している。我々は father : hither = ME/a/ : ME/ε/ = [æ] : [ε] の類韻ではなく, ME/a/ の方言音 [e] (father, gather の ME/ε/ 異形 (1-3 fether, 6 gether < OE gæderian) と hither の ME/ε/ 異形) に存する完全韻であると考えている (Dobson, 1968², § 80)。Kökeritz (1953, p. 169)は Shakespeare に見出される father : hither を, hither は通常 /ε/ と発音されているところから, [e:] : [e] に依存するものと見なし, Shakespeare は father に少なくとも二つの音 (一つは [æ:] 又は [a:], もう一つは今日尚 Warwickshire で行われている [e:]) を知っていたと想定している。France : prince も prince の方言及び卑俗な言葉での ME/i/ > 低音化 > ME/ε/ 異形 (6 Sc. prence) に依存する完全韻であろう。

8. 3. 1. 9. 8a : 10a (ME/a/ : ME/ε/)

ban : † then (2t), began : † then, began : † whan, can : † then (2t), can : † whan, *kest : best, *kest : rest, man : † then (3t), man : † whan, † than : † whan (Wyatt), had : † lad, *kest : rest, *kest : west, sad : † lad (Spenser1), bad : † bestad, had : † bestad, had : † lad, mad : † bestad, mad : † lad, plesh : flesh, plesh : flesh, sad : † lad (Spenser 2), bad : † bestad, clad : † lad, flex : sex, had : † bestad, *ketch : fetch, mad : † bestad, sad : † lad, *thresh : flesh, *thresh : fresh, *wex : sex (Spenser3), glad : † lad, had : † lad (2t), sad : † lad, *wexe : annexe, *wexe : sexe,

*wext : annext, *wext : next(Spenser4), gan : † than, had : † lad(Spenser5), bad : † lad, had : † lad, *kest : chest, *kest : drest, sad : † lad(Spenser6), action : affection(Raleigh), can : *when(Sidney), man : *then(Lyly), *back : † wreck(3t), began : † then, cracks : checks, had : † led, lack : † wreck(3t), match : fetch, sad : † led(Daniel), gather : † together(Drayton), *back : neck, scratch : † wretch(Shakespeare), *back : neck, scratch : † wretch(Shakespeare), man : † then, man : † when(Donne), clad : bred, clad : fed(Stirling), gather : † together(P. Fletcher), Ample : Temple, Gallows : fellows, hatch : † wretch(Drummond), apparant : † errant(Ford), *gather : whether(Brown), action : perfection(2t), actions : perfections(Herbert), snatch : *ketch(Chalkhill), detract : affect, detract : respect(Habington), hand : bend(Bosworth), passion : impression(Godolphin), passion : digression(Cartwright), *catch-them : fetch-them, hatched : † wretched, *than : men(Butler), Lass : messe, Man : † when(Lovelace), began : † then, man : † then(Cowley), *than : pen(Sherburne), *than : men, *than : † when(2t)(Chamberlain), *catch-for't : fetch-for't, *catch-for't : stretch-for't(Brome), black : deck, clad : bed(2t), clad : led, had : bed, had : wed(2t), Master : gesture, sad : wed(Hannay), man : † then, *back : † wreck, black : wreck(Dryden1), *back'd : neck'd(Dryden2), band : defend, hand : defend, land : defend, stand : defend(Sprat), hand : comprehend, that : yet(Flatman), *catch : † Wretch(Wilmot), chant : vent(Smith), back : † wreck(Garth), matter : better(King), bladder : † together, claret : merit, gallows : fellows(Prior), hand : bend, hand : intend(Granville), *gathering : Brethren(Swift), bad : bed, haft : left, Japan : † then(Congreve), bass : bless, rags : begs(Watts), chat : met(Sommerville), gallows : fellows, stands : amends(Hamilton), *gather : feather, *gathers : feathers(Brooke), plann'd : ascent(Armstrong), barren : averring, man : † then(Cambridge), clad : † led(Wilkie), clad : † led(Mickle), glad : bed, passion : oppression(Beattie), had : led, palfrey : belfry(Byron),

8b : 10a

*kest : exprest, *kest : wrest(Spenser2), *ouerkest : opprest, *ouerkest : rest(Spenser3), cast : creast, fast : creast, last : creast(Spenser4), *cast : wrast, fast : wrast(Spenser5), haft : left(Waller), craft : bereft(Denham), glass : dress(Lovelace), last : guessed, last : request, past : behest, past : blest, past : repossest(Hannay), lasting : Blessing(Dryden2), last : blest(Walsh), fast : best(Prior), glass : dress, pass : guess(Swift), fast : best(Yalden), glass : press, past : rest(Addison), past : drest(Watts), pass : guess, pass : unless, repast : rest(Armstrong), blast : vest(2t)(Smollett), last : opprest(Beattie),

8d : 10a

rather : † together(Drayton), rather : † together(Suckling), chance : offence, trance : sense

(Hannay), commanded : ended(Cotton), Chance : Sense(Dryden1), stanch : French(Prior),
dance : offence, dance : sense(2t), France : sense(Granville), answer : men-Sir, rather : † together(Swift), rather : † together(Churchill), rather : † together(Byron),

8e : 10a

quarrell : perill(Drayton), warrant : † errant(Ford), quarrel : peril, warrant : † errant(3t),
watches : † wretches(Butler), wassail : vessel(Brome), want : content(Hannay) warrant : †
errant(King), warrant : † errand, warrant : † errant, warrants : † errands, watches : fetches
(Prior), want : repent(Dodsley), swallow : † yellow(Armstrong), wand : attend(J. Warton),

8h : 10a

Walles : tells(Drummond),

8a : 10a, 8b : 10a, 8d : 10a, 8e : 10a, 8h : 10a は EModE 期以降, 当初想定していた以上に, Scotland・東部・北部・西部出身の詩人に見出されている。ME/a/ と ME/ε/ の脚韻は全部で 158 例見出されているが, 1650 年以前では 132 例 (83.5%), 1650 年以降では 26 例 (16%) 見出され, その殆どが StE で ME/a/ が [æ] に高母音化されていないと思われる時期に ME/a/ と ME/ε/ との脚韻が見出されていることになる。1650 年以前の詩人で ME/a/ と ME/ε/脚韻が Wyatt (Kent [14]), Spenser [38], Daniel(Somerset [11]), Shakespeare [2], Donne(London [2]), Stirling(Scotland [2]), Drummond(Scotland [3]), Herbert(Wiltshir [3]), Butler(Worcestershire [3]), Habington(Worcestershire [2]), Lovelace(Kent [2]), Cowley(London [2]), Chamberlayne(Dorsetshire [3]), Brome(? [2]), Hannay(Scotland [9]), Cotton(Stafford [3]), Dryden(Northamptonshire [4]), Sprat(Devonshir [4]), Flatman(London [2]) に [] 内で示された数だけ見出され, 1650 年以降の詩人で ME/a/ と ME/ε/ の脚韻が Garth(Yorkshire [1]), King(London [1]), Prior(Dorsetshire [3]), Granville(Devonshire [2]), swift(Dublin [1]), Congreve(Yorkshire [3]), Smith(Worcestershire [1]), Somerville(Gloucestershire [1]), Thomson (Scotland [1]), Hamilton(Scotland [2]), Armstrong(Scotland [1]), Cambridge(London [2]), WilKie(Scotland [1]), Goldsmith(Ireland [1]), Mickle(Scotland [1]), Beattle(Scotland [2]), Byron(Londo [2]) で見出されている。ME/a/ と ME/ε/ の脚韻はある時期が過ぎると多く見出されるというものではなく, 特に Scotland・北・西部出身者に多く見られるというのが特色になってる。8a : 10a が見出される詩人では同時に 8a : 6a も見出されているという共通点がある。しかも, 8a : 10a が見出される詩人では同時に 10a : 5a も見出され, ME/ε/ = ME/a:/ = [e] であるという事実が浮上してきた。Dobson(1968², § 59 Notes 2, 3, § 70)によると,

[] ME/a/ を持つ語にはいろいろな起源に遡る ME/ε/ 異形が並存しており, 少なくとも, EModE 期には次の諸語に ME/ε/ 異形が並存していた。

a) adder, catch, fathom, mass, sadness, than, Thanet, wash には OE/æ/, OE/ea/ に由来

する ME/ε/ 異形が並存していた。

b) OED によると thrash にも ME/ε/ 異形が並存していた。thrash は ME 期に thrash, thresh 二つの異形が並存しており、歴史的には thresh の方が古い形だが、15 世紀に方言形の thrash が 16 世紀末に文語に入り、17 世紀に「打ち砕く」の意味で確立した語である。

更に、c) Wright(1905, § 23)によると、after は Lincolonshire, cap は Scotland, Devonshirer, Kent, cat は Kent で [e] と発音されることが示されている。

d) Cercignani(1981, p. 100)によると、back, father にも ME/ε/ 異形 (< Mercian, Kentish ME/ε/) が並存していた。

従って、8a:10a の内、] の諸語と 10a との脚韻は ME/ε/ に依存するものかも知れない (印を付す)。

e) bachelor, charity, January, jasper, gallon, rank, satisfy, salaly, tragedy は OF/ε/ に由来する ME 異形が並存していた (Dobson, 1968², § 59 Notes 2, 3,.)。

f) OED によると、ravish, sack に ME/ε/ 異形 (5 revyssh, 4-5 sekke) が並存していた。しかし、今回の調査では e, f) と ME/ε/ との脚韻は見出されなかった。

] Dobson(1968², § 59 Notes 2, 3, § 87)によると、次の ME/ε/ を持つ語には、少なくとも、EModE 期には ME/a/ 異形が並存していた。

a) EModE 期に any (< OE ænig) には OE/æ:/ が LOE に OE/a/ への短母音化に由来する ME/a/ 異形が並存していた。many にも any の類推で ME/a/ 異形が並存していた。

b) check, together にも ME/a/ 異形が並存していた。

c) yellow は北部方言で ME/a/ 異形 (4-6 yalow) が並存していた。

d) Kökeritz(1953, P. 185)によると、次の諸語にも、少なくとも EModE 期には ME/a/異形 (= 二重語) が並存していた: embassy, errand, melancholy, wreck, wrestler, wretch.

e) OED は led, then, when に ME/a/ 異形が並存していたことを示している。then は元来は than と同一語であり、ME に二つの異形 thanne, thenne が並存しており、分化は 1700 年頃に確立した語である。when も ME に二つの異形 whanne (< OE hwænne), whenne (< OE hwenne) が並存していた。従って、8a:10a の内、] の諸語と ME/a/ との脚韻は ME/a/ 同士の脚韻であるかも知れない (+ を付す)。およそどの国の首都でもその住民の相当数は地方住民によって占められており、首都では色々な方言が飛び交っていたはずである。EModE 期のロンドンは今以上に各地の方言が入り乱れており、詩人に見出される ME/a/ と ME/ε/ の脚韻が 1 個や 2 個の場合には、ME/a/ がいち早く前母音化した方言の発音に依存させたものと見るのが妥当であろう。1650 年以前に見出される ME/a/ と ME/ε/ の脚韻はその殆どが異形に依存するものであり、特に北部・Scotland・Kent 出身者にあってはその傾向が強い。押韻率も極めて低く、適切な押韻語がない場合に、異形による発音を利用しているという程度のものである。異

形に依存しない ME/a/ と ME/ɛ/ の脚韻が初めて Herbert に見出されている。彼は Cambridge を卒業するが、Salisbury 近くの Bemerton 村の牧師として余生を送っているの、彼のものも確証にはならない。1650 年以降の詩人でも ME/a/ と ME/ɛ/ の脚韻が見出されるが、ME/a/ と ME/ɛ/ の脚韻の相対的頻度は 1650 年以前とは逆で、低くなっている。これは 1650 年以降になると、ME/a/ = [æ], ME/ɛ/ = [e] が確立し、両者の母音の開きが大きくなり、詩人は両者を押韻させるのを躊躇したためである。Wyld(1936³, p. 133), Kökeritz(1953, p. 164) は ME/a/ と ME/ɛ/ の脚韻を [æ] : [ɛ] の類韻と見なし、ME/a/ の [æ] への前母音化の証拠としている。脚韻とは強勢ある音節以下の母音が同じであるという脚韻の性質、及びこれらの脚韻が見出されるのは北部・西部・Scotland・Kent 出身者であり、これらの地域では、ME/a/ は [ɛ] 又は [e] と発音されていることを考慮し、筆者は 8a : 10a は [ɛ] : [æ] の類韻ではなく、ME/a/ の方言形・異形 [ɛ] 又は [e] に依存する完全韻であると考えている。標準英語での ME/a/ と ME/ɛ/ の脚韻は少なく、見出されたとしてもそれらは方言音又は卑俗な発音に依存するものである。8a : 10a が見出される詩人では同時 10a : 5a が見出され、ME/a:/, ME/ɛ/ は [e] になっていたの、8a : 10a は方言音 [e] に存する完全韻である蓋然性が高くなる。Dobson (1968², § 72)によると、ME/ɛ/ は緩んだ [ɛ] であり、Cooper(1685) は ME/a:/ (= [ɛ:]) を短くした音と記述し、更にドイツ語の短い e と等価であるが、フランス語では稀であるとしている。少なくとも、Cooper の頃まで ME/ɛ = [ɛ] を保持していたと考えられるが、何時今日の [e] になったかは不明である。Kökeritz(1953, p. 185) は ME/ɛ/ はエリザベス朝では既に [e] になっていたとしている。しかし、根拠は何も挙げていない。ME/a/ と ME/ɛ/ の発達過程の相関関係は次のようなものであろう。

	1550	1600	1650	1700
ME/a/ = [a]	[a]	[a] > [æ]	[æ]	[æ]
ME/ɛ/ = [ɛ]	[ɛ]	[ɛ]	[e]	[e]

8. 3. 1. 10. 8a : 11a (ME/a/ : ME/ɔ/)

*bronds : fonds, can : an, *honds : fonds, *lond : bond, *man : an, *stond : bond, than : an, that : not(2t) (Wyatt), arrowe : sorrowe, *honde : fonde(Spenser : Sc), banner : dishonor, banner : honor, banner : vpon-her, batt : hott, bat : lott, *hond : cond, *sprong : long, *sprong : song(Spenser : Minor), *hond : yond, *begon : gon(Spenser2), *hand : fond, *hond : fond, *hond : pond, *hond : yond, *Strond : pond, *strond : yond, that : †gat, *vnderstond : pond, *withstond : fond(2t) (Spenser3), *dallie : follie, *dallie : iollie, *hond : bond, *lond : bond, *stond : bond, *withstond : bond(Spenser4), *bond : fond, *hand : band, *hond : beyond, *hond : fond,

*rong : alone, *rong : throng, *song : along, *song : throng, *stand : band, *stond : beyond, *strond : fond, *withstand : band, *withstond : bond(Spenser5), baner : dishonor, baner : on-her, *hand : band, maner : dishonor, maner : on-her(Spenser6), *forbod : † god, *for-bodd : odd(Warner), *land : beyond, *man : thereon, *stand : beyond(3t), that : † gat, *understand : beyond(Daniel), halow : follow(Drayton), *dally : folly, *hallow : follow(Shakespeare), am : † Tom, crab : † bob, *dally : folly, *hallow : follow, *man : on(2t), pap : † hop(Shakespeare), that : not(Donne), Addle : Noddle(Corbet), arrows : sorrows(F. Beaumont), *hallow'd : follow'd, *land : beyond, *lond : fond(Brown), narrow : sorow, marry : for-ye(Butler), narnrow : sorow, wrapped : dropped(Lovelace), *strond : beyond(Chamberlain), Addle : Nod-dle(Dryden 2), *began : on(Dryden4), happy : Copy(Flatman), ran : on(Wilmot), that : † got(Otway), *man : anon(Swift), lass : † cross(Smart), *hallo' : follow(Cowper), *bland : beyond, *hand : beyond, what : sot(Keats),

8d : 11a

demand : band(Spenser6),

8b : 11a

laugh : thereof(Bosworth), laugh'd : scoff'd(Phillips), laugh : off(Flatman), grass : moss(Addison), laugh : off(Dodsley).

この種の脚韻は PE では 8a = [æ] : 11a = [ɔ] となり不完全韻であるが, EModE 期以降, 見出されている。ME/a/ と ME/ɔ/ の脚韻は全部で 99 例見出されているが, 1650 年以前では 92 例 (93%), 1650 年以降では 7 例 (7%) 見出され, その殆どが ME/a/ が [a] であったと思われる時期に ME/a/ と ME/ɔ/ との脚韻が見出されていることになる。1650 年以前の詩人で ME/a/ と ME/ɔ/ 脚韻が Wyatt(Kent [9]), Spenser ([38]), Warner(Oxfordshire [2]), Daniel(Somerset [7]), Shakespeare ([7]), Browne(Devonshire [3]), Butler(Worcestershire [2]), Lovelace(Kent [2]), Dryden(Northamptonshire [2]), Flatman(London [2]) で [] 内の数字で示された数だけ見出され, 1650 年以降の詩人では ME/a/ と ME/ɔ/ の脚韻が Swift(Dublin [2]), Smart(Kent [1]), Cowper(Hertfordshire [1]), Keats(London [3]) に見出されているに過ぎない。ME /a/ と ME/ɔ/ の脚韻は EModE 期に集中しており, 特に北・西部出身者に多く見られるというのが特色になっている。筆者は 1650 年頃 ME/a/ = [æ], ME/ɔ/ = [ɔ] が確立したと想定してるので, 17 世紀後半のものは伝統的脚韻である公算が大である。Dobson(1968², §71)によると,

[] a) -nd, ng の前の ME/a/ には, LOE/a:/>/ɔ:/>/ɔ/ の過程を経た ME/ɔ/ が並存し, 少なくとも, EModE 期には band, brand, hand, hang, stand, stamp に ME/ɔ/ 異形が並存していた。

b) OED は bid, ring, sing, spring の過去形には ME/ɔ/ 異形 (bod 6-7, rond 3-6, song 4-7, sprong 4-7) が並存していたことを示している。しかも, hand, land 等は今日 Warwickshire では [ɔ] と発音されていることを考えれば, 8a : 11a は [ɔ] に依存する完全韻である蓋然性が高くなる (ME/a/ の ME/ɔ/ 異形に依存するものには * 印を付す)。

c) Kökeritz(1953, pp. 165-6)によれば, 鼻音の前の thank, man と dally にも, 又, 少なくとも, EModE 期には chap, hallow, tadpole, tassel, tatter にも ME/ɔ/ を持つ二重語が並存していた。従って,] の諸語と ME/ɔ/ の脚韻は ME/ɔ/ 同士のものかも知れない。

] ME/ɔ/ は StE では無変化のまま保持されたが, EModE 期のある一時期, [ɔ] > [a] が西・南西部・南部・ロンドン近郊の諸方言, 更にはロンドン英語にも生起した。EModE 期にこの方言形が StE に入り, 16-7 世紀には一種の流行音としてかなり広く行われていた。この ME/a/ 異形は StE ではその後廃用に帰したが, plot, strop には ME/a/ 異形が並存していた。この種の発音は既に The Life of St. Editha (1420) という Wiltshire の詩に見られる。この詩では storm の代わりに starm が用いられており, この種の発音は現在でも南西部・南西中部方言の日常会話に普通に見られるものである。何故この発音が本来それが行われてた地域を越えて, 他の地域に広がっていったかに関しては十分な説明を与えることは出来ない。しかし, 臨時綴字, 文法家の所説はこの型の発音が一時は全ての階級でかなり広く用いられていたことを示している。又, Vanbrugh の Relapse にはこの型の発音が気取り屋の間に広まっているきざな発音として, 嘲りのやり玉に挙げられている。Kökeritz(1953, p. 224)によれば, bob, doffed, folly, hop, Tom には方言に由来する ME/a/ 異形が並存し, 又, Wright(1905, §§ 82-3)によると, cross は Kent, Devon, Dorset で, crop は Devon, Dorset で, clot は Devon で [a] と発音されていることが示されている。OED によると, drop, got, hot, on には ME/a/ 異形(5 drap, 3- gat, 2-4 hat, 1-5 an)が並存していたことが示されている。従って,] の諸語と ME/a/ の脚韻は ME/a/ 同士のものかも知れない。ME/ɔ/ の ME /a/ 異形に依存するものには † 印を付す。ME/ɔ/ の ME/a/ 異形に依存する 8a : 11a のは少ないけれど, これらの脚韻が Spenser, Shakespeare, Donne, Dryden という著名な人の作品の中に見出されている。このことはこれらの脚韻が完全韻であり, 当時一般に行われていた発音が忠実に脚韻の中に反映されているという点で注目し得る。更に Dobson(1968², § 98 Note 3)によると, 南部・南西部方言では ME/ɔ/ を ME/a/ で綴った地名(Balnherst(Bolnhurst) 1202, Claphull(Clophill) 1287 --- Bedfordshire, Talington (Tolling-ton) 1336 --- Middlesex, Wakenden(Ockendon) 1272, Bakkyng(Bocking) 1272 --- Essex) が存在している。これも ME/ɔ/ > ME/a/ の傍証となろう。Dobson(1968², § 87) によると, 正音学者の ME/ɔ/ と ME/a/ の同一視の証拠はしばしば不注意な言葉を記述した同音語表に見れるぐらいで, 教育のある人々の言葉では生じていない。同音語以外の証拠は 1) 卑語又は方言に依存している Bullokar の脚韻, 2) 北部人 Poole の脚韻表(orb : barb, torch : arch),

3) Gil が Mopsa の発音を東部諸方言の発音と比較し, scholars を skalers と発音するのは気取った発音であると揶揄している文書の中においてだけである。8a : 11a は ME/a/ の ME/ɔ/ 異形か, ME/ɔ/ の ME/a/ 異形に依存するかのどちらかであり, 何れにしても完全である。

8b : 11a は laugh の ME/au/ > ME/a/ > ME/ɔ/ 異形 (loffe 6) に依存するものである。laugh PE [a:] は ME/au/ が [x] > [f] の後で, 15-6 世紀に短母音化され, 17 世紀に無声摩擦音の前で長母音化されたことに由来する。Shakespeare (MND 2. 1. 55) には laugh の過去形 loff 異形が見られる。grass : moss も多分 moss の方言での ME/ɔ/ > ME/a/ 異形に依存するものであろう。

8. 3. 1. 11. 8c : 11c (ME/a/r : ME/ɔ/ [r])

armd : deformd (Spenser2), alarmes : stormes, armes : stormes, harmes : stormes (Spenser6), arme : storme, armes : stormes (Spenser-Minor), charm'd : transform'd (Drayton), heart : short (Shakespeare), farther : Order (Campion), barne : corne (Browne), harm : storm (Herbert), alarm : inform, alarm'd : storm'd, arm : storm (2t), arm'd : storm'd, arms : performs, arse : horse, arses : horses, art : fort, bargown : organ, barn : corn, charge : forge, chariot : for-it (2t), enlarged : forged, garden : ordain, harm : form, stars : horse, target : gorget, unarm'd : storm'd (Butler), Armes : stormes, Art : sport (Crashaw), Alarm : form, Alarm : storm, harme : storme (Lovelace), harms : storms (Brome), art : sport, Barn : Corn (Vaughan), dart : short, harm : storm (3t) (Phillips), Arms : Storms (Dryden2), harm : storm (Flatman), Arms : performs (Wilmot), disarm'd : perform'd (Otway), arm : form (Duke), charms : forms (Walsh), charm : form (Prior), charms : forms (3t), regard : Lord (Watts), alarms : storms, arm : form, garters : porters (Sommerville), charm : storm (Young), charms : forms (Boyse), arm : form (P. Whitehead), charm : form (W. Whitehead), charmer : reformer (Cambridge), bar : for (Byron), charts : form (3t) (Shelley), charm : form (2t), harm : form (Keats).

この種の脚韻は PE では 8a = [a:] : 11a = [ɔ:] となり不完全韻であるが, EModE 期以降, 見出されている。これらは, 8a : 11a 同様, [r] の前でも, EModE 期のある一時期, 西部・南西部・南部・ロンドン近郊の諸方言, 更にはロンドン英語で生じた ME/ɔ/ の ME/a/ への平唇化に依存するものである。[ɔ] > [a] は既に ME 期に 1) ___c(c) の環境で 13 世紀に一部の方言で生起した (crass(cros), starm(storm), stap(stop)), 2) ___[m, n, ŋ] (c) の環境で 1400 年頃 [a] (<OE a) と [ɔ] (<ME/ɔ:/<OE/a:/) の間で揺れた (begon > began, lond > land; Eng-lond > England : band, hand, hang, stand; cram, ham) が, 標準英語では 15 世紀に [ɔ] > [a] の前舌化が始まる。特に南西部では 15-6 世紀でも [ɔ] が圧倒しており, 他の地域で [ɔ] と [a] の揺れが生じ, その一部が EModE 期に標準英語に入り込んだ。

8. 3. 1. 12. 8c: 10b (ME/a/r: ME/ε/r)

artt: *desartt, depert: *convert, depert: *desert, depert: *desert, harme: discerne, hart: *desert, hert: *conuert, hert: *convert(2t), hert: *desert(4t), hert: pervert, hert: revert(2t), herte: *deserte(2t), hertes: *convertes, hertes: *desertes, part: *desart(2t), part: *desert(2t), parte: *deserte, partes: *desertes, smart: *conuert, smart: *desart, smartes: *desertes, smert: *desert, starve: deserve, starve: *serue, stertes: *convertes, sterue: *serue(2t), sterue: *swarue, sterve: reserve(Wyatt), Art: *conuart, Art: *conuert, Art: subvart, depart: *conuart, depart: subvart, hart: *conuert, hart: *desart, hart: reuart, part: *desart(2t), smart: *conuart, sterue: *serue, sterues: *serues(Turverville), regard: *heard(Spenser1), art: *desart(2t), harts: *desarts, part: *desart, parts: *desarts, smarts: *desarts, sterue: *serue(Spenser2), apart: *conuert, bard: transfard, dart: *desart, dart: peruart, depart: *conuart, gard: *hard, hard: prefard, hart: peruart, part: *conuart, regard: *prefard, smart: *desart, smart: peruart(Spenser3), art: reuert, depart: reuert, hard: *heard, hart: *desart, hart: reuert, kerue: deserue, kerue: *serue, part: *desart, regard: *hard, sterue: *deserue, sterue: *serue(2t)(Spenser4), dart: *conuert, hart: *conuert, smart: *conuert(Spenser5), arts: *desarts, hart: *desart, mard: *prefard, parts: *desarts, regard: *prefard, smart: *desart, smarts: *desarts(Spenser6), darling: pearling, farre: *preferre, hard: *heard, hart: peruart, heart: *conuert, Parson: sermon, regard: *heard, smart: peruart, start: peruert, steruing: deseruing(Spenser-Minor), † farre: were, sterued: preserued, sterued: *serued(Raleigh), barr'd: *heard, carve: *serve, carve: *swerve, † farr: her, harming: *learning, harte: *desarte, heart: *desart, part: *desart, starve: *serve, starve: *swerve, sterve: *serve, sterved: preserved, sterved: *served(Sidney), heart: *desert(Lyly), caru'd: *saru'd, depart: *desart, hart: *conuert, heart: *conuert, mart: *conuert, part: *conuert, starue: *desarue(Warner), art: *convert, art: *desert(2t), art: pervert, arts: *deserts, debarr'd: *heard, hard: *heard, heart: *convert(2t), heart: *desert, heart: divert, hearts: *converts, hearts: *deserts(6t), part: *desert(2t), part: pervert, parts: *converts, parts: *deserts(8t)(Daniel), bard: *heard, carv'd: preserv'd, carv'd: reserv'd, carv'd: *serv'd, depart: *desert, hart: *convart, hart: *convert, heart: *desert(4t), heart: subvert, hearts: *deserts, marrer: were, part: *desert, parts: *deserts, regard: *heard, skard: *heard, starve: deserve, starve: *serve(2t), starved: observed, sterved: *served(Drayton), carving: preserving, scard-me: *heard-me(Marlowe), art: *convert(2t), departest: *convertest, heart: *convert, part: *desert, parts: *deserts, regard: *heard(Shakespeare), depart: *conuert, hard: obserued, hearts: *deserts(Campion), sterve: *serve(Donne), Arte: *desert, carve: deserve, parts: *deserts, starte: *desert, starue: deserue,

sterve : preserve(Jonson), art : *convert(2t), † farre : *preferre, heart : *convert, heart : *desart(2t), heart : *desert, hearts : *converts, hearts : *desarts, part : *desert, parts : *desarts, parts : *deserts, start : *convert, sterve : *serve, sterve : *swerve(2t) (Stirling), heart : *desert(P. Fletcher), starues : reserues(J. Beaumont), art : *desert, barley : early, † far : were, heart : wert, starve : deserve(F. Beaumont), are : were, arms : terms, art : *Desert, Hearth : earth, starv'd : preserv'd, starve : deserve, starve : reserve, starve : *serve, starve : *swerve(Drummond), art : *desert, heart : *desert, part : *desert(2t) (Ford), bard : *heard, start : *desart, satrve : serve, *sterving : deserving, yarn : *learne, yearde : *hearde, yerd : *herd(Browne), part : *desert(3t), starved : *swerved, sterv'd : *serv'd(Herrick), art : *desert, carve : *serve, heart : *convert, heart : *desert(2t), hearts : *deserts, large : verge, part : *desert(3t), regard : *heard(Herbert), parts : *deserts(King), march : search, rehearse : verse, sterv'd : preserv'd(Carew), heart : *desert, yarn : *earn(Chalkhill), † far : *her(Marmion), are : were, art : *desert, heart : *desert(2t), hearts : diverts(2t), part : *desert, sterves : preserves(Davenant), stars : *prefers, starve : deserve(Waller), hearts : *deserts, parts : *deserts(Bosworth), dearth : earth, Hearth : Earth(Milton), heart : *desert(Suckling), heart : *desert(2t), hearts : *deserts, parts : *deserts(Bosworth), barr'd : *heard(Cartwright), arms : terms(2t), art : divert, art : expert, arts : *deserts, carve : *serve, charms : terms, † far : were, farce : rehearse, farms : terms, heart : assert, march : search, part : *desert(2t), part : divert, part : expert, parts : *deserts, regard : *heard, start : divert, started : diverted, starv'd : *serv'd, starving : deserving(Butler), Bard : *heard(2t), warning : discerning, warning : *learning(Denham), are : were(2t), Stars : *prefers, sterve : *swerve(Lovelace), are : were(2t), part : *desert, starve : deserve, starve : *serve(Cowley), art : *convert, darts : *converts, † far : were, regard : *heard(Sherburne), heart : *desert, hearts : *deserts, part : *desert, starved : *served(Chamberlain), starve : *serve(Brome), † far : were(Marvell), art : wert, bard : *heard, carv'd : *serv'd, marr'd : *prefer(Vaughan), art : pervert, barr'd : *heard, † far : were, garth : earth, heart : desert(2t), star : were(Hannay), parts : *converts, † stars : disperse(Hall), are : were(3t), heart : *desert, † start : wert, unbar'd : *heard, yard : *heard(2t) (Cotton), Art : *Desert(2t), Bard : *heard, Farce : rehearse, Farce : Verse, heart : *desert, part : *desert, starve : deserve(Dryden 1), Bard : *heard, barr'd : *heard, carv'd : *serv'd, Farces : Mercyes, heart : wert, part : *Desert(2t), part : wert, parting : *certain, regard : *heard, starv'd : *serv'd, starve : deserve, sterve : deserve(Dryden2), heart : *desert(2t), heart : subvert(Dryden3), Art : *Desert, Part : *Desert(3t), regard : *heard, starve : *serve, Yard : *heard(3t) (Dryden4), are : were(Sprat), are : were, hard : interr'd(Flatman), Arse : disperse(Shadwell), art : *Convert, part : *desert(2t),

Prts : *deserts, starve : preserve, starve : deserve(Wilmot), art : *desert, heart : *desert, part :
 *desert, starv'd : *serv'd, starve : deserve, starve : *serve(Sheffield), Farce : verse(2t), heart :
 *desert(Otway), pardon : *heard-on(Carey), heart : *desert(Hammond), are : confer(2t), are :
 *infer(2t), are : were, art : *desert, art : sunvert(4t), bar : *infer, parts : *converts, regard :
 conferr'd, regard : *preferr'd, refard : referr'd(Blackmore), heart : *desert, heart : divert, sta-
 rve : *serve(Duke), are : *prefer, art : *desert, bard : *heard, parts : *deserts(Garth), part :
 *desert(Walsh), heart : *desert, part : *dessert, starv'd : deserv'd, starv'd : *serv'd, starve : *ser-
 ve, starves : observes(King), barn : discern, carv'd : *serv'd, † far : aver, starv'd : deserv'd, sta-
 rv'd : *conserv'd, starv'd : *preferr'd, starve : deserve(Prior), are : were, starve : deserve, star-
 ve : *serve(Pomfret), heart : *desert, part : *desert, remark : clerk(Granville), arch : search,
 Arches : searches, bard : *heard, carle : *earl, charge : Clergy, farce : verse, harmony : ger-
 many, † Stars : Herse, † Stars : Verse(2t), starv'd : *serv'd, starv'd-it : deserv'd-it, starve : de-
 serve(Swift), starve : *serve(Congreve), † far : † war(Yalden), heart : *desert, regard : *pre-
 ferr'd(Rowe), bard : *heard, starve : deserve(Watts), art : *desert, heart : *desert(Sommer-
 ville), carv'd : serv'd(Phillips), heart : *desert(Huges), refard : *heard(2t)(Parnell), mark :
 clerk, parts : *deserts, starve : reserve, starve : *serve(Young), regard : *heard, strave : ob-
 serve(Fenton), Bard : *heard, Regard : *heard(Diaper), charming : ermine, debarr'd : *heard,
 starve : deserve : yard : *heard(Gay), are : were(Sprat), are : were, hard : interr'd(Flatman),
 Farce : verse(2t), heart : *desert(Otway), heart : *desert, part : *desert, remark : clerk(Gran-
 ville), part : *desert(Walsh), arch : search, Arches : searches, bard : *heard, carle : *earl, char-
 ge-ye : Clergy, farce : verse, harmony : germany, † Stars : herse, † Stars : verse(2t), starv'd :
 *serv'd, starv'd : *serv'd, starv'd-it : deserv'd-it, starve : deserve(Swift), starve : deserve, star-
 ves : deserves(Yalden), heart : *desert, regard : *preferr'd(Rowe), art : *desert, heart : *desert
 (Somerville), regard : *heard(2t)(Parnell), heart : *desert(5t), heart : pert, starve : observe
 (2t), starve : reserve(Pope), hearse : verse, remarks : clerks(Byrom), arms : terms, bard :
 *heard(Pitt), art : *desert, art : pervert, heart : pervert(Dodsley), barn : *learn(Jenyns), hea-
 rt : *desert, parting : diverting(Hamilton), parrot : aver-it(Mallet), regard : *heard(2t)(Boy-
 se), bard : *heard(P. Whitehead), † far : *prefer, part : *heard(Armstrong), carv'd : serv'd,
 starving : deserving(Moore), heart : *desert(W. Thompson), farces : verses, † star : *her, yard :
 *heard(W. Whitehead), starve : *serve(Cambridge), bard : *heard(2t)(Akenside), starve : *ser-
 ve(Smollett), hearse : rehearse, hearse : verse(J. G. Cooper), starve : *serve(2t)(Wilkie),
 heart : assert, refard : *prefer'd(Blacklock), art : *desert, heart : *desert(4t)(Smart), heart :
 *desert(Cunningham), heart : *desert(Mason), art : avert(Scott), dark : clerk(Churchill), re-

gard : beard(Falconer), alarms : terms, arms : terms, charms : terms(Mickle), art : pervert, heart : pervert, hearth : earth, part : pervert, refard : *preferr'd, starve : reserve(Beattie), hearth : *learn, hearth : earth(Wordsworth), apart : dearth, ark : clerk, charge-ye : clergy, heart : dearth(Byron), hearth : earth(Shelley),

8g : 10b

afterwarde : refarde, rewarded : deserued(Howard), warne : descerne(Goscoigne), ward : transfard(Spenser3), reward : *heard(Spenser5), reward : *heard(Spenser-Minor), † warre : refarre(Warner), † warre : were(2t)(Drayton), reward : *heard, ward : *heard(Shakespeare), reward : *heard(Corbet), wardeine : *certaine(Browne), reward : *preferrd(Herbert), reward : *prefer'd(Godolphin), † war : *her(Sherburne), thwarts : *deserts(Hall), reward : *heard(2t), reward : unheard, warning : discerning(Dryden2), Reward : *heard, † war : *err(Dryden3), Reward : *heard, Reward : prefer'd(Dryden4), Reward : *preferr'd(Wilmot), † war : *prefer(2t)(Duke), reward : *heard, † war : aver, † war : *err, † war : *her, † wars : years(Prior), † war : *her(Granville), ward : *preferr'd(Rowe), Reward : *heard(Diaper), reward : *desert(Byrom), warm : *learn, warn : *learn(2t)(Wilkie), sward : *unheard(Keats).

8c : 10b, 8g : 10b は PE ではそれぞれ [a:] : [ø:], [ɔ:] : [ø:] の不完全韻であるが, EModE 期以降豊富に見出されている。-er- という結合は ME で -ar- となったが, 15 世紀以前には余り多くはなかった。15 世紀以降 -ar- という綴字が次第に増え, 多くの語の発音と綴字は -ar- で固定化されるに至った。一方, clerk, Derby, Bertie では綴字は -ar- に変わらず, -er- のままであったが, 発音は [a:] のまま残った。

] Dobson(1968², § 64, § 65, Note 4)によると, [r] の前の ME/ε/ は北部方言では 14 世紀初頭に, 南部方言では 14 世紀の終わりまでに ME/a/ に変化し始めたが, 15 世紀まで一般的にならなかった。少なくとも EModE 期には, 次の語には低母音化による ME/a/ 異形が並存していた : certain, conserve, convert, defer, desert, earl, earn, err, fervent, heard, her, herd, infer, jerk, kernel, learn, merchant, mercy, perfect, pert, person, prefer, serge, servant, serve, service, swerve, yerck, yearn(ME/ε/ の ME/a/ 異形に依存するものには * 印を付す)。heard に hard という発音が存在していたことは綴字, 文法学者の所説によって明らかである。heard の ME の形は herde で, hard, harde とう綴字は 15~18 世紀にかけ, 個人的な記録はもとより, 刊行されている作品においても極めてありふれたものであり, Margaret Paston, Cely 家の人々, Lord Berners, Sir Thomas Elyot, Cranmer, Machyn, Latimer, Gabriel Harvey, Lord Burghley, Verney の人々及び Lady Wentworth 等に見出され, 当時, 上流階級の教養ある人々の口語的発音あったことは殆ど疑いの余地はない。この発音は Scotland の教養ある人々の間では現在も見られる。従って,] の諸語と 10b の脚韻は ME/ar/ 異形に依存する完全韻である。

EModE 期には ME/ε/r には 14 世紀以降、低母音化を受けた [a:] r と 17 世紀初めに中舌化された [a:] r の二つの発音が並存していたことになる。

] Dobson(1968², § 66, § 68)によると、次の諸語は ME で ME/ε/ が [r] の前で ME/a/ に変化したものであるが、少なくとも EModE 期には ME/ε/ 異形が並存していた: *darnel*, *far*, *farther*, *harvest*, *varnish*, *star*, *war*(ME/a/ の ME/ε/ 異形に依存するものには†印を付す)。従って、] の諸語と 10b の脚韻は ME/ε/r に依存する完全韻となる。8c: 10b は 10b の ME/a/r 異形が、8g の ME/ε/r 異形に依存するかのどちらかであり、何れにしても完全韻である。

8. 3. 1. 13. 8a : 12a (ME/a/ : MWE/u/)

fantome : *custume*(Wyatt), *banished* : *punished*, *begonne* : *shonne*, *sponne* : *shonne*(Spenser : Minor), *aspect* : *Suspect*, *begonne* : *ronne*, *begonne* : *shonne*(2t)(Spenser3), *banke* : *stanke*, *begune* : *sonne*, *man* : *ouerran*, *ranke* : *stanke*(2t), *sponne* : *begonne*, *sponne* : *ronne*(Spenser 4), *begone* : *ouerronne*(Spenser5), *begonne* : *shonne*(Spenser6), *adder* : *shudder*(Shakespeare), *beganne* : *Sunne*(Campion), *ran* : *shun*(G. Fletcher), *began* : *Son*, *began* : *spun*(Benlowes), *man* : *begun*(Suckling), *baron* : *murain*, *disparage* : *courage*, *marriage* : *courage*(Butler), *began* : *sun*(Chamberlain), *hang'um* : *among'em*(Brome), *Can* : *Sun*(Vaughan), *span* : *begun*(Dryden2), *began* : *son*(Prior), *man* : *begun*(Tickel),

8a : 4e

begonne : *donne*(Spenser : Sc), *gather* : *other*, *begonne* : *vndone*, *sponne* : *vndone*(Spenser : Minor), *began* : *wan*, *can* : *wan*, *man* : *wan*(2t), *ran* : *wan*(Spenser2), *begon* : *won*, *begonne* : *wonne*(2t)(Spenser3), *begonne* : *fordonne*, *begonne* : *wonne*, *begun* : *wun*(Spenser5), *begonne* : *wonne*(Spenser6), *man* : *one*(F. Beaumont), *man* : *done*(Suckling), *Man* : *won*(Dryden4), *dance* : *once*(Lloyd),

8a : 12a は PE では [æ] : [ʌ] となり不完全韻である。今回の調査で、8a : 12a は EModE 期以降、僅か 33 例しか見出されていない。1650 年以前の詩人で ME/a/ と ME/u/ の脚韻が Wyatt (Kent [1]), Spenser [16], Shakespeare [1], Champion(? [1]), Suckling(Norfolk [1]), G. Fletcher(? [2]), Benlowes(Essex [2]), Butler(Worcestershire [3]), Chamberlayne(Dorsetshire [1]), Brome(? [1]), Vaugham(Wales [1]), Dryden(Northamptonshire [1]) に [] で示された数だけ見出されているが、その半数は北部方言の発音にその脚韻を依存させていると思われる Spenser からのものである。1650 年以降の詩人では ME/a/ と ME/u/ の脚韻が Prior (Dorsetshire), Tickel(Cumberland) に 1 例づつ見出されているに過ぎない。ME/a/ が [a] であり、ME/u/ が [u] である間は両者は韻を踏まない。しかし、1650 年以降 ME/a/ が [æ] に

なり、ME/u/ が [ʌ] になれば、両者は類韻を踏む可能性が出てくる。8a : 12a が類韻なのか完全韻なのか、更にはどの発音に依存するものなのかを俄には決定しがたいと思われるので、脚韻の証拠を分析する前に、正音学者・綴字の証拠を検証することにする。

Dobson(1968², § 97)によると、ME/a/ と ME/u/ の同一視は稀で方言で見られる現象であり、正音学者は誰もはっきりと ME/a/ と ME/u/ の同一視を示しておらず、Bullakar の脚韻(last : must) と Coles の Eng.-Lat. Dict 中での master と muster の対に見られるにすぎない。Wyld (1936³, pp. 232-4) は 15 世紀の中頃から見出されている ME/u/ を a と綴った臨綴字が見出されることを根拠にして、「16 世紀の末までに今日のそれと余り異なる発音の段階に達していた」としている。しかし、Dobson(1968², § 97 Note 7)によると、Wyld の挙げている臨時綴字の殆どは、実際には、a ではなくて o と綴られているものであり、ME/u/ を o と綴っている人は ME/u/ が o に下げられた地方の出身者である。これらの正音学者・臨時綴字の証拠から StE の ME/a/ の音価を推定する手掛かりは得られない。それでは EMod 期以降見出されている 8a : 12a はどのように解釈されるべきであろうか。

1] Wyatt は韻律上、二音節語の弱音節部 (chamber : remember : daunger) だけで押韻したり、強音節部と弱音節部 (lif : pensif) とで押韻する傾向が見られるので、fantome : custume も 8a : 12a ではなく弱音節部に依存するものであろう。Spenser の banished : punished, aspect : Suspect も弱音節部に依存する脚韻かも知れない。Spenser の begonne : ronne, begonne : shonne, sponne : shone は began, span の ME/ɔ/ 異形(begon 4-6, spon 5)と run, shun の ME/ɔ/ 異形(ron 3-7, shone 4-5)に、bank : stanke, ranke : stanke は stink の ME/a/ 異形(stanke 4-7)に、man : overran, wan : ouerran は run の ME/a/ 異形(ra 4-7)を利用した eye-rhyme であろう。Shakespeare に adder : shudder が見出されるが、Kökeritz(1953, p. 241)はこれを ME/a/ = [æ] : ME/u/ = [ʌ] の類韻と見なし、ME/a/ が [æ] に高母音化し、ME/u/ が [ʌ] に中舌化した証拠と見なしている。しかし、この脚韻も shudde に shadyr 異形が並存しており、確証にはならない。更に、shudder には shodar 異形が並していたので、8a : 11a と解することも可能である。これらを差し引くと 8a : 12a は 15 個見出されていることになる。

] 8a : 12a が見出される詩人では同時に 8a : 10a が見出されている。既に 8a : 10a で述べたように、筆者は 8a : 10a を [æ] : [ɛ] の類韻ではなく、これらの脚韻が見出される地域性、及びこれらの詩人では更に 10a : 5a が見出され、ME/a:/、ME/ɛ/ は [e] になっていことを考慮し、ME/a/ の方言形・異形 [e] に依存する完全韻と解釈してきた。つまり 8a : 12a が見出される詩人では ME/a/ = [e] であったことになる。Dobson(1968², Vol 1, p. 109)によると、Sussex 出身の Bullokar には ME/u/ が ME/ɔ/ に低母音化されたことを示す must : lost, 更に ME/a/ に平唇化されたことを示す must : last が見出され、結果的に ME/a/ = ME/u/ となっている。ME/a/ は卑語・北部・西部・南西部方言では [e] になっていたもので、筆者の見解では、8a : 12a は方言

音 [e] に依存する完全韻となる。Dobson(1968², § 96)によると, Wright(1905, § 100)は *dun, son, summer, sun, Sunday, wonder* の ME/u/ は Scotland, Somerset, Devonshire で [i] 或いは [e] と発音されていることを示している。更に Wright(1905, § 173)は *but, dust* は Scotland, *up* は Hereford, Norfolk, Cornwall, *us* は Warwickshire, Hereford, Devonshire で [e] と発音され, ME/u/ は北部・西部・南西部方言で平唇化され ME/ε/ となっていることが報告されている。これも ME/a/ = ME/u/ = ME/ε/ = [e] の傍証になるであろう。Bullockar には ME/u/ が ME/ε/ に平唇化されたことを示す *just : rest* が見出され, ME/u/ = ME/ε/ は Norfolk, Suffolk, Essex を含む多くの方言で観察されて vulgarism である。

] 8a : 4e は実質 ME/a/ と ME/u/ の脚韻となろう。Dobson(1968², § 18)によれば, *done* は Cheke, Hart, Levins では [u:] が記録されているが, Hart, Robinson, Gil, Poole, Wilkins, Lodwick では [u] が与えられている。other は Smith, Hart では [u:] が記録されているが, Smith, Hart, Tonkins, Robinson, Gil, Hodges, Cooper では [u] が与えられている。Gather : other を除く Spenser からの 8a : 4e は異形を利用した eye-rhyme である。eye-rhyme 以外の 8a : 4e は 5 個 (*gather : other, man : one, man : done, Man : won, dance : once*) が見出されていることになるが, 8a : 12a 同様, 北部・西部・南西部方言での ME/a/ = M/u/ = ME/ε/ = [e] に依存する完全韻である。

8. 3. 1. 14. 8a : 13a (ME/a/ : ME/ai/)

*have : stain, scant : restraint(Daniel), gat : wait, hath : faith(3t)(Donne), *have : betray, *have : stray(Stirling), *have : way, scanted : painted(P. Fletcher), hath : Faith, Azure : leisure(Drummond), hath : Faith(King), lads : maids(Chalkhill), hath : Faith, hath : lay'th, *have : waive, *sat : wait, thereat : wait(Benlowes), land : ordain'd(Milton), at-them : wait-them, bad : obey'd, banns : maintains, famine : maiming, *had : paid, hand : arraign'd, *hath : faith, land : gain'd, atin : beiting, valour : tailor, valours : tailors(Butler), *hath : FAITH (2t)(Crashaw), *hath : faith(Cleveland), *hath : Faith(2t)(Denham), hand : gain'd(Lovelace), *hath : faith(Marvell), *hath : faith(5t)(Hannay), can : contain, undestand : gain'd(Hall), pant : fain't, Sand : rain'd(Cotton), MAN : plain(Dryden1), Man : sustain, Pan : Strain, plant : Saint, *sad : betray'd, *sad : maid(Dryden2), Man : Train(Dryden3), Man : sustain, Man : Train, *sat : Weight(Dryden4), began : pain, began : vain, *sat : aid, *sat : wait(Sprat), damn : claim(Wilmot), *sat : wait(Otway), *hath : faith(Carey), plant : acquaint, plant : paint(Hammond), gland : strain'd, *had : maid(Blackmore), *had : betray'd, hand : gain'd(Duke), cant : faint(Halifax), man : pain(Garth), swans : strains(Walsh), man : wain(King), *am : aim, hand : gain'd, land : sustain'd, man : contain, man : vain, ran : rain, ran : reign, ran : train(Prior),

*had : obey'd(Pomfret), can : vain(2t), man : complain, man : reign(Granville), *had : paid, hand : stain'd(Congreve), man : sustain(Yalden), began : pain, began : vain, land : restrain'd, man : retain, pant : faint, ran : plain(2t), ran : train, sand : drain'd(Addison), Man : stain (Watts), cant : saint, clad : plaid(Somerville), hand : sustain'd, plant : paint(Hughes), *hath : faith, man : train(Fenton), began : Main(2t), began : Plain, began : Swain, fan : Plain(Diaper), man : restrain(Tickell), land : complain'd, land : remain'd, Man : maintain, Man : plain, Man : vain(Pope), cant : saint, *hath : faith(3t) (Byrome), land : stain'd, man : plain, man : stain, ran : vein(Pitt), hat : straight, man : brain, man : Pain(3t), man : plain, man : vain, plant : pain(Dodsley), can : disdain'd, land : detain'd(Lyttleton), Land : stain'd, Land : strain'd, man : vain(Johnson), *sate : wait(Thompson), hand : sustain'd, man : chain, man : disdain, man : plain(Whitehead), *mad : paid(Cambridge), *sate : wait(J. W. Cooper), flatter : traitor(Wilkie), clad : plaid(Churchill), man : plain(Cowper), man : contain, man : pain(Lloyd), *sate : weight(Byron), fans : pains, that : plait(Keats),

8a : 13c

hath : saith(Herrick), add : said, hast : say'st(Buttler), man : agen(Lovelace), *mad : said (Cowley), man : again(Brome), ran : again(Dryden3), *hath : saith(Carey), can : again, man : again(King), man : again(3t) (Prior), man : again(Pitt), *had-it : said-it(Moore), *had : said, man : again(Cowper),

8b : 13a

fasts : waste(Spenser-Sc), ouercast : wast, vast : wast(Spenser1), fast : † was(Spenser2), cast : wast(Spenser5), fast : waist(Shakespeare), cast : waist, fast : waist(Davies), path : faith(Donne), Path : faith(Drummond), path : faith(Carew), cast : waist, last : waist(Whiting), lath : faith(Butler), can't : saint(Brome), Bath : Faith(Dryden1), cast : Waist, fast : waist(Dryden 4), pass : days(2t) (King), brass : praise, past : waist(Prior), fast : waist(Granville), glass : rays, past : waist(Yalden), brass : raise(Addison), path : faith(Fenton), path : Faith(Broome), path : faith(2t) (Byrom), path : faith(3t) (Dodsley), cast : waist(Jenyne),

8d : 13a, c

granted : painted(Herrick), avanc'd : against, enchanted : acquainted, grand : gain'd, grant : restraint, grant : saint, supplant : saint(Butler), grant : saint(Cleveland), grant : Complaint, grant : Teint(Dryden2), grant : paint(Halifax), command : gain'd(Duke), grant : paint, grant : saint(Prior), command : ordain'd(Watts), grant : saint(Broome), chant : saint(Byrom), demand : attain'd(Savage), grant : faint(Hamilton), enchants : paints(Moore),

8e : 13a

want : restraint(Daniel), wan : rain, wanted : painted(P. Fletcher), want : saint(Habington), want : saint(Butler), want : saint(Brome), want : restraint(Cotton), want : Saint(Dryden1), want : Complaint, want : paint(Dryden2), Swan : Train(Dryden3), wan : Rain(Dryden4), wanted : painted(Stepny), was : ways(King), want : faint, want : paint, wanting : paintong (Prior), wants : Complaints(2t), Want : taint, wants : faints(Diaper), want : saint(5t), wants : saints(Byrom), want : restraint(Savage), want : faint(Dodsley), quarrel : laurel(Cambridge), swan : main(Beattie).

8a : 13a は PE では [æ] : [ei] の不完全韻であるが、我々が当初想定していた以上に、主として南・南西・北部出身の詩人に見出されている。Kökeritz は 8a : 13a を挙げていない。この種の脚韻は EModE 期の初期には少なく、1600 ~ 1650 年頃から徐々に増え始め、1700 年以降再び少なくなっている。これは StE で 1650 年頃に ME/a/ = [æ], 1700 年頃に ME/ai/ = [e:] が確立するにつれ、北部の人は別にして詩人は ME/a/ と ME/ai/ を押韻させるのに躊躇したからであろう。北部方言では ME/ai/ の i は前の母音が長母音であることを示す記号であったため、ME/ai/ = ME/a:/ > ME/a/ となり、ME/a/ と ME/ai/ は [e] で押韻可能となった。1700 以前の詩人で ME/a/ と ME/ai/ の脚韻が Donne(London), Benlowes(Essex), Butler(Worcestershire), Hannay(Scotland), Dryden(Northamptonshire), Sprat(Devonshire), Prior(Dorsetshire), Granville(Devonshire), Addison(Wiltshire), Diaper(Somerset), Pope(London), Byrome(Cheshire), Pitt(Dorset) で数例見出されており、1700 年以降の詩人はそれ以前より遙かに少なく Dodsley(Nottinghamshire), Johnson(Staffordshire), Whitehead(London), Cowper(Hertfordshire) に数例見出されているに過ぎない。

] Kökeritz(1953, pp. 164-5), Dobson(1968², § 6)によれば am, glad, had, hath, mad, sat には ME/a:/ 異形が並存していた。Dobson(1968², § 104 Note 2)によれば chant, grant, plant にも ME/au/ > LME/a:/ 異形が並存していた。従って、これらを含む語との脚韻は実際には 5a : 13a であるかも知れない (* 印を付す)。

] Dobson(1968², § 63)によると、ash, branch, watch には西・北部方言で ME/ai/ 異形並存していた。この異形は [ʃ, tʃ, ntʃ] の前で [i] が挿入されたものであり、特に 13 世紀西部方言で見られるが、14-15 世紀には衰退したものである。Cercignani(1981, p. 102)によると、master, plaster にも、ME/ai/ 異形が並存していた。従って、これらを含む脚韻は 13a 同士の脚韻であるかも知れないが、我々の調査した資料には見出されなかった。waist は元来 ME waste で ME/a:/ を持っていた語 (+ 印を付す) であり、18 世紀まで waste 普通であったが、Johnson の辞典 (1755) によって現行の waist が一般化したものである。fast : waste は fast : ME/ai/ = ME/a:/ > ME/a/ に依存するものである。8a : 13c, 8b : 13a, 8d : 13a, c, 8e : 13a は実質 8a : 13a

となる。8a : 13a が見出されている詩人では、同時に 8a : 10a, 8a : 6a, 13a : 10a が見出されておりこれらの方言では ME/a/, ME/ai/ は [e] と発音されていることを考慮すれば、8a : 13a は方言形・異形の [e] に依存する完全韻である蓋然性が大である。

8. 3. 1. 15. 8a : 14a (ME/a/ : ME/au/)

shal : all, shall : all(9t), shall : befall, shall : call(3t), shall : fall(3t), shall : thrall(Wyatt), shall : all, shall : fall(Howard), shall : all, shall : call, shall : fall, shall : thrall(Gascoigne), shall : appall, shall : ball(Turverville), scalpe : chalke(Spenser-Sc), shall : all, shall : gall, shall : thrall(Spenser-Minor), shall : all, shall : call, shall : fall(2t)(Spenser3), shall : all, shall : hall, shall : withall(Spenser6), shall : fall, shal : thrall, shall : all(5t), shall : appall(2t), shall : ball, shall : befall, shall : call, shall : fall(4t), shall : hall(Sidney), shall : all(3t), shall : call(3t), shall : fall(2t), shall : recall(2t)(Warner), shall : all(9t), shall : call, shall : fall(10t), shall : snall, shall : wherewithal, shall : withal(Daniel), shall : all(2t), shall : call, shall : fall(4t)(Drayton), shall : gall, shall : withal(Shakespeare), shall : all(Davies), shall : all(9t), shall : fall, shall : gall(Donne), shall : all, shall : wall(Jonson), shall : fall(Corbet), scant : daunt, scant : *vaunt, shall : fall(P. Fletcher), shall : all(2t)(F. Beaumont), shall : all(2t), shall : fall(Brown), shall : all(15t), shall : call, shall : fal, shall : fall, shall : Hall, shall : Stall, shall : withall(Herrick), shall : all, shall : fall(Herbert), shall : call, shall : fall(King), shall : fall(4t), shall : small(Carew), shall : all, shall : tall(Chalkhill), shall : all(4t), shall : hall(4t), shall : fall, shall : hall(2t)(Benlowes), shall : all(3t), shall : call, shall : fall(4t)(Habington), shall : fall(Davenant), shall : all(2t)(Waller), shall : fall(Boaworth), shall : all(Suckling), shall : call, shall : fall, shall : gall(Whiting), shall : fall(Cartwright), rabble : *bauble(Butler), shall : fall(Crashaw), shall : all(Lovelace), shall : all(3t), shall : call(3t), shall : fall(Cowley), shall : fall(2t), shall : withal(Sherburne), shall : all(3t), shall : befall, shall : call(3t), shall : fall(6t)(Chamberlain), shall : all(3t), shall : withal(Marvell), shall : fall(Vaughan), ass : cause, shall : all(4t), shall : ball, shall : fall(7t)(Hall), man : drawn, shall : Ball(Dryden1), Hand : Lawnd(Dryden4), passage : *sausage(Flatman), shall : fall(Wilmot), shall : all(2t), shall : befall(Sheffield), begat-her : *daughter(Stepney), matter : *daughter(King), man : *lawn, matter : *daughter, sat : brought(Prior), pant : *haunt(Phillips), at-her : *daughter(Gay), pant : *haunt(Savage), ass : *sauce(Armstrong), land-is : *jaundice(Cawthorn), canals : calls, matter : slaughter, pant : *haunt, shall : all(3t), shall : ball, shall : call, shall : fall(Byron),

8d : 14a

enchaut : daunt, enchaut : haunt, enchaut : vaunt, graunt : haunt, graunt : vaunt(Spen-

ser1), graunt : haunt, graunt : taunt(Spenser6), graunted : daunted(Spenser-Minor), plants : haunts(Sidney), grant : vaunt(Southwell), past : exhaust(Daniel), chaunt : haunt, chaunte : haunt, enchanted : danted, supplant : vaunt(Drayton), enchanted : haunted(Marlowe), enchanted : haunted, granted : haunted(2t), planted : haunted(Shakespeare), chaunting : daunting, graunting : daunting(Campion), enchant : vaunt, enchautes : haunts, graunt : daunt, plant : daunt, plant : haunt, supplant : daunt(2t), supplant : vaunt(Stirling), chant : vaunt(P. Fletcher), grant : vaunt(F. Beaumont), grant : daunt(Kynsaton), chant : vaunt, chant : haunt(G. Fletcher), chants-it : vaunts-it, demaund-it : pawn'd-it, grante : vaunte, planted : wanted(Browne), grant : daunt(Whiting), branches : haunches, enchanted : haunted(Butler), grant : daunt(Cowley), stancher : Launch-her(Cotton), advanc'd : lanch'd(Dryden4), aunt : haunt(Prior), graunt : haunt(Parnell), chants : haunts(Young), Plant : haunt(Diaper), chants : haunts(Akenside), graunt : haunt(Parnell), chaunts : haunts(Smollett), slants : haunts(Cunningham), chaunt : haunt(Cowper), chants : haunts(Langhorne), aunt : taunt(Crabbe), chaunt : haunt(Shelley),

8a : 14a は PE では [æ] : [ɔ:] となり、完全韻ではない。この種の脚韻は 1650 年以前のどの詩人に見出されているが、1650 年以降の詩人では散見される程度である。これは 1650 年以降 ME/a/ = [a], 1600 年以降 ME/au/ = [ɔ:] が確立されたからである。

] Dobson(1968², § 4, § 60)によると、shall, scalpe は ME/au/ 異形が並存していたのでこれらを含む脚韻は実際には ME/au/ 同士の脚韻であるかも知れない。母音間の l を除く dark l の前では、ME/a/ は LME に ME/au/ に発達した。scalp はどういう訳か知らないが、この発達を免れて、今日 [æ] を持っているが、EModE 期には ME/au/ 異形が並存していた。

] chalk, malt, salt, talk, walk には本来の ME/a/ が異形として並存していた。又、ME のフランス語借用語では、鼻音の前の ME/a/ には ME/au/ 異形が並存しており、StE ではこの異形の方が定着したものである。しかし、Dobson(1968², § 62)によると、haunch, launch, paunch, staunch etc. には EModE 期には ME/a/ も異形として並存していた。OED によると次のフランス語借用語 bauble(6 bable), daughter(6 dahtorr), daunt(4-7 dant), daugter(6 dahtorr), haunt(4-7 hant), jaundice(5-7 iandis), laurel(5 larel), lawn(6 lane), sauce(5-6 Sc. sals), sausage(7 salsage), vaunt(5-7 vant) には ME/a/ 異形が存していた証拠がある。従って、これらを含む脚韻は実際には 8a 同士の脚韻であるかも知れない。8a : 14a, 8d : 14a は 8a, d を持つ語の ME/au/ 異形か、14a を持つ語の ME/a/ 異りに依存するかのどちらかであり、何れにしても完全韻である。Dobson(1968², § 52 Note)によると、Coles(1674), WSC-RS (1695) は was に [ɔ:] を記録しているので、was : cause, was : draw, was : jaws, was : laws は ME/a/ が 1674 年以降 [w] ___ [s] で [ɔ:] になった証拠と見なしてよい。

] Dobson(1968², § 62)によると, ME のフランス語借用語では, 鼻音の前の ME/a/ には ME/au/ 異形が並存していた(chance, dance, lance, plant)。その類推で次の英語, ON 起源の語(anger, ant, answer)にも ME/au/ 異形が並存していたが, 我々の調査した資料にはこれらの語と ME/au/ との脚韻は見出されなかった。

8. 3. 2. 1. 8b : 14a (ME/a/(___ [f, s, θ]) : ME/au/)

lawghter : besoght-her, lawghter : doghter(Wyatt), past : exhaust(Daniel), laught : caught(Warner), laughter : wrought-her(Drayton), after : daughter, after : halter(Shakespeare), laughter : daughter(Drummond), after : daughter(Marmion), laughter : daughter(Suckling), Laughter : slaughter(Vaughan), laugh-ter : daughter(4t), laughter : slaughter(Whiting), after : slaughter, branches : haunches(Butler), after : slaughter(2t)(Hamilton), blanch'd : launch'd, pass : jaws(Lovelace), after : daughter, hereafter : slaughter(Brome), after : daughter, chant : haunt(Hannay), Laughter : slaughter(Vaughan), hereafter : slaughter(Carey), hereafter : daughter(King), pass : cause(Byron), after : slaughter(2t)(Hamilton), pass : cause(Byron),

8b : 14b

shaft : draught(Jonson), laugh'd : draught(Whiting), laugh : half, staff : half(Butler), laugh : calf(King), laugh : behalf, laugh : calf(Green), laught : Draught(Dryden³), laugh : behalf, laugh : calf(Green), laugh : half(Moore), laugh : calf(Prior), laugh : calf(2t), laugh : half(Swift), laugh : half(Moor), laugh : behalf(W. Whitehead), laugh : half, laugh'd : draught(Smart), laugh : half(3t), staff : half(2t)(Churchill), laugh'd : draught(Cowper), laugh : half(Lloyd), laugh : calf, laugh-of-them : half-of-them(Byron), chaff : half, laugh : half, shafts : draughts(2t)(Keats).

8b : 14a は PE では [a:] : [ɔ:] の不完全韻であるが, EModE 期以降散見されている。

Dobson(1968², § 62)によると, 14a を持つ語には ME/a/ 異形が並存していた。従って, 8b : 14a は 14a を持つ語の ME/a/ 異形に依存するものである。OED は caught, saught, slaughte に ME/a/ 異形 (5 caght, 4-5 saght, 4-5 slaghter) が並存していたことを示しているが, cause, exhaust, jaw に ME/a/ 異形が並存していた証拠を挙げていない。しかし, past : exhaust etc. も, ME/au/ > ME/a:/ > ME/a/ になった方言では方言音 ME/a/ に依存する完全韻であろう。ME/au/ は, [x] > [f] の後, 15-6 世紀に [a] に短母音化され, 17 世紀に無声摩擦音前で長母音化され, EModE 期には [a], [a:] が並存した。daughter, taught もその後の音変化では PE [a:] となるはずであるが, これは Eastern 方言又は卑俗語の影響で PE [ɔ:] となつた。OE dohtor から規則的に発達した形 doughter は 16 世紀まで用いられ, 現代 Scotland 語 dowchter, 北部

方言 dowter に名残を留めているが、16 世紀に現れた南部方言の daughter(OE/ɔ/> EME/a/> EModE/au/) に取って代わられた [OED]。calm, half, halv の PE 音 [a:] は ME/a/> ME/au/ > [ɪ] 削除 > ME/au/> [a:] を経たものである。

今までの検討の結果、EModE 期以降、ME/a/ は ME/a/ だけでなく、ME/u:/, ME/a:/, ME/ɛ:/, ME/ɛ/, ME/i/, ME/ɔ/, ME/u/, ME/ai/, ME/au/ と押韻しているが、それらは融合を示すものではなく、異形に依存する脚韻であることが明らかとなった。ME/a/ は [r] の前では、母音間の r 除き、今日 [a:] と長母音化されている (yarn ⇔ marry)。ME/a/r は、EModE 期以降、ME/e:/r, ME/a:/r, ME/ɛ:/r, ME/ir/, ME/a/r([w] __), ME/u/r, ME/ai/r と押韻しているが、これらの脚韻はどの音価に依存するものであるのか。ME/a/(__ [r]) は EModE 期に長母音化されていかどうかは、英語音韻史の難問の一つになっている。以下、この難問を脚韻を中心に、母音番順に検討する。

8. 3. 3. 1. 8c : 3b, 5b, 13b (ME/a/r : ME/e:/, ME/a/, ME/ai/r)

are : sphere(Daniel), are : eare(Habington), hard : afeard(Bosworth), star-fall : fearful(Butler), are : appear(Denham), Star : appear, Star : teare(Lovelace), are : appear, are : hear(Cowley), are : ear, are : fears(2t), are : hear(Brome), are : Fear(2t)(Hannay), are : hear, afar : near(Hall), Stars : appears, Bars : Spears(Dryden3), Bard : appear'd(Dryden4), star : appear, star : sphere(Sprat), star : appear, star : sphere(Halifax), are : appear, are : disappear(Flatman), Arse : fierce, Wars : Years(Shadwell), Mar : appear(Wilmot), are : appear, are : fear, are : Spheres, stars : Spheres(Hammond), are : appear(2t), are : here, regard : rear'd, stars : spheres(2t)(Blackmore), are : appear(Garth), stars : ears, stars : spheres(King), stars : appears, far : here, stars : spheres, stars : tears(2t)(Granville), star : clear(Rowe), are : here, stars : fears, stars : spheres(2t), stars : tears(Watts), star : dear(Somerville), pard : beard(Young), stars : rears(Broome), star : appear, bars : appears(Pitt), far : ear(West), stars : appears(Boyse), star : ear(P. Whitehead),

8c : 5b

are : care, are : rare, harde : scarde, are : snare(Turberville), regard : spard(Spenser-SC), are : care, are : fare(Raleigh), are : care(6t), are : dare, are : rare(2t), are : spare(2t), are : sware, are : ware(3t)(Sidney), are : care, are : snare(Lyly), are : care(4t), are : rare, are : spare, are : square(Warner), are : compare, are : fare(Southwell), are : bare(2t), are : care(7t), far : care(2t), regard : dar'd, are : dare, are : declare, hard : far'd, are : share, are : square(Daniel), are : care(5t), regard : compar'd, are : dare, farre : declare, are : fare, are : rare(2t), are : share(3t), are : snare, are : spare, skarres : unawares, are : ware(Drayton), are : care(2t), are : dare,

are : share(Campion), are : care, are : compare, are : share, are : ware(2t)(Corbet), are : care(3t), marring : caring, marr'd : compar'd, are : compare, marr'd : dar'd, pard : far'd, are : rare, pard : shar'd(P. Fletcher), are : care(5t), are : compare, are : declare(4t), parts : declare(J. Beaumont), are : care, are : compare, are : declare, are : snare, are : ware(F. Beaumont), star : aware, are : bare, are : care, regard : compar'd, are : compare(2t)(G. Fletcher), are : declare, marr'd : far'd(Kynaston), are-not : care-not, are-not : declare-not(Ford), are : Care(2t), mar : Care(2t), are : declare(3t), are : share, are : spare(Drummond), are : care(2t), are : compare, are : ware(Browne), are : beware, are : care(2t), farr : care, are : compare(2t), are : fare, Barre : scare, are : share(3t), are : ware(Herrick), are : care, are : declare, are : fare, are : rare, are : share(3t), are : snare(2t)(King), are : bare, are : care, starres : cares, are : compare(6t), PARE : FARE, are : spare(3t)(Herbert), unbar'd : far'd(Chalkhill), are : beware, are : care(3t), are : dare, starre : fare, are : rare(Habington), are : care(9t), farre : care, are : dare(2t), are : declare(2t), skarrs : declares, are : fare, are : share(2t), are : snare, are : square(Davenant), are : care(7t), are : compare, hard : declared, hard : spared, marred : spared(Waller), bar : hare(Godolphin), are : care, are : dare, are : fare, are : rare(Whiting), are : aware(Suckling), are : compare, are : declare(2t)(Bosworth), are : dare(2t)(Cartwright), are : beware, are : declare, are : ware(Butler), are : dare, starres : dares, stars : dares, are : declare, are : share(Crashaw), are : bare, are : care(2t), are : compare, are : declare(2t), are : spare, are : unawares, scarce : fares, stars : declares(Denham), Carr : beware(Lovelace), are : declare(2t), are : rare, are : share(3t), are : spare(3t)(Cowley), are : bare, are : care, are : declare, are : share(2t), far : are(Sherburne), are : bare(2t), are : care, are : compare, regard-us : dar'd-us, are : declare, are : rare(Brome), are : care(Hannay), are : aware, are : Care(3t), are : compare(2t), are : rare(2t), are : share(4t), far : declare, star : compare(Cotton), are : care, far : care, bar'd : declar'd(Dryden1), are : care(4t), far : care, Bars : Ccares, are : compare, are : dare, are : clare, are : fare, Star : fare, far : hare, afar : Mare, scar : Share, are : spare(Dryden2), far : Care, unbars : declare(Dryden3), afar : Care, are : Care, are : dare, are : share(Dryden4), are : rare(Sprat), are : rare(Halifax), are : care(2t), are : spare(Flatman), are : care, far : care, are : declare(2t), are : share(Shadwell), Bar : Care, are : compare(Ayres), hard : compar'd, are : compare(Roscommon), are : care(2t), are : Cares, are : dare, are : declare(Wilmot), are : care(Wilmot), star : declare(Otway), are : spare(Hammond), regard : car'd, regard : compar'd(2t), are : compare, are : declare, star : declare(Blackmore), star : care, are : declare(Garth), bar : care, far : care, are : compare(Walsh), are : care(3t), are : fare, are : share(King), are : care, stars : cares(Granviulle), are : care(2t), are : dare, are : share, are :

spare, far : care(Pomfret), farce : scarce(3t)(Swift), bar : care, far : share, far : spare(Yalden), car : dare, far : declare, far : share(Addison), are : care(Rowe), stars : cares, far : dare(Watts), are : ensnare, bar : care(2t), far : care, hard : spar'd(Somerville), are : compare, bars : unawares, hard : compar'd(Philips), are : care, stars : cares(Young), stars : fares(Fenton), Star : declare, Yard : spar'd(Diaper), are : care(2t), are : declare, hard : dared(Pope), are : share(Green), bar : share(Byrom), are : care, hard : compar'd, hard : spar'd(Thompson), star : dare, tarries : varies(Dodsley), are : compare(Jenyns), yard : squar'd(Falconer), farce : scarce(Lloyd), bard : dar'd, bard : shar'd, regard : shar'd(Beattie), far : care(Hamilton), farce : scarce(Mallet), car : bare(Harte), regard : shar'd(Boyse), Nard : shar'd, far : spare(Johnson), are : beware(2t), are : care, are : dare, yard : spar'd(Moore), are : care(W. Thompson), are : declare(Shenston), are : care, regard : declar'd(Wilkie), are : care(Blacklock), stars : squares(Fawkes), stars : square(Smart), far : dare, star : share(Mason), afar : care, are : care, stars : cares(Churchill), are : care, bard : shar'd, regard : shar'd, are : share, stars : squares(Cowper), yard : squar'd(Falconer), farce : scarce(Lloyd), bard : dar'd, bard : shar'd, rergard : shar'd(Beattie), are : dare, are : declare(2t)(Crabbe), far : care, are : declare, are : share(W. Whitehead), hard : bared, afar : share, hard : shared, Bard : spared(Wordsworth), are : fare(Keats), are : spare(Byron), are : care, mar : care, are : compare, star : glare(Shelley), are : fare(Keats).

8c : 6b

farre : forbear(Raleigh), are : forbear(F. Beaumont), are : where(Drummond), are : where(Habington), are : bear(Sherburne), Scar : bear(Shadwell), are : bear(Daniel), stars : wears(Butler), are : there, are : weare(Crashaw), are : bear(Denham), are : bear(2t), are : forbear, are : there(5t), are : wear(2t), are : where(Cowley), are : bear(Sherburne), are : bear, are : forswear(Wilmot), are : there(2t), are : there(Hammond), are : there(Cotton), Star : Bear(Dryden4), are : there(2t)(sprat), far : bear(Halifax), are : swear, far : there(Flatman), Scar : bear(Shadwell), are : there(2t), are : wear(Hammond), are : forswear(Duke), are : there, star : wear(Garth), are : bear(2t), are : there(Pomfret), star : there(Prior), stars : wears(Granville), are : wear(Swift), are : bear, far : there(Yalden), are : there(Rowe), car : bear(2t)(Hughes), are : there(Diaper), stars : bears, star : wear(Pope), are : swear(Dodsley), car : wear(Jenyns), are : swear(Shenston), car : bear, are : beare, are : tear(Cambridge), are : wear(Churchill), far : there(Cowper), are : whate're(Byron), are : swear(Dodsley), car : wear(Jenyns), are : forswear(Shenston), car : bear(Gray), stars : bears(Cawthorn), are : wear(Churchill), far : there(Cowper), are : where(Keats),

8c : 13b

are : empare(Spenser1), are : faire, are : haire(Spenser4), are : faire(Spenser-Minor), are : dispaire(Lyly), are : ayre, are : despaire, are : faire(3t), are : repaire(Warner), are : despayre, are : repayre, are : stayre(Drayton), are : aire(2t), are : faire(2t), are : repaire(Donne), are : aire(2t), are : faire, are : repaire(Stirling), are : faire, are : repaire(Corbet), are : fair(G. Fletcher), are : faire(Browne), are : ayre, are : despaire, are : faire(3t), are : haire(Herrick), are : fair, are : hair, are : repair(King), are : faire, are : fayre, are : paire(Carew), are : air(6t), are : Despair, are : fair(4t), are : impair, are : pray'r(3t), are : prayer, star : air(2t)(Benlowes), are : faire(5t), are : prayer(Habington), are : faire(2t), are : faire(2t)(Davenant), are : fair(2t)(Waller), are : fair, are : Pair, are : prayer(Milton), are : air(Suckling), are : despaire, are : fair(4t), are : faire(Whiting), are : fair(2t)(Cartwright), are : repair(Butler), are : Chair, are : fair(Cleveland), are : Despaire, are : fair(2t)(Denham), are : fair, are : faire(Crashaw), are : Air, are : Payre(Lovelace), are : despair, are : fair(9t), are : pair, are : prayer(Cowley), are : fair(6t), are : hair, are : prayer(Sherburne), are : fair(2t)(Brome), are : fair(2t), are : Hair(2t), are : Pray'r(Marvell), are : despair(Stanley), are : fair(Hannay), are : air(Hall), are : Air, are : Fair(4t), Star : Air, Star : fair, Star : fair(2t)(Cotton), are : air, are : despair, are : repair(Phillips), are : fair(2t), are : Pray'r, Star : despair, Star : fair, Star : Hair(Dryden2), Car : Despair(Dryden3), are : fair, are : Pray'r, bar'd : repair'd(Dryden4), are : fair(Halifax), star : fair(2t), are : hair, star : Chair(Flatman), are : fair(Ayres), are : fair(2t), Star : fair(Shadwell), are : fair, are : repair(Wilmot), are : pair(Otway), are : air(2t)(Hammond), star : air(Blackmore), star : fair(Duke), are : despair(Walsh), far : air(King), are : prayer, bar : fair(Prior), are : despair(3t)(Pomfret), barr'd : repair'd(Congreve), are : despair, are : pair(Rowe), afar : air, afar : repair, star : hair(Addison), star : fair(Watts), are : fair, hard : repair'd(Sommerville), stars : affairs(Young), are : fair, star : fair(Fenton), are : pair, Star : Air(Diaper), are : fair(Halifax), are : fair(2t), star : fair(Shadwell), are : fair(Ayres), are : fair, are : repair(Wilmot), are : pair(Otway), are : air(2t)(Hammond), are : despair(2t)(Pomfret), are : despair(Walsh), afar : air, afar : repair, star : hair(Addison), are : despair, are : pair(Rowe), are : fair, hard : repair'd(Sommerville), stars : affairs(Young), are : fair, star : fair(Fenton), are : Pair, Star : Air(Diaper), are : hair, car : air(Gay), are : chair, Star : air(2t)(Pope), bar : fair, stars : affairs(2t)(Byrom), afar : air, car : air, car : fair(West), are : fair(Harte), afar : pray'r, bar : despair, far : air(2t)(Johnson), are : fair(Moore), are : fair(Moore), are : fair(3t)(W. Thompson), are : fair(2t), are : repair(Shenston), are : fair, far : air(2t)(W. Whitehead), are : Fair(Collins),

card : pair'd, carre : air, carre : fair(Cambridge), are : debonair, star : air(J. G. Cooper), car : air(Mason), starts : theirs(Churchill), afar : despair, are : pray'r, far : hair(Cowper), are : chair(Lloyd), car : air(Beattie), are : dspaire(Crabbe), afar : air(Wordsworth), are : fair(Byron), star : despair(Shelley), are : fair, are : repair(Keats).

8c : 3b は PE では [a:] : [iə] の, 8c : 5b, 8c : 6b, 8c : 13b は [a:] : [εə] の不完全韻であるが, EModE 期以降豊富に見出されている。8c : 3b は 8c を持つ語 (are, bar, farhard, star, war) の ME/a:/ 異形(Dobson, 1968², § 4, § 43, Note 2) と ME/e:/ を持つ語 ME/ε:/ 異形(Dobson, 1968², §§ 118-126) に依存するものである。8c : 5b, 8c : 6b, 8c : 13b は 8c を持つ語の ME/a:/ 異形に依存する 5b : 5b, 5b : 6b, 5b : 13b となり, [r] の前で ME/a:/, ME/ai/, ME/ε:/ が [ε:r] で融合したことを示す例となる。8c : 5b の多くは 8c に are を含むものである。are は ME では強形の are(n) と弱形の ar(e) が並存しており, are の PE 音 [a:] は弱形が再強勢を受け長母音化したことに由来する。are の [εə] という発音が 18 世紀の遅くまで存在していたということは, 1) 正音学者の陳述 (Price の are と air は発音が同じである, Cooper の are, air, heir, ere 等は発音が同じであるという証言), 及び, 2) 臨時綴字 (Verney Memoirs では, are が air, aier の綴り字で現れており, Dickens には, 下層階級の人々によってではあるが, are の代わりに air の形を用いている) によって確かめることが出来る。唯, [r] の前の ME/a/ が何時 [a:] になったかは未だに開かれた問題である。Kökeritz(1953, p. 170)は [r] の前の ME/a/ は, [f, s, θ] の前の ME/a/ と同様に, Shakespeare の頃には [æ:] に長母音化していたと想定している (しかし, 今日の [ɑ:] は ME/a/ が [a] のまま残った方言音(Oxford, Bedford)が標準音に取って代わったものとしている)。Dobson(1968², § 43)は Bullokar(Sussex 出身)は ME/a/r と ME/a:/r を同一視しているが, Danies(1640)は区別している点に着目して, ME/a/r の長母音化は南部方言, 卑俗なロンドン英語では既に ME/a:/ の高母音化の前, 即ち 16 世紀末までに, 完了していたので両者は融合していたが, 標準英語では ME/a:/r の長母音化はずっと遅く, 17 世紀半ばまで ME/a/r と ME/a:/r は区別されていたと想定している。一見したところ, [r] の前で ME/a/ が長母音化したことを示す 8c : 5b(star : care), 8c : 6b(star : there), 8c : 13b(star : air) が 16-7 世紀の詩人に豊富に見出されている。しかし, care には ME/a/ 異形が並存していた証拠があるので, 8c : 5b(star : care) は 8c 同士の脚韻であるかもしれず, [r] の前で ME/a/ が長母音化したことの実証にはならない。there, star に ME/a:/ 異形が並存していた証拠があり, 8c : 6b (star : there)は ME/a:/ 同士の脚韻, 8c : 13b(star : air)も ME/a:/ と ME/ai/ の脚韻かもしれず, 脚韻の証拠から, [r] の前で ME/a/ が長母音化したことの実証はならない。

8. 3. 3. 2. 8c : 8g (ME/a/r : ME/a/ [w] ___)

affarre : warre, arme : warme, hert : part, harme : warme(3t), marre : warre, regard : re-

ward, regarde : reward, vnharde : reward(Wyatt), are : warre(2t), arre : warre, charme : warme, marre : warre, regarde : warde(Turberville), are : warre(3t), farre : warre(2t), harme : warme, regard : reward(2t), regarde : rewarde, skarres : warres, starres : warres(Gascoigne), arre : warre, farre : warre(3t), starre : warre(Spenser1), armd : swarmd, armd : warmd, arme : swarme, arre : warre(4t), Carle : quarle, charmd : warmd, depart : quart, disarm : swarme, disarmed : warmd, farre : warre(6t), hard : reward, hard : ward, harmed : warmd, harme : swarme, hart : quart, marle : quarle, marre : warre, part : quart, part : swart, regard : reward(2t), regard : ward, starre : warre(2t)(Spenser2), bard : ward, farre : warre, gard : reward, hard : reward(4t), mard : reward(2t), regard : reward(3t)(Spenser3), alarme : warme, arre : warre, farme : warme, hard : adward, hard : ward, harme : warme, vnbard : ward(Spenser4), allarme : swarme, armed : swarmed, armed : warned, discarded : warded, farre : warre, hard : reward, hard : ward, harmed : swarmed, harmed : warned, marre : warre, regard : reward, regard : ward(Spenser5), bard : ward, hard : ward(3t)(Spenser), marre : warre, are : warre, bar : warre, farre : warre, hard : reward(2t), hard : ward, marre : warre(2t), regard : reward, regardfull : rewardfull, starre : warre(Spenser-Minor), are : warr, are : warre, farr : warr, Harme : warme, regard : reward, scarres : wares, starrs : warrs(Raleigh), are : warre, arme : swarme(3t), arme : warme, armed : swarmed, armed : warned, charmed : warned, harme : swarme, harmed : warned, heart : thwart, part : thwart, regarded : rewarded(2t)(Sidney), harme : warme, regarde : Warde, regarde : rewarde, starres : warres(Lyly), arme : swarme(2t), armes : swarmes, bar : war, barr : warre, barre : war, barre : warre, far : warre, farre : warre(2t), harme : warme(2t), regarded : rewarded, starre : warre, starres : warres(Warner), harm : swarm, heart : wart, star : war(Southwell), afar : war(2t), are : war(14t), bar : war, far : war(8t), harm : warm, heart : thwart, mar : war(6t), marble : warble, mars : wars, part : thwart, regard : reward(3t), regarded : rewarded, star : war(Daniel), are : warre(3t), armes : swarmes(3t), armes : warmes(2t), barre : ware, card : ward, carre : warre, charmes : warmes(2t), farre : warre(10t), hard : reward, harme : warme, heart : thwart, marer : warre, part : thwart, parted : thwarted, regard : reward, regarded : rewarded, scarre : warre, skarr : warre, skarre : warre(4t), starre : warre(2t), starres : warres(3t)(Drayton), afar : war, are : war, bar : war, barr'd : reward, charmed : warned, disarm'd : warm'd, far : war, harm : warm, harmed : warned, regard : ward, scar : war, scars : wars, sharp : warp, starts : wars(Shakespeare), are : ware(3t), farre : warre(2t), harme : warme(2t), scarres : warres, starre : warre, starres : warres(Marlow), are : War, are : War(4t), Art : overthwart, farre : warre(2t), harme : warme, hearst : overthwart, marr'd : Ward, parts : overthwarts(Donne),

are : warre(3t), barr'd : reward, Barre : warre, charme : swarme, charme : warme, farre : warre, harpe : warpe, regard : reward, sharpe : warpe, Stare : warre(Jonson), afarre : warre, alarme : warme, are : warre, arm'd : swarm'd, arme : warme(3t), armes : swarms(2t), armes : warmes, barre : warre, barres : warres(2t), charme : swarme, charme : warme(2t), charmes : warmes, farre : warre(5t), harme : swarme, harme : warme(4t), harmes : swarms(2t), marr'd : warr'd, marre : warre(5t), arres : warres(2t), regard : reward(2t), regards : rewards, starre : warre, starres : warres(2t) (Stirling), charme : swarme(2t), garde : ward(Marston), Barre : warre, Charters : Quarters, Garter : quarter, harme : warme, martyrs : quarters (Corbet), arm'd : warm'd, barr'd : reward, barr'd : ward, charm : swarm, disarm : warm, far : war, regard-thee : reward-thee, regarded : rewarded(P. Fletcher), barr'd : award, bare : warre, farre : warre, regards : rewards, starre : warre(J. Beaumont), are : war, far : war, guard : reward, hard : reward, sharp : warp, star : war, stars : wars(F. Beaumont), afar : War, alarm : warm, arm : warm, arms : warms, bar : war, card : reward, hard : reward, star : war(G. Fletcher), car : war, car'd : reward, dart : quart, marr'd : reward, part : quart, regard : reward(Kynaston), are : war(2t), far : war, regard-thee : reward-thee, stars : wars(Ford), are : warre, armes : swarms, armes : warmes, farre : warre(2t), scarres : warres, starre : warre, starres : warres(Browne), are : War(2t), are : Warre(7t), Art's : warts, harm : warm, harme-thee : warme-thee, Starres : warres(Herrick), are : war(2t), bar : war, bar'd : ward, bars : wars, regard : reward, scar : war, star : war, stars : wars(3t) (King), farre : warre, starres : wares(2t) (Herbert), arme : warme, bar'd : reward, farre : warre(Carew), bars : wars, guard : reward, scars : wars(Chalk-hill), card : reward(Marnion), hard : ward, mars : wars, stars : wars(Benlowes), are : warr, are : warre(8t), arme : warme, charme : warme, skar : warr, starres : warres(4t) (Habington), are : war(4t), are : warr, are : warre(15t), arm'd : warm'd (2t), arms : warms, barr'd : reward, charm : warm, farr : warr, harm : warm, regard : reward, star : war, stars : wars(Davenant), are : war(2t), arm : warm, charm : warm, far : war (2t), hard : reward, star : war(2t), stars : wars(2t) (Waller), far : war(Godolphin), bar : war, part : thwart, regard : reward, regarded : rewarded, star : war, stars : wars(Whiting), far : war(Suckling), Arms : warms, harms : warms(2t) (Milton), far : war, regard : reward(Bosworth), far : war, regard : reward(Bosworth), bar : war, harm : warm(Cartwright), are : war(3t), arms : swarms, bar : war(4t), car : war, cards : wards, far : war(4t), hard : reward, harm : warm, heart : ward, martyr : quarter, scars : wars, star : war(4t), starter : quarter, tartar : quarter(Butler), are : warre(2t), arme : warme, Barres : warres, Barres : Warrs, charme(2t), harm : warm, harme : warme, scarres : warres(4t), scarrs : wars, starr : warr

(Crashaw), arm : swarm, arm : warm, bar : war, charm : warm, scar : war, sharp : warp, Star : war, stars : wars(Cleveland), war : are(3t), warm : arm, war : Bar, war : far, reward : regard(Denham), scarres : warres, scars : wars(2t), star : War(2t), wars : Stars(Lovelace), afar : war(6t), alarm : swarm, are : war(3t), bar : war, far : war(2t), hard : reward, harm : warm(3t), starres : warres, stars : wars(Cowley), wars : stars(Sherburne), war : are(11t), war : bar(2t), war : far(14t), wars : scars(2t), wars : stars(4t) (Chamberlain), are : War(2t), are : ware, Arm : warm, arms : swarms, carr : Warr, charm : warm, disarm : warm, far : War(3t), farre : warre, part : thwart, Scars : Wars, Star : war(2t), Starres : Warrs(Marvell), are : war, armour : warmer, wars : bars, warmer : charmer, quart : heart(2t), Mar : war, part : quart, R : war, regard-us : reward-us(Brome), charms : warms, harms : warms (Hannay), charm : warm(2t) (Stanley), arm : warm, bar : war(3t), barre : warre, far : war (2t), farr : Warr, farre : warre, harm : warm, heart : thwart, regard : reward, scar : war (2t), star : war, Stare : Warre, Stars : wars(6t), unregarded : rewarded(Vaughan), dart : short, harm : storm(3t) (Phillips), are : war(2t), are : warre, barr : warre, Charm : Swarm, far : warre, farr : Warre, harm : swarm, harm : warm(2t), mars : warres(2t), scarres : warres(Cotton), afarr : War, are : War(3t), arm : warm(2t), arm'd : warm'd, Arms : swarms (2t), bar : war(3t), Barr : warr, far : War(7t), farre : Warre, regard : reward(2t), Scars : Wars(2t) (Dryden1), afar : war(8t), alarms : Swarms, allarm : swarm, are : War(2t), arm'd-ye : warm'd-ye, disarm'd : unwarm'd, far : War(5t), hard : Reward, hard : wqard, regard : Reward(Dryden2), afar : War(22t), Alarms : warms, are : War(4t), Arm : warm, arm'd : warm'd(2t), Arms : warms(2t), Bar : War, Barrs : Wars, bars : Wars, Car : War(3t), Carr : War, far : war(22t), regard : reward, regards : Rewards, unbar : War(2t), unbars : wars (Dryden3), afar : War(5t), Alarms : swarms, war : are, warm : Arm, Swarm : Arms, War : Bar, War : car(3t), War : Carr, War : far(9t), Reward : hard, Reward : regard(3t), Wars : Scars, War : Skar, Wars : Stars(Dryden4), are : war, arms : warms, bar : war(Roscommon), war : are, wars : scars(Sprat), war : afar, warms : charms, war : far(2t) (Halifax), War : are (2t), war : far, warm : harm, war : prefer, Reward : Regard, War : scar(Flatman), Quarters : Garters, war : are, warm : arm, war : far, War : Scar(Shadwell), war : far(3t), wars : Mars, reward : regard, wars : scars(Ayres), War : afar, war : are, Wars : Scars(Wilmot), are : war, charm : warm, far : war, harms : warms, regard : reward(2t) (Sheffield), war : afar, war : bar, war : far, swarm : harm, reward : regard, ward : regard(Otway), bar : war(Carey), charm : warm, charms : warms, harms : warms(Hammond), afar : war, bar : war, car : war, regard : reward(Blackmore), war : bar, war : far, wars : farce(Duke), afar : war, arm : warm, charms :

warms(Garth), war : far(Stepny), debarr'd : reward, far : war, hard : reward(2t)(Walsh),
 warm : alarm, war : are, warm : arm, warms : arms, war : car(4t), warm : charm, charm'd :
 warm'd, war : far, warm : farm, quart : heart, rewarded : regarded, war : star(2t)(Prior), war :
 are, warms : arms, war : bar, warm : charm, warms : charms, warm : disarm, war : far, re-
 ward : hard(Granville), warms : arms, warms : charms, war : far(2t)(Pomfret), War : afar,
 Swarm : Alarm, warm : Arm, ward : bard, Rewarded : Bard-did, Reward : barr'd, War : Car,
 War : far(2t), warmer : farmer, Reward : hard, warm : harm, warbled : marbled, Quarter :
 Martyr, War : Scar, Wars : Scars, War : Star, war : tar(Swift), afar : war, charms : warms,
 far : war(Congreve), starve : deserve, starves : deserves(Yalden), afar : war, arm'd : warm'd,
 arms : swarms, arms : warms, charm : warm, charm'd : warm'd, charms : warms(2t), far :
 war(2t), star : war, stars : wars(Addison), afar : war, are : war, arm : warm, arms : warms
 (3t), cars : wars, charm : warm, charms : warmsfar : war(2t), harm : warm, regard : ward
 (Rowe), afar : war, arm : swarm, star : war, stars : wars(Watts), arms : warms, art : quart,
 bar : war, farm : warm, garter : quarter, part : quart, regard : reward, star : war(Somer-
 ville), car : war, charm : warm(2t), far : war, regard : ward(2t)(Philips), afar : war(5t),
 alarms : warms, charms : warms, far : war(4t), stars : wars(2t), unbar : war(Hughes), afar :
 war(7t), arms : swarms, arms : warms(2t), bard : reward, car : war, charms : warms, far :
 war, hard : reward(2t), regard : reward(Parnell), afar : war, alarm'd : warm'd, are : war, arm :
 warm, arms : warms, car : war(2t), charm : war, charms : warms(4t), far : war(2t), star :
 war(2t), stars : wars(2t)(Young), armour : warmer, arms : swarms, arms : warms, bar : war,
 charm'd : warm'd, charms : warms(3t), martyrs : quarters, regard : reward, stars : wars(Fen-
 ton), afar : war, Arms : warms, Bard : reward(2t), Darts : thwarts, harm : warm, regard :
 reward(Diaper), afar : war(3t), alarms : swarms, arm : warm, arms : swarms, arms : warms,
 bar : war(2t), barn : warn, barr'd : reward, charm : warm, charm'd : warm'd(2t), charming :
 warming, charms : swarms, charms : warms(3t), disarm : swarm, disarm : warm, far : war
 (2t), farm : warm(2t), harm : swarm(2t), harm : warm(3t), heart : quart, rward : reward
 (6t), regards : rewards(Gay), afar : war(4t), arms : swarms, arms : warms, bar : war, car :
 war, charms : warms, far : war, regard : reward, scar : war, scars : wars, star : war, stars :
 wars(4t)(Tickle), afar : war, arms : warms(4t), bar : war, car : war, Cards : rewards, cars :
 wars, harm : warm, harms : warms, garters : Quarters, martyr : quarter, scars : wars(Pope),
 afar : war(2t), arms : swarms(2t), charming : warming, far : war, scars : wars(Broome),
 charm : warm(2t), far : war(6t), garter : quarter, hard : ward, regard : ward, starts : wars
 (Byrom), far : war, car : war, charms : warms, far : war(2t), scars : wars(Pitt), car : War

(2t), charms : warms, far : War, harms : warms, star : War(Thompson), afar : war, cars : wars, charm : warm, charm'd : warm'd, charms : warms, star : war(Savage), car : war(3t) (West), arms : warms, charm : warm(3t), charming : warming(2t), hard : reward, regard : reward(Dodsley), afar : war, arm : warm(2t), charms : warms, harm : warm, regard : reward(3t), stars : wars(Jenyns), afar : war, alarm : warm, arm : warm, arms : warms(2t), bar : war, car : war, charm : warm(2t), charms : warms(2t), disarm : warm(Hamilton), are : war, arm : warm, bar : war, charm : warm, charm'd : warm'd, charms : warms, far : war, regard : reward(Mallet), dart : thwart, dar : war, scar : war, star : war(2t)(Brooke), afar : war, arms : swarms, bard : reward, charm : warm(2t), charm'd : warm'd, charms : warms (5t), far : war(2t), harms : warms, regard : reward, scar : war(Harte), afar : war(3t), alarms : warms, arms : warms, bar : war, car : war, charm : warm(2t), charms : warms(2t), far : war (3t), farm : warm, hard : reward(2t), regard : reward(3t), regards : rewards(Boyse), bard : reward, car : war, charm : warm(2t) (Lyttleton), arm : warm, arms : warms, bar : war, car : war, Charm : warm(2t), charm'd : warm'd, Mars : wars, scar : war(P. Whitehead), arms : charms, art : heart(2t), heart : part, heart : smart(Armstrong), charm : warm, hard : reward, regard : reward(Johnson), charm : warm(Hammond), afar : war, bar : war, charm : warm(2t), scar : war(Moore), charm : warm(2t), charm'd : warm'd, regard : reward(2t) (W. Thompson), alarms : warms, arms : warms, car : war, charm : warm(3t), charm'd : warm'd (2t), charms : warms(4t), marble : warble, regards : rewards(Shenston), alarm : warm, arms : warms, bar : war, bard : reward(3t), bards : rewards, car : war(8t), card : reward, charm : warm(2t), charms : warms(2t), far : war(5t), regard : reward, scars : wars, stars : wars(W. Whitehead), afar : war(2t), cars : Wars(Gray), alarms : Swarms : Arms(Collins), war : bar, wars : cars(4t), charm : warm(3t), charms : warms, far : war, scar : war(Cawthorn), bard : award(3t), bard : reward, bards : rewards, cars : wars, charm : warm, charms : warms, hard : reward(Akenside), afar : war, par : war, star : war(Smollet), car : war(2t), charms : swarms, discarded : awarded(J. G. Cooper), afar : war(6t), bar : war(3t) car : war(9t), charm : warm, far : war(9t), harm : warm, mar : war, regard : reward, regards : rewards, star : war, unbar'd : reward(Wilkie), arm'd : warm'd, bard : reward(2t), charm : warm(2t), charm'd : warm'd, charms : warms(2t), harm : warm, regard : reward(Blacklock), warms : arms, war : car(3t)(J. Warton), afar : war, arm'd : warm'd, bar : war(2t), bard : reward, car : war, charm'd : warm'd, far : war(2t), heart : quart(2t), regards : rewards(2t) (Fawkes), arm : warm, arms : warms, bard : reward(2t), car : war, regarded : rewarded(Smart), afar : war(2t), arms : warms, bards : awards, car : war, charm : warm, charms : warms, far : war, hard : reward,

regard : reward(T. Warton), car : war(2t), hard : reward(Cunningham), are : war, charm : warm(4t), charms : warms, far : war, star : war(Mason), afar : war, arm : warm, arms : warms(2t), far : war, hard : reward, scar : war(Churchill), afar : war(2t), alarms : warms, are : war, arm : warm, bar : war, bard : reward(3t), car : war, charm : warm, charms : warms(3t), far : war(2t), hard : reward(3t), regard : reward(2t)(Cowper), afar : War(4t), arm : swarm(2t), car : war(5t), far : war, regard : reward, scar : war, star : war(Falconer), charms : warms, far : War(Lloyd), afar : war, car : war, charms : warms(2t), far : war(4t), har : warm, star : war(Langhorn), arms : warms, scar : war(Mickle), afar : war(7t), alarm : warm(2t), alarms : warms, arm : warm, arms : warms(2t), bar : war, car : war, charm : warm(5t), charm'd : warm'd, charms : warms, disarm : warm, far : war(2t), star : war(Beattie), car : war, charm'd : warm'd, far : war, star : war(Lovibond), afar : war(3t), car : war, charm : warm, star : war(Logan), war : car(Chatterton), afar : war, alarm : warm, bard : reward(2t), charm : warm(2t), far : war, farm : warm, hard : reward, regard : reward(2t), regard : ward, scars : wars, tar : war(Crabbe), arm : warm, arms : warms, farm : warm, hard : reward, harm : warm(Wordsworth), afar : war(7t), are : war, bar : war, bard : reward(7t), bard : warr'd, bards : Wards, car : war(3t), charm : warm(2t), charm'd : warm'd, disarm : warm, far : war(3t), farm : swarm, hard : reward, hard : reward, harp : warp, hearted : thwarted, mar : war, marr'd : reward, mars : wars, parted : thwarted, regard : reward, scar : war, sharp : warp, star : war(3t), unbar : war(Byron), warm : charm, warms : charms, war : far, war : star(2t)(Shelley), afar : war, alarm : swarm(2t), alarm : warm(5t), arm : warm, arms : warms, bard : award, charm : warm(5t), toward : sward(Keats).

8g : 8c は PE では視覚的には韻を踏むが、音声的には韻を踏まない [ɔ:] : [a:] の不完全韻である。しかし、この種の脚韻は、EModE 期以降、どの詩人にも一様に豊富に見出されている。これらの脚韻は押韻語が同じ発音であること ([w] の後の ME/a/ と独立位置の ME/a/ の発音が同じである) を示すだけで、それ以上のこと、つまり [w] __ (r) の環境で ME/a/ > [ɔ:] に変化したかに関しては何も示さない。

8. 3. 3. 3. 8c : 9b (ME/a/r : ME/i/r)

hert : shert, smert : shert(Wyatt), Farth : birth(Browne), Hearth : mirth(6t), hearth-here : mirth-here(Herrick), start : dirt(Herbert), hearth : birth, hearth : mirth(Milton), Farth : birth(Cartwright), far : Sir(Lovelace), far : stir, far : stirre(Vaughan), hearth : mirth(Cotton), hearth : Mirth(Dryden1), Hearth : Birth(Dryden4), hearth : birth(Sprat), unarm'd : confirm'd(Jenyns), hearth : mirth(Lyttleton), Farth : birth(Smart), hearth : mirth(Beattie),

hearth : birth (Byron).

8c : 9b は PE では [a:] : [ɔ:] の不完全韻であるが, EModE 期以降, Wyatt (Kent), Browne (Devonshire), Herrick (Devonshire), Herbert (Montgomery), Cartwright (Gloucestershire), Lovelace (Kent), Vaughan (Wales), Cotton (Stafford), Dryden (Northamptonshire), Sprat (Devonshire), Lyttleton (Worcestershire), Smart (Kent), Beattie (Scotland) に見出されている。Dobson (1968², § 75) によると, birth, mirth, shirt, sir に M/ɛ/ 異形が, OED は confirm, dirt, stir に ME/ɛ/ 異形 (3-6 conferme, 6-7 berth, 4-6 ster) が並存していたことを示している。8c : 9b は東部・西部・Scotland 方言での ME/i/ の ME/ɛ/ 異形 > 低母音化 > ME/a/ 異形に依存する完全韻となる。

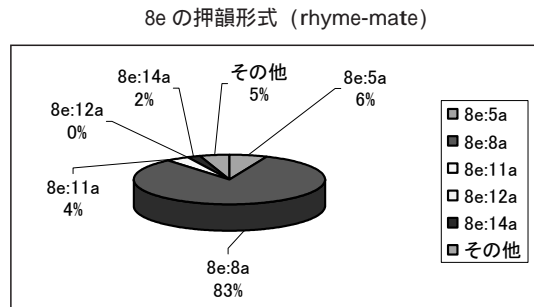
8. 3. 3. 4. 8c : 12c (ME/a/r : ME/u/r)

dark : warke (Howard), carke : warke, darke : warke, dirke : mirke, Larke : warke (Spenser-Sc), barke : warke, marke : warke (Spenser2), Arke : warke, armes : wormes, Clerkes : werks (Spenser-Minor), marke : warke (Browne), regard : word (Marmion), harn : urn (Suckling), dark : work (Butler), charms : worms (2t) (Watts), harm : worm (Keats).

8c : 12c は PE では [a:] : [ɔ:] の不完全韻であり, EModE 期から見出されているものの, 8a : 12a 同様, 北部・南部・南西部方言で散見される現象に過ぎない。work の wark とい臨時綴字からわかるように, OED は work に ME/a/ 異形が並存していたことを示している。work を含む脚韻はスコットランド, 北部方言異形 ME/a/ (4- wark) に依存する視脚韻である。Dobson (1968², § 90 Note 2) によると, この ME/a/ 異形は work の ME/ɔ/ 異形が平唇化したものである。dirke : mirke は dark, murk の ME/i/r 異形 (dirk 4-6, mirke 3-7) に依存する eye-rhyme である。murk は Scotland 方言では mirk が好まれている。OED にも urn, word, worm に ME/a/ 異形が存在していた証拠はないが, これらを含むものも, worse, work に倣った方言的異形 ME/u/ > [ɔ] > [a] に依存するものであろう。事実 Bullokar には ME/u/ の ME/a/ 異形に依存する last : must, smart : hurt が見出されている (Dobson, 1968², Vol. 1 p. 109)。worm (< OE wyrm) は 11 世紀頃, [w] の円唇化によって, wurm となり, やがて Kent 方言を除く他の地域に広まった。EModE 期の worm はこの wurm の書記上の変形である。今までの検討の結果, EModE 期以降, ME/a/r は ME/a/r だけでなく, ME/e:/r, ME/a:/r, ME/ɛ:/r, ME/i/r, ME/u/r, ME/ai/r と押韻しているが, それらは融合を示すものではなく, 押韻語の一方に相手方の音韻を持つ異形に依存する脚韻であることが明らかとなった。[w] ___ C (C [g, n, ŋ]) の ME/a/ は今日 [ɔ] (> [v]) と発音されている (want ↔ wag, wax, wrangle)。この過程は ME/a/ = [a] > [æ] より早く, was, wast, what の文法語では ME 期に始まり, 最初, 卑俗的又は方言(東部)であったものが, 漸次 StE に入り, 1650 年頃確立したものである。

ME/a/([w] __C) は, EModE 期以降, ME/a:/, ME/ɔ/, ME/u/, ME/au/ と押韻しているが, これらの脚韻はどの音価に依存するものであるか。ME/a/([w] __C) は EModE 期に後舌化(backing)されていたかどかは, 英語音韻史の難問の一つになっている。以下, この難問を脚韻を中心に, 母音番号順に検討する。

次の円グラフは筆者が調査した各詩人に見出される [w] の後の ME/a/ を含む全脚韻の中で, ME/a/([w] __) の rhyme-mate とその相対頻度を示したものである。この環境の ME/a/ は押韻総数は少ないが, EModE 期以降 ME/a/ だけでなく ME/a:/, ME/ɔ/, ME/au/, ME/u/, その他と押韻している。



押韻率の点では ME/a/: ME/a/ のそれ (82.6%) が一番高く, 以下 ME/a/: ME/a:/ (6.5%), ME/a/: その他 (4.9%), ME/a/: ME/ɔ/ (3.6%), ME/a/: ME/au/ (2.1%), ME/a/: ME/u/ (0.3%) の順になっている。ME/a/: ME/a/(was : case) は case の ME/a/ 異形に, ME/a/: ME/ɔ/(was : cross) は [ɔ] に, ME/a/: ME/au (want : daunt) は daunt の ME/a/ 異形に, ME/a/: ME/u/ (want : hunt) は方言音 [e] に依存するものである。

次の表は 16-18 世紀の各詩人に見出される [w] の後の ME/a/ を含む全脚韻の中で, ME/a/ と ME/a/, ME/a:/, ME/ɔ/, ME/au/, その他の脚韻の実数を示したものである。以下母音号順に考察する。

8e の押韻形式

	8e : 5a	8e : 8a, 8b, d, e	8e : 11a	8e : 12a	8e : 14a	その他	total
T. Wyatt (1503-42)	3	11	0	0	0	0	14
H. Howard (?1517-47)	0	0	0	0	0	0	0
G. Gascoign (c.1535-77)	1	30	0	0	0	0	31
G. Turberville (?1540-1610)	0	15	0	0	0	0	15
E. Spenser (1552-99) Sc	0	8	0	0	0	0	8
Fairy Queen 1 巻	0	35	0	0	0	0	35
Fairy Queen 2 巻	0	35	0	0	0	0	35
Fairy Queen 3 巻	0	25	1	0	0	1	27
Fairy Queen 4 巻	0	27	0	1	0	0	28
Fairy Queen 5 巻	3	21	0	0	0	0	24
Fairy Queen 6 巻	5	18	0	0	0	0	23
Minor Poems	1	28	1	0	0	0	30
W. Raleigh (1552-1618)	0	0	0	0	0	0	0

P. Sidney (1554-84)	1	18	0	0	0	0	19
Lyly (?1554-1606)	0	8	0	0	0	0	8
W. Warner (1558-1609)	0	45	0	0	0	0	45
G. Chapman? (1559-1634)	1	30	0	0	0	0	31
R. Southwell (1561-95)	2	3	1	0	0	0	6
S. Daniel (?1563-1619)	2	26	0	0	2	1	31
M. Drayton (1563-1631)	0	46	2	0	0	1	49
C. Marlowe (1564- 93)	0	15	0	0	0	0	15
W. Shakespeare 韻文のみ	0	9	0	0	0	1	10
W. Shakespeare 全 data	0	11	0	0	0	1	12
T. Campion (1567-1620)	0	3	0	0	1	0	4
J. Davies (1569-1626)	0	8	0	0	0	0	8
J. Donne (1572-1631)	0	30	0	0	0	0	30
B. Jonson (1572-1637)	0	18	0	0	0	0	18
J. Hall (1574-1656)	0	2	0	0	0	0	2
J. Marston (1576-1634)	0	4	0	0	0	0	4
E. Stirling (1580-1640)	0	25	0	0	0	14	39
R. Corbet (1582-1635)	0	5	0	0	0	0	5
P. Fletcher (1582-1650)	2	5	0	0	1	2	10
J. Beaumont (1583-1627)	0	2	0	0	0	0	2
F. Beaumont (1584-1616)	0	9	1	0	0	0	10
W. Drummond (1585-1649)	1	16	0	0	0	0	17
J. Ford (1586-1639)	0	6	1	0	0	0	7
F. Kynaston (1587-1642)	1	14	0	0	0	0	15
G. Fletcher (?1588-1623)	0	6	0	0	0	0	6
W. Browne (?1591-?1641)	1	28	0	0	0	0	29
R. Herrick (1591-1674)	0	34	1	0	1	0	36
G. Herbert (1593-1633)	1	12	0	0	0	0	13
H. King (1592-1669)	0	6	0	0	0	0	6
T. Carew (1594-1639)	0	1	0	0	0	0	1
J. Chalkhill (fl.1600)	8	10	0	0	0	0	18
S. Marmion (1603-39)	0	4	0	0	0	0	4
E. Benlowes (1603-76)	7	8	0	0	0	0	15
W. Habington (1605-54)	0	2	0	0	1	1	4
J. Davenant (1606-68)	0	4	0	0	0	12	16
E. Waller (1606-87)	0	2	0	0	0	0	2
W. Bosworth (1607-50?)	2	11	0	0	0	0	13
J. Milton (1608-74)	0	5	0	0	0	0	5
J. Suckling (1609-41)	2	2	0	0	0	0	4
N. Whiting (?)	1	27	0	0	0	0	28
S. Godolphin (1610-42-3)	0	3	0	0	0	0	3
R. Cartwright (1611-45)	0	5	0	0	0	0	5
S. Butler (1612-80)	3	14	1	0	0	6	24
R. Crashaw (1613-49)	3	0	0	0	0	0	3
J. Cleveland (1615-69)	0	2	0	0	0	0	2
J. Denham (1615-69)	3	11	0	0	0	0	14
R. Lovelace (1613-58)	0	9	2	0	0	2	13
A. Cowley (1618-67)	0	17	0	0	0	0	17

E. Sherburne (1618-1702)	0	1	0	0	0	0	1
W. Chamberlayne (1619-89)	0	22	0	0	0	0	22
A. Brome (1620-66)	2	18	2	0	1	1	24
A. Marvell (1621-78)	0	12	0	0	0	0	12
H. Vaughan (1622-95)	1	17	0	0	0	0	18
T. Stanley (1625-78)	0	1	0	0	0	0	1
P. Hannay (died 1629?)	0	11	1	0	1	1	14
J. Hall (1627-56)	3	5	0	0	0	0	8
C. Cotton (1630-87)	12	14	0	1	0	0	27
K. Philips (1631-64)	0	4	0	0	0	0	4
J. Dryden (1631-1700) 1 卷	2	4	1	0	0	1	8
2 卷	3	18	0	0	0	2	23
3 卷	3	8	0	0	0	1	12
4 卷	5	12	0	0	1	1	19
E. Roscommon (c.1633-85)	0	0	0	0	0	0	0
T. Sprat (1636-1713)	2	3	0	0	0	0	5
T. Flatman (1637-88)	2	3	0	0	0	0	5
E. Dorset (1638-1706)	0	0	0	0	0	0	0
P. Ayres (1638-1712)	1	1	0	0	0	0	2
T. Shadwel (?1642-92)	0	1	1	0	0	0	2
E. Rochester (1647-80)	0	4	3	2	0	0	9
J. Sheffied (1648-1721)	0	0	0	0	0	0	0
T. Otway (1651-85)	0	0	0	0	0	0	0
P. Carey (fl.1651)	0	12	1	0	0	0	13
W. Hammond (fl.1655)	1	4	0	0	0	0	5
R. Blackmore (?1655-1729)	0	5	0	0	2	0	7
R. Duke (1658-1711)	0	0	0	0	1	0	1
E. Halifax (1661-1715)	0	1	0	0	0	0	1
S. Garth (1661-1719)	0	1	0	0	1	0	2
G. Stepney (1663-1707)	0	0	0	0	0	1	1
W. Walsh (1663-1708)	0	1	0	0	0	0	1
W. King (1663-1712)	0	7	0	0	0	1	8
M. Prior (1664-1721)	2	19	3	0	3	8	35
J. Pomfret (1667-1702)	0	3	0	0	0	0	3
G. Granville (1667-1735)	0	3	0	0	0	0	3
J. Swift (1667-1745)	0	13	9	0	0	1	23
W. Congreve (1670-1729)	0	2	2	0	0	0	4
T. Yalden (1671-1736)	0	1	0	0	0	0	1
E. Smith (1672-1710)	0	0	0	0	0	0	0
N. Rowe (1673-1718)	2	1	0	0	0	0	3
J. Addison (1673-1719)	0	2	0	0	0	0	2
I. Watts (1674-1748)	0	1	0	0	0	0	1
W. Somerville (1675- 1742)	0	0	1	0	1	0	2
A. Philips (c.1675-1749)	0	1	0	0	0	0	1
J. Hughes (1677-1720)	0	2	0	0	0	0	2
T. Parnell (1678-1718)	0	4	0	0	0	0	4
E. Young (1681-1765)	0	3	0	0	0	0	3
E. Fenton (1683-1730)	0	6	0	0	0	0	6

W. Diaper (1685-1717)	0	3	0	0	0	4	7
J. Gay (1685-1732)	0	16	0	0	0	0	16
T. Tickell (1686-1740)	0	2	0	0	0	0	2
A. Pope (1688-1744)	0	8	1	0	2	0	11
W. Broome (1689-1745)	0	2	0	0	0	0	2
J. Byrom (1692-1763)	0	27	0	0	0	6	33
M. Green (1646-1737)	0	0	0	0	1	0	1
R. Savage (c.1697-1743)	0	1	0	0	0	1	2
C. Pitt (1699-1748)	0	2	0	0	0	0	2
J. Thomson (1700-48)	0	8	0	0	0	0	8
J. Dyer (?1700-58)	0	0	0	0	0	0	0
G. West (1703-56)	0	0	0	0	0	0	0
R. Dodsley (1703-64)	0	0	1	0	1	1	3
S. Jenyns (1703-87)	2	2	0	0	0	1	5
W. Hamilton (1704-54)	0	2	0	0	0	0	2
D. Mallet (?1705-65)	0	0	0	0	0	0	0
H. Brooke (1706-83)	0	3	1	0	2	0	6
W. Harte (?1707-74)	0	6	0	0	0	0	6
S. Boyse (1708-49)	0	3	0	0	0	0	3
L. Lyttleton (1709-73)	0	0	0	0	0	0	0
P. Whitehead (1709-74)	0	1	0	0	0	0	1
J. Armstrong (1709-79)	0	0	1	0	0	1	2
S. Johnson (1709-84)	0	2	0	0	0	0	2
J. Hammond (1710-42)	0	0	0	0	0	0	0
E. Moore (1712-57)	0	2	0	0	3	0	5
W. Thompson (1712-67)	2	1	0	0	0	0	3
W. Shenston (1714-63)	0	5	0	0	0	0	5
R. Jago (1715-81)	0	0	0	0	0	0	0
W. Whitehead (1715-85)	1	12	0	0	1	0	14
T. Gray (1716-85)	0	0	0	0	0	0	0
R. Cambridge (1710-1802)	2	10	1	0	1	0	14
J. Cawthorn (1719-62?)	0	6	0	0	0	0	6
W. Collins (1721-59)	0	0	0	0	0	0	0
M. Akenside (1721-70)	0	0	0	0	0	0	0
T. Smollett (1721-71)	0	0	0	0	0	0	0
W. Wilkie (1721-72)	0	2	0	0	0	0	2
F. Fawkes (1721-77)	0	1	0	0	0	0	1
T. Blacklock (1721-91)	0	1	0	0	0	0	1
C. Smart (1722-70)	0	3	0	0	0	1	4
J. Warton (1722-1800)	0	0	0	0	0	0	0
J. Grainger (1723-66)	0	0	0	0	0	0	0
J.G Cooper (1723-69)	1	1	0	0	0	0	2
W. Mason (1725-97)	0	6	0	0	0	0	6
O. Goldsmith (1728-74)	0	0	0	0	0	0	0
T. Warton (1728-90)	0	4	0	0	0	0	4
J. Cunningham (1929-73)	0	3	0	0	0	0	3
J. Scott (1730-85)	0	0	0	0	0	0	0
C. Churchill (1731-64)	0	0	2	0	0	0	2

W. Cowper (1731-1800)	0	5	3	0	1	0	9
W. Falconer (1732-69)	0	2	0	0	0	0	2
R. Lloyd (1733-64)	0	4	0	0	1	0	5
J. Langhorne (1735-79)	0	2	0	0	1	0	3
W.J. Mickle (1735-88)	0	3	0	0	0	0	3
J. Beattie (1735-1803)	0	4	0	0	0	1	5
E. Lovibond (?1735-75)	0	0	0	0	0	0	0
S.W. Jones (1746-94)	0	1	0	0	0	0	1
J. Logan (1744-88)	0	0	0	0	0	1	1
T. Chatterton (1752-70)	0	0	0	0	0	0	0
G. Crabbe (1754-1832)	0	9	0	0	0	0	9
W. Wordsworth (1770-1850)	0	6	0	0	0	0	6
G.G. Byron (1788-1824)	0	27	4	0	3	0	34
P.B. Shelley (1772-1822)	0	2	3	0	0	0	5
J. Keats (1795-1821)	0	21	6	0	1	1	29
	103	1316	58	4	35	78	1594

8. 3. 4. 1. 8e : 5a (ME/a/([w] ___) : ME/a:/)

was : case, was : place(Wyatt), was : chase(Gascoigne), was : face(Spenser-Minor), was : case, was : fase, was : grace(Spenser5), was : case, was : chase, was : place(Spenser6), was : blaze (Sidney), was : face, was : place(Daniel), was : face, was : grace(Southwell), was : grace, was : race(P. Fletcher), was : place(Drummond), was : case(Kynaston), was : face(Browne), was : grace(Herbert), was : chase, was : face, 'twas : grace, was : place(3t), was : race(Chalkhill), was : face(3t), was : grace(3t), was : space(Benlowes), was : face, was : place(Bosworth), was : grace, what : rate(Suckling), swaddles : cradles(Whiting), was : case, washes : faces, was : place(Butler), was : Chase, was : place(2t) (Denham), was : face(Vaughan), what : state(Hall), was : deface, was : face(2t), what : Fate, was : grace, was : place(5t), was : race, what : state(Cotton), was : Place(Dryden1), was : face, was : place, Swans : Planes(Dryden 2), Swan : Crane, was : face, was : Place(Dryden3), was : Embrace, was : Embrace, eas : Race (2t), was : Space(Dryden4), was : face, was : race(Sprat), was : face, was : place(Flatman), was : face(Ayres), was : embrace(Hammond), was : case, swadle : cradle(Prior), was : face, was : race(Rowe), was : case, was : face(Jenyms), was : face, was : Grace(Thompson), was : case(W. Whitehead), was : face, was : race(Cambridge), what : fate(Cooper).

8e : 5a は PE では [ɔ] : [ei] の不完全韻であるが、EModE 期以降見出されている。これは 5a を持つ語の ME/a/ 異形に依存する完全韻である。[w] が ME/a/ に円唇化の影響を与えたかに関しては何も示さない。Dobson(1968², § 194) によると、ME/a/ の [w] ___ (C [g, k, ŋ]) の環境での [a] > [ɔ] は Robinson, Daines, Coles, Cooper に示されている。この過程は明らかに ModE 期の [a] > [æ] より早い 1600 年以前に、特に was, wast, what の文法語では ME 期

([a] > [ɔ] の後退は 1) __ [v], 2) [w] __ の環境で生起している。1) での後退は 13 世前に EMid の 1 部で, 2) での後退は EME の Katherine グル - プや Sir Gawain and the Green Knight 等で見られる) に始まっている。最初, 卑語又は方言で始まったものが, 17 世紀以降標準英語へ浸透していった。しかし, quality, wan 等 1 部の語では古い [a] が 18 世紀まで存続した。又, 17-8 世紀には [ɔ] と並んで, 長母音化した [ɔ] > [ɔ:] が並存していた。

8. 3. 4. 2. 8e : 11a (ME/a/([w] __) : ME/ɔ/)

wallowed : followed(Spenser3), what : plot(Spenser-Minor), what : begot(Southwell), swallow : follow(F. Beaumont), swallow : follow(Herrick), quarrels : mortals(Butler), wallow : follow, want : upon't(Lovelace), what : not(Brome), swallow : follow(Hannay) Wallow : follow(Dryden1), swallow : follow(2t)(Shadwell), What : begot, What : not(2t)(Wilmot), swallow : follow(Carey), what : forgot(Prior), quarel : Moral, Quarrels : Morals(3t), swallow'd : follow'd, was-it : closet, what : hot, What : Plot(Swift), what : not(Congreve), what : got(Somerville), what : not(Pope), swallow : follow(Brooke), swallow : follow(Armstrong), quarels : mortals(Cambridge), was-it : closet(Cowper), what : got(2t)(Churchill), wanders : ponders(Shelley), wander'd : ponder'd(3t), wanders : ponders(Byron), swallow : follow, wand : beyond(2t), wand : conn'd, wander : beyond-her, wandering : pondering(Keats),

8e : 11b

was : cross, was : losse(Drayton), was : dross, was : loss(Prior), was : loss(Congreve),

[w] の ME/a/ に及ぼす円唇化の影響を示す 8e : 11a は総計 58 個見出されている。既に Spenser に見出されているものの, 1600 年以前に出生の詩人では稀であり, Southwell, F. Beaumont, Ford, Herrick に 1 例, Spenser, Drayton に 2 例見出されているに過ぎない。勿論, 押韻率も極低い。その他の詩人では見出されておらず, 8e : 11a は散発的に見出されいるに過ぎない。Dobson(1968², § 194)によると, 16 世紀の正音学者は誰も [w] の ME/a/ 及ぼす円唇化の影響を示しておらず, Robinson(1619) が初めて [w] __ C (C [g, k, ŋ], [r]) で ME/a/ = [a] > [ɔ] を示している。Dryden 以前では 8e : 11a は 14 個(24%)見出されているだけであるが, Dryden 以降になると 8e : 11a は 44 個(76%)見出され, 正音学者の陳述を裏付けるように 1650 年以降増える傾向にある。

] Wyld(1923, Rhymer, p. 68) によると, folly, not, plot, not, yonder に, Wright(1905, §§ 82-3) によると, cross に, OED によると forgot に ME/a/ 異形 (forgot 3-) が並存していた証拠があるので, 8e とこれらの語との脚韻は ME/a/ 同士のものかも知れない。

] swallow, wallow, wand, wander, want には ME/ɔ/ 異形(4-5 swollow, 4-5 wolow, 3-wond, 3 wonden, 3-5 wont) が並存していた証拠があるため, [w] __ の環境での ME/a/ > [ɔ]

の確証にはならない。しかし, quarrel には ME/ɔ/ 異形が並存していた証拠がないので, quarrel : 11a は [w] の ME/a/ に及ぼす円唇化の証拠になる。Wyld(1923, Rime, p. 68)によると, 15世紀の Cely Papers には was の代わりに wosse, whose 等の綴字, Machyn(1550)に wash に代わる wosse が見出されている。しかし, Berney Memoirs 以前にはこれ以上見つからない。Verney Memoirs(1639-96) は Daines, Cooper, 及び Dryden の時代に渡っており, この書簡集には wos(was), whot(what), wore(war), woshing(washing), wotching(watching), worrik, quorril, quollity 等のかんりの臨時綴字が見出されている。臨時綴字の証拠は新しい型の発音が文法家によって認められるよりも早くから存在していた。Cely Papers のものは無強勢からのもので確証にはならないが, Machyn のものは強勢あるものからのもので確証になる。しかし, 彼は庶民の出であり, 彼の発音が上流階級の発音を反映しているとは認めがたい。文法学者達によって新しい発音が認められる時期, wo という綴字が上流階級の人々によって用いられる時期, 及び wa- : ME/ɔ/ が見出される時期がほぼ一致している。

8. 3. 4. 3. 8e : 12a (ME/a/([w] ___) : ME/u/)

wan : ouerran(Spenser4), wander : asunder, want : hunt(Wilmot).

Spenser からの 8e : 12a は run の ME/a/ 異形に依存する視脚韻であり, Wilmot の wander : asunder, want : hunt は, 8a : 12a 同様, 方言での ME/a/ = ME/u/ = ME/ɛ/ = [e] に依存する完全韻である蓋然性が大きい。

8. 3. 4. 4. 8e : 14a (ME/a/([w] ___) : ME/au/)

want : daunt, want : Graunt(Daniel), want : dant, want : daunt(3t), want : hant, want : vaunt(3t), wants : haunts(2t)(Stirling), want : daunt(P. Fletcher), want : taunt(Herrick), want : vaunt(Herbinton), was : cause(11t), was : laws(Davenant), want : haunt(Hannay), was : cause(Dryden4), want : vaunt, was : cause(Blackmore), was : laws(Duke), was : cause(Garth), quarrel : laurel(2t), want : haunt(Prior), wants : taunts(Somerville), was : draws(2t)(Pope), want : haunt(Green), wanted : taunted(Dodsley), was : cause, what : nought(Brooke), wants : vaunts, was : draws, was : jaws(Moore), quarrel : laurel(W. Whitehead), quarrel : laurel(Cowper), quarrel : laurel(Lloyd), wants : haunts(Langhorne), quarrerl : laurel, Want : haunt, was : cause(Byron), want : haunt(Keats).

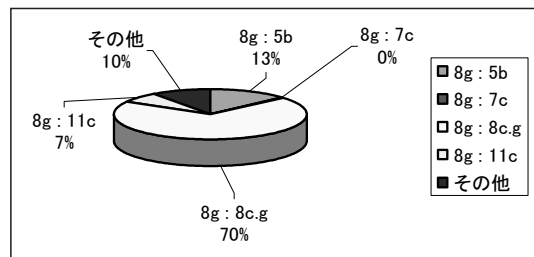
8e : 14a は PE では [ɔ] : [ɔ:] の不完全韻であるが, EModE 期以降散見されている。Dobson(1968², § 62)によると, フランス語借用語では鼻音の前の ME/a/ には ME/au/ 異形が並存しており, StE ではこの異形が定着した。haunch, launch, etc. の PE [ɔ:] ではこの形が StE で確立したが, EModE 期には ME/a/ も異形として並存していたので, daunt(<OFdant), taunt

(OF < tant)にも ME/a/ 異形が並存していた確率が高くなる。卑語・方言では ME/au/ > ME/a:/ になったので, cause, draw にも ME/au/ > ME/a:/ > ME/a/ 異形が充分考えられる。OED は daunt, haunt, laurel, taunt, vaunt には ME/a/ 異形(4-7 dant, 4-7 hant, 5 larel, 6-7 tant, 5-7 vant)が並存したことを示している。従って, 8e:14a は ME/a/ に依存する完全韻である。was : cause, laws は一見すると, was が [ɔ:] になった証拠のように見えるが, cause, law に ME/a/ 異形が並存していた可能性があり, was = [ɔ:] の確証はならない。しかし, Wyld (1923, p. 68) によると, Daines(1640)は saw の ME/au/ は wart, thwart の発音に見られると言い, Cooper(1685)は ME/au/ を ■guttural■ 咽頭音 o と呼び, war, warm 等の語に見られると言っているので, 正音学者の証拠から 1650 年頃には [w] の後の ME/a/([w] __) は [ɔ] に変化したと想定してよい。

Shakespeare の作品には ME/a/([w] __ [r]) が [ɔ:] になったことを示す脚韻からの証拠はない。しかし, ME/a/([w] __ [r]) は EModE 期以降, ME/e:/r, ME/a:/r, ME/ɛ:/r, ME/ɔ:/r, ME/ɔ:/r, ME/u/r, ME/ai/r と押韻している。これらの脚韻はどの音価に依存するものであるか。ME/a/([w] __ [r]) が何時 [ɔ:] になったかは英語音韻史の難問の一つであるが, この難問を脚韻を中心に, 以下母音番号順に検討する。

次の円グラフは筆者が調査した各詩人に見出される [w] __ [r] の後の ME/a/ を含む全脚韻の中で, ME/a/([w] __ [r]) の rhyme-mate とその相対頻度示したものである。この環境の ME/a/ は押韻総数は少ないが, EModE 期以降 ME/a/ だけでなく ME/a:/, ME/ɔ/, ME/au/, その他と押韻している。

8g の押韻形式 (rhyme-mate)



押韻率の点では ME/a/ : ME/a/ のそれ (69.7%) が一番高く, 以下 ME/a/ : ME/a:/ (13.3%), ME/a/ : その他 (10.0%), ME/a/ : ME/ɔ/ (6.7%), ME/a/ : ME/ɔ:/ (0.3%) の順になっている。ME/a/ : ME/a:/ (war : share) は share の ME/a/ 異形に, ME/a/ : ME/ɔ/ (war : for), ME/a/ : ME/ɔ:/ (war : before) は [ɔ:] に依存するものである。

次の表は 16-18 世紀の各詩人に見出される [w] の後の ME/a/ を含む全脚韻の中で, ME/a/, ME/a:/, ME/ɔ/, ME/ɔ:/, その他の脚韻の実数を示したものである。

8g の押韻形式

	8g : 5b	8g : 7c	8g : 8c,g	8g : 11c	その他	total
T. Wyatt (1503-42)	0	0	9	0	0	9
H. Howard (?1517-47)	0	0	7	0	2	9
G. Gascoign (c.1535-77)	2	0	11	0	1	14
G. Turberville (?1540-1610)	0	0	6	0	0	6
E. Spenser (1552-99) Sc	1	0	3	0	0	4
Fairy Queen 1 巻	1	0	5	0	0	6
Fairy Queen 2 巻	3	0	30	2	6	41
Fairy Queen 3 巻	2	0	11	0	2	15
Fairy Queen 4 巻	3	0	8	0	0	11
Fairy Queen 5 巻	2	0	13	0	2	17
Fairy Queen 6 巻	1	0	4	0	0	5
Minor Poems	2	0	12	0	1	15
W. Raleigh (1552-1618)	0	0	7	0	0	7
P. Sidney (1554-84)	3	0	15	0	0	18
J. Lyly (?1554-1606)	0	0	4	0	0	4
W. Warner (1558-1609)	0	0	15	0	1	16
G. Chapman (?1559-1634)	0	0	28	0	1	29
R. Southwell (1561-95)	0	0	3	0	0	3
S. Daniel (?1563-1619)	1	0	42	1	0	44
M. Drayton (1563-1631)	4	0	42	0	2	48
C. Marlowe (1564- 93)	0	0	10	0	0	10
W. Shakespeare 韻文のみ	0	0	11	0	1	12
W. Shakespeare 全 data	0	0	15	0	2	17
T. Campion (1567-1620)	0	0	4	0	0	4
J. Davies (1569-1626)	0	0	0	0	0	0
J. Donne (1572-1631)	0	0	12	0	0	12
B. Jonson (1572-1637)	3	0	13	0	0	16
J. Hall (1574-1656)	0	0	2	0	0	2
J. Marston (1576-1634)	0	0	3	0	0	3
E. Stirling (1580-1640)	1	0	43	0	0	44
R. Corbet (1582-1635)	0	0	5	0	1	6
P. Fletcher (1582-1650)	0	0	8	1	0	9
J. Beaumont (1583-1627)	0	0	5	0	0	5
F. Beaumont (1584-1616)	0	0	7	0	0	7
W, Drummond (1585-1649)	4	0	18	0	0	22
J. Ford (1586-1639)	0	0	5	0	0	5
F. Kynaston (1587-1642)	1	0	6	0	0	7
G. Fletcher (?1588-1623)	0	0	8	0	0	8
W. Browne (?1591-?1641)	0	0	8	0	1	9
R. Herrick (1591-1674)	1	0	13	1	0	15
G. Herbert (1593-1633)	1	0	3	0	1	5
H. King (1592-1669)	0	0	11	0	0	11
T. Carew (1594-1639)	1	0	4	0	0	5
J. Chalkhill (fl.1600)	0	0	3	0	0	3
S. Marmion (1603-39)	0	0	1	0	0	1
E, Benlowes (1603-76)	0	0	3	0	0	3

W. Habington (1605-54)	0	0	16	0	0	16
J. Davenant (1606-68)	11	0	31	0	0	42
E. Waller (1606-87)	0	0	11	0	0	11
W. Bosworth (1607-50?)	0	0	2	1	0	3
J. Milton (1608-74)	0	0	3	0	0	3
J. Suckling (1609-41)	0	0	1	0	0	1
N. Whiting (?)	0	0	6	0	0	6
S. Godolphin (1610-42-3)	0	0	1	0	1	2
R. Cartwright (1611-45)	1	0	1	0	0	2
S. Butler (1612-80)	0	0	2	7	1	10
R. Crashaw (1613-49)	1	0	15	1	0	17
J. Cleveland (1615-69)	0	0	8	0	0	8
J. Denham (1615-69)	0	0	7	0	1	8
R. Lovelace (1613-58)	0	0	6	1	0	7
A. Cowley (1618-67)	1	0	20	0	0	21
E. Sherburne (1618-1702)	0	0	1	0	1	2
W. Chamberlayne (1619-89)	0	0	33	0	0	33
A. Brome (1620-66)	1	0	10	3	0	14
A. Marvell (1621-78)	0	0	17	0	0	17
H. Vaughan (1622-95)	0	0	23	0	0	23
T. Stanley (1625-78)	0	0	3	0	0	3
P. Hannay (died 1629?)	0	0	2	0	0	2
J. Hall (1627-56)	0	0	0	0	1	1
C. Cotton (1630-87)	2	0	13	1	0	16
K. Philips (1631-64)	1	0	11	0	0	12
J. Dryden (1631-1700) 1巻	11	0	27	0	0	38
2巻	5	0	23	3	8	39
3巻	55	0	66	0	18	139
4巻	29	0	29	2	7	67
E. Roscommon (c.1633-85)	0	0	3	0	0	3
T. Sprat (1636-1713)	0	0	2	0	3	5
T. Flatman (1637-88)	0	0	8	0	2	10
E. Dorset (1638-1706)	0	0	0	0	0	0
P. Ayres (1638-1712)	0	0	6	0	1	7
T. Shadwel (?1642-92)	4	1	5	2	1	13
E. Rochester (1647-80)	1	0	3	0	0	4
J. Sheffied (1648-1721)	1	0	6	0	0	7
T. Otway (1651-85)	0	0	6	1	0	7
P. Carey (fl.1651)	0	0	1	0	0	1
W. Hammond (fl.1655)	0	0	3	0	0	3
R. Blackmore (?1655-1729)	1	0	4	2	3	10
R. Duke (1658-1711)	1	1	3	0	2	7
E. Halifax (1661-1715)	0	0	4	0	1	5
S. Garth (1661-1719)	3	0	3	0	1	7
G. Stepney (1663-1707)	2	0	1	0	2	5
W. Walsh (1663-1708)	0	0	4	0	0	4
W. King (1663-1712)	8	0	8	0	2	18
M. Prior (1664-1721)	26	0	16	2	37	81

J. Pomfret (1667-1702)	2	0	4	0	1	7
G. Granville (1667-1735)	1	0	8	1	6	16
J. Swift (1667-1745)	0	1	18	10	0	29
W. Congreve (1670-1729)	3	0	3	0	1	7
T. Yalden (1671-1736)	2	0	1	0	8	11
E. Smith (1672-1710)	0	0	5	0	0	5
N. Rowe (1673-1718)	4	0	13	0	4	21
J. Addison (1673-1719)	10	0	12	0	9	31
I. Watts (1674-1748)	0	0	4	4	0	8
W. Somerville (1675-1742)	2	0	8	1	8	19
A. Philips (c.1675-1749)	1	0	6	0	0	7
J. Hughes (1677-1720)	1	0	14	0	0	15
T. Parnell (1678-1718)	1	0	17	0	0	18
E. Young (168-1765)	3	0	18	8	2	31
E. Fenton (1683-1730)	1	0	11	0	1	13
W. Diaper (1685-1717)	7	0	7	0	1	15
J. Gay (1685-1732)	1	0	40	0	2	43
T. Tickell (1686-1740)	3	0	18	0	5	26
A. Pope (1688-1744)	5	0	14	2	5	26
W. Broome (1689-1745)	1	0	7	0	7	15
J. Byrom (1692-1763)	0	0	12	0	1	13
M. Green (1646-1737)	0	0	0	2	1	3
R. Savage (c.1697-1743)	0	1	6	1	0	8
C. Pitt (1699-1748)	10	0	6	0	12	28
J. Thomson (1700-48)	0	0	6	0	0	6
J. Dyer (?1700-58)	0	0	0	0	0	0
G. West (1703-56)	6	0	3	0	1	10
R. Dodsley (1703-64)	0	0	8	0	0	8
S. Jenyns (1703-87)	0	0	9	2	0	11
W. Hamilton (1704-54)	0	0	12	0	1	13
D. Mallet (?1705-65)	0	0	8	0	0	8
H. Brooke (1706-83)	0	0	6	17	0	23
W. Harte (?1707-74)	5	0	16	1	0	22
S. Boyse (1708-49)	1	0	21	0	4	26
L. Lyttleton (1709-73)	0	0	4	0	1	5
P. Whitehead (1709-74)	1	0	9	1	3	14
J. Armstrong (1709-79)	0	0	3	0	0	3
S. Johnson (1709-84)	3	0	3	0	3	9
J. Hammond (1710-42)	0	0	1	0	0	1
E. Moore (1712-57)	0	0	5	3	0	8
W. Thompson (1712-67)	1	0	5	0	2	8
W. Shenstone (1714-63)	0	0	14	2	0	16
R. Jago (1715-81)	0	0	0	1	0	1
W. Whitehead (1715-85)	5	1	28	9	9	52
T. Gray (1716-85)	2	0	3	0	0	5
R. Cambridge (1710-1802)	1	0	6	5	5	17
J. Cawthorn (1719-62?)	2	0	0	11	1	14
W. Collins (1721-59)	0	0	2	0	0	2

M. Akenside (1721-70)	0	0	9	0	0	9
T. Smollett (1721-71)	1	0	0	0	0	1
W. Wilkie (1721-72)	13	0	34	0	7	54
F. Fawkes (1721-77)	1	0	13	0	0	14
T. Blacklock (1721-91)	1	0	10	0	0	11
C. Smart (1722-70)	1	0	6	3	2	12
J. Warton (1722-1800)	0	0	3	0	0	3
J. Grainger (1723-66)	0	0	0	0	0	0
J.G. Cooper (1723-69)	0	0	4	1	1	6
W. Mason (1725-97)	3	0	8	0	1	12
O. Goldsmith (1728-74)	0	0	6	1	0	7
T. Warton (1728-90)	1	0	11	1	0	13
J. Cunningham (1929-73)	0	0	3	1	0	4
J. Scott (1730-85)	0	0	0	2	0	2
C. Churchill (1731-64)	1	0	7	10	0	18
W. Cowper (1731-1800)	0	0	21	6	0	27
W. Falconer (1732-69)	1	0	15	1	0	17
R. Lloyd (1733-64)	0	0	2	0	0	2
J. Langhorne (1735-79)	0	0	10	1	0	11
W.J. Mickle (1735-88)	3	0	2	0	1	6
J. Beattie (1735-1803)	1	0	26	0	1	28
E. Lovibond (?1735-75)	1	0	4	0	0	5
S.W. Jones (1746-94)	1	0	0	0	0	1
J. Logan (1744-88)	1	0	0	0	1	2
T. Chatterton (1752-70)	1	0	1	9	0	11
G. Crabbe (1754-1832)	0	0	14	0	1	15
W. Wordsworth (1770-1850)	2	0	5	1	0	8
G.G. Byron (1788-1824)	0	2	42	4	0	48
P.B. Shelley (1772-1822)	0	0	5	4	2	11
J. Keats (1795-1821)	0	0	19	4	1	24
	320	7	1674	161	239	2401

8. 3. 5. 1. 8g : 3b, 5b, 13b (ME/a/([w] __ [r] C_i) : ME/e:/, ME/a:/, /ai/r)

War : rear, Ward : rear'd, Wars : Spears(Dryden3), war : ear, war : fear(Sprat), war : fear, war : tear(Flatman), war : appear(King), war : appear(2t), war : hear(2t), war : here(2t), reward : rear'd, wars : rears, war : spear(3t), wars : spears, wars : tears(Prior), war : here, war : sphere(Granville), wars : spheres(Pomfret), war : appear, war : here(Yalden), war : cheer(Rowe), war : appear, war : here, war : tear, wars : rears(Somerville), war : fear(Young), wars : appears(Gay), war : appear(2t), war : hear(Tickle), reward : appear'd(Pope), war : spear(Broome), war : appear(4t), war : ear, war : fear, war : rear(Pitt), War : ear(Boyse), war : peer(P. Whitehead), war : fear(Johnson), war : ear(W. Thompson), war : appear, war : fear(W. Whitehead), war : spear(3t)(Wilkie), war : ears(Smart), war : ear, war : fear(Shelley),

8g : 5b

reward : shar'd(Herrick), warres : spares(Herbert), war : tare(Cartwright), warre : dare(Cras-haw), war : dare, War : stare(Cotton), War : care(6t), War : dare(2t), Reward : declar'd, War : declare, War : spare(Dryden1), War : Care(3t), War : declare, war : spare(Dryden2), War : bare(4t), War : Care(26t), Wars : Cares(2t), war : dare(7t), War : declare(5t), wars : decla-res, Reward : shar'd, war : Share(9t) (Dryden3), war : Care(Wilmot), reward : declar'd(Shef-field), war : care(Blackmore), war : declare(Duke), war : care(2t), war : spare(Garth), war : care(Stepney), war : care(3t), war : compare, wars : declares(2t), war : fare(King), war : care(14t), wars : cares(3t), war : compare(2t), war : dare(2t), war : declare(2t), wars : de-claims, war : share(2t) (Prior), war : care(Granville), wars : glares, war : spare(Pomfret), war : care(3t), war : dare(2t), war : declare(3t), war : fare, reward : shar'd(2t), war : share(2t) (Wilkie), war : care, war : share, war : spare(Congreve), war : declare, wars : shares(Yal-den), reward : far'd, war : care, war : declare, war : scare, war : share, war : apare, wars : cares(3t), wars : shares(Addison), war : care(2t), war : share, wars : cares(Rowe), War : care(2t) (Somerville), regard : compar'd(Philips), war : care(Hughes), war : dare(Parnell), war : care(3t) (Young), war : compare(Fenton), War : Care(4t), War : compare, War : de-clare, War : Share(Diaper), war : care(Gay), wars : dares, war : share(2t) (Tickle), war : care(3t), war : compare, war : glare(Pope), wars : dares(Broome), war : care(6t), war : de-clare, reward : shar'd, war : share, wars : shares(Pitt), war : care(2t), war : dare, war : fare, war : spare, reward : shar'd(West), war : care(4t), war : declare(Harte), war : spare(Boyse), war : care(Lyttleton), war : care, war : share(2t) (Johnson), war : share(W. Thompson), war : dare(P. Whitehead), war : care, war : dare, war : share, war : snare, war : spare(W. Whitehead), war : snare, war : spare(Gray), war : care(2t) (Cawthorn), war : glare(Smol-let), war : care(3t), war : dare(2t), war : declare(3t), war : fare, reward : shar'd(2t), war : share(2t) (Wiekie), reward : shar'd(Blacklock), war : care(Fawekes), war : care(Smart), war : dare(T. Warton), war : care(Smart), war : dare(T. Warton), war : care, war : dare(2t) (Mason), war : care(Churchill), war : glare(Falconer), war : care, warre : care, warre : dare (Mickle), reward : far'd(Beattie), war : glare(Lovibond), wars : cares(Jones), war : dare (Logan), war : stare(Chatterton), reward : bared, reward : shared(Wordsworth),

8g : 6b

war : bear(Garth), war : bear, warre : beare, warre : weare(Cambridge), War : there(Dryden 4), war : bear(2t) (Stepney), war : bear(4t), wars : bears, war : tear, war : there(Prior), war : bear(Granville), war : forbear(Congreve), war : bear, war : there(Yalden), war : bear, war :

forbear(3t)(Addison), war : bear(2t)(Somerville), war : there(Young), war : bear, wars : bears(Tickle), war : bear, war : tear(Pope), war : bear(Broome), war : bear, wars : bears(Pitt), war : wear(P. Whitehead), war : bear(Wilkie), war : bear(Mason), war : bear(Logan), war : there(W. Whitehead),

8g : 13b

War : despair(Denham), war : air(Sprat), war : fair(Halifax), war : air(Ayres), War : Air (Shadwell), war : air(King), war : air(4t), war : despair(2t), war : fair(2t), war : heir, war : prayer, war : repair, wars : heirs(Prior), wars : prayers, wars : repairs(Granville), war : fair (3t), war : repair(Yalden), war : despair(2t)(Rowe), war : air(2t), war : despair, war : fair, war : prayer(Adison), war : air, war : despair(Somerville), War : fair(2t)(Dryden2), War : Air, War : despair(3t), War : Hair, War : Pray'r(2t), War : repair(Dryden3), War : Fair, War : repair(2t)(Dryden4), war : air(Fenton), war : fair(Halifax), war : air(Ayres), war : air(King), war : air(3t), war : despair(2t), war : fair(2t), war : heir, war : prayer, war : repair, wars : heirs(Prior), war : prayer, wars : repairs(Granville), war : fair(3t), war : repair(Yalden), war : air(2t), war : despair, war : fair, war : prayer(Addison), war : despair(2t)(Rowe), war : air, war : despair(Somerville), war : air(Fenton), war : pair, wars : may'rs(Pope), war : air (3t), war : despair, war : hair(Broome), war : air(Green), war : despair(3t)(Pitt), war : pair (West), War : Despair(2t), War : fair(Boyse), war : fair(P. Whitehead), war : air, war : Fair (Johnson), war : repair(Thompson), war : air(2t), war : despair, war : fair, war : prayer(W. Whitehead), war : air(J. G. Cooper), war : pray'r(Smart), war : air, war : fair(Johnson), war : repair(W. Thompson), war : air(2t), war : despair, war : fair, war : prayer(W. Whitehead), war : air(J. W. Cooper), war : pray'r(Smart), warre : air(Mickle).

8g : 3b は PE では [ɔ:] : [iə] の不完全韻であるが、1600 年以降散見されている。Dobson (1968², § 42, § 43 Note 3)によると、Cocker の同音語表は war に ME/a:/ 異形が並存し、OED は war に ME/a:/ 異形(4-5 ware)が並存していたことを示しているので、8g : 3b は 5b : 3b となる。8g : 5b, 8g : 6b, 8g : 13b は PE では [ɔ:] : [εə] の不完全韻であるが、1600 年以降見出されている。Dobson (§ 6, § 42, § 43 Note 3, § 49)によると、war, reward には ME/a:/ 異形が並存していた。従って、8g : 5b は war, reward の ME/a:/ 異形に依存する 5b 同士の脚韻か、war の ME/a/ と 5a を持つ語の ME/a/ 異形に依存するかのどちらかあり、何れにしても完全韻である。8g : 6b, 8g : 13b はそれぞれ war の ME/a:/ 異形に依する 5b : 6b, 5b : 13b となる。

8. 3. 5. 2. 8g : 7c, 11c (ME/a/([w] ___ [r] C_i) : ME/ɔ:() /r)

War : before(Shadwell), war : before(Duke), warn : born(Swift), war : more(Savage), war :

shore(W. Whitehead), war : heretofore, war : swore(Byron),

8g : 11c

swarmd : deformd, warmd : deformd(Spenser2), warm'd : perform'd(Daniel), warning : morning(P. Fletcher), warmer : former(Herrick), warn'd : scorn'd(Bos-worth), downward : sword, quarters : fortress, war : for(4t), warders : orders(Butler), warms : storms(Crashaw), reward : accord(Lovelace), quart : for't, quart : sport, reward : lord(Byrome), warm : form(Cotton), warm : Form, warm : Storm, warm'd : form'd(Dryden2), warm : Form, warm'd : form'd(Dryden4), warn'd : Adorn'd, warn'd : perform'd(Shadwell), warm : perform(Otway), swarm : form, warm'd : form'd(Blackmore), rewarded : recorded, warning : morning(Prior), reward : record(Granville), quart : port, Quarter : Mortar, Quarter : shorter, swarm : form, warm'd : perform'd, warm-her : reform-her, warms : informs, warn : Corner, Warning : morning(3t)(Swift), warm : form, warm : perform, warms : forms(2t)(Watts), warm'd : perform'd(Somerville), swarms : storms, warm : storm(6t), warm'd : storm'd(Young), unwarm'd : form'd, warm : form(Pope), war : for, warm : form(Green), warm : form(2t), warm : orm, warm : reform, warning : morning(Cambridge), warm : form(Savage), warm : form, warm : storm(Jenyns), swarms : forms, warm : form(2t), warm : inform, warm : storm(2t), warm'd : form'd(5t), warm'd : inform'd(3t), warms : forms(3t)(Brooke), warm : form(Harte), reward : lord(P. Whitehead), warm : form, warm'd : inform'd, warning : morning(Moore), warm : form(2t)(Shenston), warm'd : form'd(Jago), swarms : forms, warm : form(3t), warm'd : form'd(3t), warms : deforms, warms : forms(W. Whitehead), awarding : according(J. G. Cooper), swarms : forms, warm : storm, warning : morning(Smart), warm : form(T. Warton), warm : storm(Cunningham), warm : form(Scott), reward : lord, warm : form(2t), warm : storm(3t), warm'd : inform'd(2t), warms : forms(2t)(Churchill), award : Lord, warm : form(2t), warm'd : form'd, warm'd : inform'd, warn'd : scorn'd(Cowper), warm : form(Falconer), warm : form(Langhorne), warm : form(3t), warm : storm(3t), warm'd : deform'd(2t), warms : storms(Chatterton), warmed : transformed(Wordsworth), war : for, warm : form(2t), warning : morning(Byron), warm : form(2t), warms : transforms, warning : scorning(Shelley), war : for, warm : form(2t), warning : morning(Byron), sward : lord, wards : lords, warm : form(2t)(Keats),

8g : 14a

quarters : daughters(W. Whitehead),

8g : 7c, 8g : 11c は ME/a/ が [w] ___ [r] C₀ で [ɔ:] になったことを示す脚韻であるが、前者は脚韻総数が少ないこともあって、Shadwell(?1642-92)に初めて 1 例見出され、それ以降 Duke

(1), Swift(1), Savage(1), W. Whitehead(1), Byron(2) に () 内の数字で示された数だけ見出されているに過ぎない。後者は総計 161 個見出され、Spenser に 2 例見出されてるものの、1600 年以前に出生の詩人で、Daniel, P. Fletcher に 1 例見出されているに過ぎず、他の詩人では見出されていない。Dobson(1968², § 49)によると、Daines(1640)が初めて ME/a/ が [w] ___ [r] C₀ で [ɔ:] になったことを示し、彼は ward, warm, swarm, warn, warn, wharf, dwarf, swarve, warp, wart, quart, swart, thwart で [ɔ:] の証拠を提している。Coles(1674)は保守的で ward, dwarf, wharf で [ɔ:] を示しているが、warm, swarm, warn, wart, quart, thwart では円唇化だけを示し、warp, warble では円唇化も母音化も示していない。Cooper(1685)は ward, warden, warm で [ɔ:] を示している。Dryden 以前では 8g : 11c は 19 個(11.8%)見出されているだけだが、Dryden 以降になると 8e : 11a は 142 個(88.2%)見出され、正音学者の陳述を裏付けるように増える傾向にある。脚韻の証拠からは、ME/a/ が [w] ___ で [ɔ:] になったことを示す 8e : 11a と ME/a/ が [w] ___ [r] C₀ で [ɔ:] になったことを示す 8g : 11c は EModE 期に見出されるものの、一般的になるのはほぼ同時期の 1650 年頃であり、[w] が ME/a/ を円唇化させたと同時に [r] が長母音化させたことになる。Dobson(1968², § 28)によると、8g : 14a (quarters : daughters) は daughter に ME/a/ 異形が並存していた証拠があり、ME/a/ が [w] ___ [r] C₀ で [ɔ:] になった確証にはらない。

8g : 7c, 8g : 11c は EModE 以降、ME/a/ が [w] ___ [r] C₀ で [ɔ:] になったことを示す貴重な脚韻である。[w] の ME/a/ に及ぼす円唇化の影響は Shakespeare の時代にはまだ一般的でなく、彼の詩作の中には、8a : 11a(what : not) は 1 例しか見出されていない。[w] ___ [r] の環境で ME/a/ が [ɔ:] になったことを示す 8g : 7c(war : before), 8g : 11c(warm : form)は Shakespeare には皆無である。しかし、南部方言、London 方言で [w] ___ [r] の環で ME/a/ が [ɔ:] になった証拠として a) Edgar の che vor' ye と b) Costard の地口 wards-words を挙げている。前者は vor が warn, warrant の何れを意味する場合でも、[w] の ME/a に対する円唇化の影響が南部方言に及んでいたことを示しており、後者は word の ME/ɔ/形に依存するものであり、当時 war-が [ɔ:] と発音されていたことを示すものであると想定している。臨時綴字、文法家の陳述、脚韻の証拠を総合的に考慮すれば、1650 年頃、[w] の前の ME/a/ には次の三つの発音 1) [a] 又は [æ] (最も普通の発音)、2) [ɑ] ([a] から [ɔ] への移行段階の発音)、3) [ɔ] (口語的発音) が存在していたと想定されるが、ME/a/ の複雑な押韻形式はこの間の複雑な言語事情を反映していると見なしてよい。Kökeritz(1953, p. 170)は water に [ɔ:] 型の発音が存在していた証拠として地口 walter-water を挙げている。しかし、OED は water に scottish wal 異形 (walter 4-7, waltir 5-6, valter 6)が並存していたことを示しているの、これも walter の ME/a/ 異形に依存するもの、と解すれば、[ɔ:] の確証にはならない。今回の検証で明らかになったように、Kökeritz が [w] ___ [r] で ME/a/ が [ɔ:] であったと判定する根拠は脚韻の証拠では

なく、地口に基づいている。劇作家が好んで用いる同音反復語 (jingle) や地口 (pun) も古音推定の資料として脚韻と同じ価値を持っている。しかし、地口は往々にして砕けた、若しくは卑俗な発音に依存している場合があり、当時の標準英語の発音を推定する上での主たる根拠にはなり得ない。他の資料から得られた推定結果を確かめるための補助手段として利用の方が安全であるというのが筆者の地口・同音反復に対する態度である。

8. 3. 5. 3. 8g : 12c (ME/a/([w] ___ [r] C_i) : ME/u/r)

ward : word(Butler), war : Cur(Dryden2), swarms : worms(Blackmore), swarms : worms(Cawthorn).

8g : 12c は PE では [ɔ:] : [ə:] の不完全韻である。しかし、EModE 期以降稀であるが、見出されている。war : Cur は cur の MDu. corre に、swarm : worm は swarm の [ɔ:] と worm の ME/ɔ/ 異形に依存する完全韻であろう。worm に ME/ɔ/ 異形が並存していたことを示す正音者の直接的証拠はない。しかし、Dobson(1968², § 90, § 92)によると、word, work, worse, worth に ME/ɔ/ 異形が並存していた証拠が存在するので、worm に ME/ɔ/ 異形が並存していた可能性は充分である。[w] ___ [r] で ME/a/ が [ɔ:] になっておらず、[a:] であった仮定すると、ward : word = [a:] : [ɔ:] となり、韻を踏まない。ward は 16-7 世紀で word(e) と綴られていること、及び word には ME/ɔ/ 異形が並存していたことを考慮すれば、ward : word は ME/ɔ/r = [ɔ:] に依存する完全韻である蓋然性が高くなる。Shakespeare にも wards-words の地口が見出されるが、Kökeritz(1953, p. 172)はこれを、ward の [a:] を持つ保守的な発音の口語的異形として、[ɔ:] が並存していたことの証拠として利用している。

8. 3. 6. 1. 8h : 5a (ME/a/(長母音化) : ME/a:/)

wrath : scath(Spenser-Minor), Wrath : scath(Spenser1), wrath : hat'th, wrath : scath(Spenser2), wrath : scath(Spenser5), walls : whales(Waller), water : nature(3t)(Butler), wall : vale(Vaughan), water : nature(Hannay), wall : pale(Swift), water : nature(Hughes), water : nature(Fenton), water : Nature(Gay), water : nature(Wilkie), water : Nature(Cowper), wrath : scathe(Byron).

8h : 5a は PE では [ɔ:] : [ei] の不完全韻であるが、EModE 期以降散見されている。5a 持つ語 (nature, pale, scathe, whale) の開音節長母音化を免れた ME/a/ 異形に依存する完全韻である。Dobson(1968², § 6)によると、wrath は OE 期に二つの異形(wraqu, wraqqu)が並存し、前者から wrathe、後者から wrath が生じた。Levins, Hodges は wrath に ME/a:/ 形が、Gil は ME/a/ 異形が並存していたことを示している。PE 音 [ɔ:] は wr ___ [θ] という環境で長母音化されたことに由来する。wrath は随意的に長母音化を起こし、今日の標準英語は、長母音化を

起こした [ɔ:] と、起こさない [ɔ] が並存している。しかし、[ɔ]の方が通である。water(<OE water)はその後の音変化では ME water > ME/a:/ > [ei], 又は ME wat > [ɔ] となるはずである。Jespersen(1909, §§ 10. 66-7)によると、前者が音量、後者が音質を提供した折衷形である。Dobson(1968², § 53. 5)は [w] が ME/a/ を円唇化させたときに長母音化させた結果であると考えている。

8. 3. 6. 2. 8h : 8b (ME/a/(長母音化) : ME/a/(___ [f, s, θ]))

wrath : path(Spenser1), wrath : path(2t)(Spenser3), wrath : wrath(Spenser5), water : after(Warner), water : after, wrath : path(4t), wrath : path(3t)(Drayton), wrath : lath(Shakespeare), wrath : path(Carew), wrath : path(2t)(Whiting), water : after(2t), water : laughter(Swift), Wrath : Bath(Congreve), water : after(Somerville), wrath : Bath(Gay), wrath : path(Byrom), wrath : path(6t)(Byron), wrath : path(Keasts),

8h : 8b は PE では [ɔ:] : [æ:] の不完全韻であるが、water, wrath には ME/a/ 異形が並存していたので、8h : 8b は 8h を持つ語の ME/a/ に依存する完全韻である。

8. 3. 6. 3. 8h : 11c (ME/a/(長母音化) : ME/ɔ/r)

wrath : forth(Yalden), wrath : North(Watts), wrath : forth(Crabbe), wrath : forth, water : shorter(Keats).

8h : 11c は PE では [ɔ:] に依存する完全韻であるが、EModE 期以降稀にしか見出されてない。筆者は EModE 期に ME/ɔ/r と ME/ɔ:/r(abhor : more, corn : sworn, horse : coarse), ME/u:/r(horse : course, short : court, short : court) が見出されることにより、ME /ɔ/r は EModE 期には [ɔ:] になっていたと想定している。Dobson(1968², § 53 Note 7)によると、Milton は wrath を wrauth と綴っている。更に Hodges は近似音表で、Coles は不注意な Eng-Lat. Dic で wroth を wrath と対にさせており、ME/a/ が [wr] ___ [f, s, θ] で [ɔ:] になった証拠を提示している。従って、8h : 11c は 17 世紀後半に ME/a/ が [wr] ___ [f, s, θ] の環境で、後母音化し、更に長母音化した数少ない例と見なしてよいだろう。

8. 3. 6. 4. 8h : 13a (ME/a/(長母音化) : ME/ai/)

wrath : faith(11t)(Stirling), Wrath : Faith(Drummond), wrath : faith(King), wrath : faith(Chalkhill), wrath : faith(Butler), wrath : faith(16t)(Byron),

8h : 13a は PE では [ɔ:] : [ei] の不完全韻である。しかし、EModE 期以降稀ではあるが見出されている。Dobson(1968², § 6)によると、wrath には ME/a:/ 異形が並存していたので、8h : 13a は 5a : 13a の完全韻となる。

8.3.7. その他

8a : 2a

gather : either, gather : neither (Prior).

Dobson (1968², § 4, § 129)によると, either には ME/ε/ 異形が並存していたので, 8a : 2a = 8a : 10a となる。Kökeritz は ME/a/ : ME/ε/ = [æ] : [ε] の類韻と見なし, ME/a/ = [æ] 証拠と見なしているが, 筆者の見解では 8a : 10a は類韻ではなく, ME/a/ の方言音 [e] に依存する完全韻である。

8a : 3b

carry : weary (Brome).

Dobson (1968², § 8)によれば, weary には ME/ε/ 異形が並存していたので, 8a : 3b は 8a : 6a となり, [e] に依存する完全韻となる。

8a : 4a

begonne : donne (Spenser6), began : noon (Prior).

8a : 4a は begon, began の ME/u/ 異形 : 4a を持つ語の ME/u/ 異形に依存する脚韻となる。

8a : 4d

hande : understonde (Wyatt).

8a : 4d は ME/u/ の ME/ɔ/>/a/ 異形に依存する脚韻である。15-6 世紀には 3 種類の過去分が並存していた。1) understanden, -stonden, 2) その短縮形 understande, -stonde, 3) 新しい類推形 understanded, -stoded が用いられ, 1) は 1550 年頃まで, 2) は 17 世紀まで 3) は 16 世紀半ばまで最も普通に用いられていた [OED]。

8a : 7a

had : bestrad, had : rad (Spenser5),

8a : 7d

hath : froth (Herrick).

8a : 7a は rode の ME/a/ 異形 (2-5 rad) に依存する視脚韻であり, 8a : 7d は froth の ME/ɔ:/> ME/ɔ/> 北部方言形/> ME/a/ 異形に依存するものである。ride は OE では ridan (inf.), rodrad (pret.), riden (pret. pl.), iriden (pp.) と変化し, ME 期に過去形に/a/ 異形 (2-5 rad) が並存していた。Dobson (1968², § 33)によると, froth には長・短両異形 (ME/ɔ:/, ME/ɔ:/) が並存していた。

8b : 12c

aghaſt : braſt (2t), blaſt : braſt, caſt : braſt, faſt : braſt (2t), paſt : braſ (Spenser1), maſt : braſt, paſt : braſt (Spenser3), faſt : braſt (Spenser4), agaſt : braſt, caſt : braſt (2t), faſt : braſt (3t), paſt : braſt (2t) (Spenser5), aghaſt : braſt (2t), blaſt : braſt, caſt : braſt, faſt : braſt

(2t), last : brast (Spense 6), ouercast : brast, ouercast : outbrast (Spenser-Minor).

8b : 12c は全て Spenser からのものであり, burst の ME/a/ 異形 (5-6 brast) に依存する視韻である。

8b : 7a

fast : coast (Spenser-Minor), grass : gross (Otway).

8b : 7a は方言での ME/ɔ:/ > ME/ɔ/ > MEa/ によるものであろう。

8b : 8c

fastens : Parsons, grass : farce (Keats).

8b : 8c は [a:] に依存するものであろう。[r] が後続する子音に吸収され, 前の母音が長音化されるのは 14 世紀以降の卑俗な文書で観察される現象である。

8d : 2a

father : naither (Warner).

father の ME/a/ と neither の ME/ε/ 異形に依存する 8a : 10a となろう。ME/a/ の長母音化は 1) [r] C, 2) [f, s, θ], 3) [ʃ, z, d, n, t, d.] + [r] で生じ, 1, 2) の環境で一般的に起こっているが, 3) の環境では, 長母音化は散発的で, 今日の StE では長母音持つのは father, rather, lather の 3 語だけである (Dobson, 1968², § 53)。

8d : 14b

alarm : calm, alarms : alms (Crabbe).

8d : 14b は [a:] に依存するものである。alm, calm, calf, calve の PE 音 [a:] は ME/au/ が [m, f, v] の前で /au/ > /a:/ に単母音化し, この異形が標準英語で確立したものである。

8e : 5b

was : skarce (Wyatt).

8e : 5b は, [r] が後続する子音に吸収され前の母音が長音化された例であり, was ([w] [f, s, θ]) に長母音化だけが生じ, [a:] となったことを示すものである。

8g : 14b

warm : calm (Crabbe).

8g : 14b は warm の円唇化していない ME/a/ と calm の ME/a/ 異形に依存するものである。

8h : 11a

walks : locks (Prior), wrath : broth (Swift).

dark "l" の前の ME/a/ は LME に ME/au/ になったので walks : locks = [ɔ:] > [ɔ] : [ɔ] に依存するものである。Dobson (1968², § 53 Note 7) によると, Hodges と Coles は wrath と wroth をにしているので, wrath : broth は [ɔ:] に依存するものであろう。

8. 4. 結論

我々は脚韻を可能な限り類韻ではなく完全韻であるという姿勢で処理しようとしている。一見不完全韻であると思われるものも、詳細に検討すれば、その脚韻を完全韻にする異形(ME/a/の ME/a:/, ME/au/, ME/ε/, ME/ɔ/ 異形) の存在が明らかになってきた。ME/a/ を取り巻く脚韻の実状は 8. 3. で検討した通りである。それらの証拠を踏まえると、ME/a/ を含む脚韻は次の発音に依存していると考えるのが最も蓋然性が高いと思われる。

- 1) 8a : 1a(lond : bond)は 8a, 1a を持つ語の ME/ɔ/ 異形に依存する視脚韻である。殆どが Spenser からのものであり、LModE 期には見出されていない。
- 2) 8a : 5a(sad : shade), 8b : 5a(cast : haste)は 8a を持つ語の 5a 異形か、5a を持つ語の 8a 異形に依存するかのどちらかであり、何れにしても完全韻である。これらの脚韻は EModE 期以降豊富に見出されている。
- 3) 8a : 6a(catch : reach), 8a : 6c(had : dread), 8a : 6d(cat : great), 8b : 6c(last : breast), 8h : 6c(Wrath : death)は [æ] : [ɛ] の類韻ではなく、方言音・異形 [e] に依存する完全韻である。これらの脚韻は EModE 期に東・北・西部出身の詩人に見出されている。
- 4) 8a : 9a(gether : hether), 8d : 9a(father : hither)は gather, hither の ME/ε/ 異形に依存する完全韻である。これらの脚韻は EModE 期には稀である。
- 5) 8a : 10a(man : then), 8b : 10a(glass : dress), 8d : 10a(dance : sense), 8e : 10a(warrant : errant), 8h : 10a(walles : tell)は [æ] : [ɛ] の類韻ではなく、方言音・異形 [e] に依存する完全韻である。ME/a/ と ME/ε/ の脚韻は EModE 期以降、Scotland, 東・北・西部出身の詩人によく見出されている。
- 6) 8a : 11a(hallow : follow), 8b : 11a(laugh : off)は 8a の ME/ɔ/ 異形か、8b の ME/ɔ/ 異形に依存するかのどちらかであり、何れにしても完全韻である。8a : 11a は EModE 期には見出されるものの、LModE 期では稀である。
- 7) 8a : 12a(ran : Son), 8a : 4e(man : one), 8e : 12a(want : hunt)は [æ] : [ʌ] の類韻ではなく、卑語、北部・西部・南西部方言での [e] に依存する完全韻である。これらの脚韻は EModE 期に散見される程度である。
- 8) 8a : 13a(man : plain), 8a : 13c(man : again), 8d : 13a(grant : saint), 8e : 13a(want : saint)は ME/a/ の ME/a:/ 異形に依存する脚韻か、方言音・異形 [e] に依存するかのどちらかであり、何れにしても完全韻である。これらの脚韻は EModE 期以降、東・北・西部出身の詩人に見出されている。
- 9) 8a : 14a(shall : all), 8b : 14a(grant : vaunt), 8e : 14a(want : daunt)は 8a を持つ語の 14a

異形か、14aを持つ語の8a異形に依存するかのどちらかであり、何れにしても完全韻である。これらの脚韻はEModE期以降見出されている。

- 10) 8b:14a(after: daughter)は14aのME/a/異形に依存する完全韻である。この脚韻はEModE期以降散見されている。
- 11) 8c:3b(are: hear), 8c:5b(are: care), 8c:6b(are: bear), 8c:13b(are: fair)は8cのME/a:/異形に依存するものであり、[r]の前で、ME/a:/, ME/ai/, ME/ε:/, ME/e:/が[ε:r]で融合したことを示す完全韻である。これらの脚韻はEModE期以降見出されている。
- 12) 8c:9b(Farth: birth)は9bのME/ε/異形>低母音化>ME/a/異形に依存する完全韻である。この脚韻はEModE期以降散見される程度である。
- 13) 8c:10b(art: desert), 8g:10b(war: her)はME/ε/>低母音化>[a]に依存する完全韻である。これらの脚韻はEModE期以降豊富に見出されている。
- 14) 8c:11c(armes: stormes)は、[r]の前で、ME/ɔ/>[a]に依存する完全韻である。この脚韻は、8a:11a同様、EModE期以降見出されている。
- 15) 8c:12c(dark: work)は12cのME/ɔ/異形>平唇化>ME/a/異形に依存する完全韻である。この脚韻はEModE期以降稀である。
- 16) 8d:5a(father: labor)は8dのME/a:/異形か、5aのME/a/異形に依存するもので何れにせよ完全韻である。この脚韻はEModE期に散見される程度である。
- 17) 8e:5a(was: case)は5aのME/a/異形に依存するものである。この脚韻はEModE期以降見出されている。
- 18) 8e:11a(swallowed: followed), 8h:11a(walks: locks), 8e:11b(was: cross)はME/a/が、[w] __ という音声環境で、[ɔ]になったことを示す脚韻である。これらの脚韻は散発的に見出されているに過ぎない。
- 19) 8g:3b(war: appear), 8g:6b(war: bear), 8g:13b(war: air)は8gのME/a:/異形に依存するものである。これらの脚韻はEModE期に多く見出されている。
- 20) 8g:7c(war: before), 8g:11c(warms: storms), 8g:14a(quarters: daughters)はME/a/が、[w] __ [r] という音声環境で、[ɔ:]になったことを示す脚韻である。これらの脚韻は1650年頃見出されている。
- 21) 8g:12c(swarms: worms)はwormのME/ɔ/異形に依存する完全韻である。この脚韻は稀である。
- 22) 8h:5a(wall: pale, water: nature)は5aのME/a/異形に依存する脚韻である。この脚韻はEModE期以降散見される程度である。
- 23) 8h:11c(wrath: forth)はME/a/が[w] __ [f, s, θ]で[ɔ:]になったことを示す脚韻で

ある。この脚韻は稀である。

24) 8h : 13a (wrath : faith) は wrath の ME/a:/ 異形に依存する完全韻である。この脚韻は EModE 期以降稀である。

これらの証拠を踏まえると、ME/a/ の発達過程の最も蓋然性の高い推論は次のようなものであろう。

- i) ME/a/ は ME/ɛ/, ME/u/, ME/ɔ/, ME/i/ とは融合しなかった。EModE 期の一時期、ME/a/ と ME/ɛ/, ME/u/, ME/ɔ/, ME/i/ との脚韻が散見されるが、その多くは異形に依存するものである。
- ii) 正音学者の証拠から 1650 年頃 ME/a/ = [a] > [æ] になった。ME/a/ : ME/ɛ/ は Scotland, 北・西部, Kent 出身者に見出されているが、方言音 [e] に依存するものである。
- iii) [r] の前では、ME/a/ : ME/a:/ は EModE 期から見出されるものの、その多くは ME/a:/ の ME/a/ 異形に依存するものであり、ME/a/ が [r] の前で、長母音化した確証にはならない。
- iv) [f, s, θ] の前では、ME/a/ : ME/a:/ は EModE 期から見出されるものの、その多くは ME/a:/ の ME/a/ 異形に依存するものであり、ME/a/ が [f, s, θ] の前で、長母音化した確証にはならない。
- v) [w] __ の環境での ME/a/ > [ɔ] の証拠は、既に Spenser に見出されるものの、比較的一般的になるのは Dryden 以降である。
- vi) [w] __ [r] の環境での ME/a/ > [ɔ:] の証拠は、既に Spenser に見出されるものの、比較的一般的になるのは Dryden 以降である。

テキスト及び参考書目

1. テキスト

- Wyatt, Thomas. *The Collected Poems of Sir Thomas Wyatt*, ed. by Kenneth Muir, Routledge & Kegan Paul, London, 1940.
- Howard, Henry. *The Poems of Howard, Earl of Surrey*, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers, Vol. 2, Green Wood, New York, 1810.
- Gascoigne, George. *The Poems of George Gascoigne*, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers, Vol. 2, Green Wood, New York, 1810.
- Turbervile, George. *The Poems of George Turbervile*, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers, Vol. 2, Green Wood New York, 1810.
- Spenser, Edmund. *Shepherd's Calendar* in *Spenser's Minor Poems*, ed. by Ernest De Selincourt, Clarendon Press, Oxford. 1910.
- Spenser, Edmund. *Spenser's Minor Poems*, ed. by Ernest De Selincourt, Clarendon Press, Oxford, 1910.
- Spenser, Edmund. *Fairie Queene*, ed. by J. C. Smith, Clarendon Press, Oxford, 1909.
- Raleigh, Sir Walter. *The Poems of Sir Walter Raleigh*, ed. by Agnes Latham, Routledge & Kegan

- Paul, London, 1962
- Sidney, Sir Philip. *The Poems of Sir Philip Sidney*, ed. by W. A. Ringler, Clarendon Press, Oxford, 1962
- Lyly, John. *The Complete Works of John Lyly*, ed. by Warwick Bond, M. A., Clarendon Press, Oxford, 1902.
- Warner, William. *The Poems of William Warner*, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers, Vol. 4, Green Wood, New York, 1810.
- Southwell, Robert. *The Poems of Robert Southwell*, ed. by J. H. McDonald and N. P. Brown, Oxford Univ. Press, Oxford, 1967.
- Daniel Samuel. *The Poems of Samuel Daniel*, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers, Vol. 3, Green Wood, 1810.
- Drayton, Michael. *Poems of Michael Drayton*, 2 vols, ed. by John Buxton, Routledge & Kegan Paul, Oxford, 1953.
- Marlowe, Christopher. *The Complete Works of Christopher Marlowe*, ed. by Fredson Bowers, Cambridge Univ. Press, Cambridge, 1973.
- Shakespeare, William. *THE RIVERSIDE SHAKESPEARE*, Houghton Mifflin Company, Boston, 1973.
- Campion, Thomas. *The Works of Thomas Campion*, ed. by Perceival Vivan, Oxford Univ. Press, Oxford, 1909.
- Earl of Stirling. *The Poems of Earl of Stirling*, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 5, Green Wood, New York, 1810.
- Davies, Sir John. *The Poems of Sir John Davies*, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers, Vol. 5, Green Wood, New York, 1810.
- Donne, John. *Poetical Works*, ed. by Herbert J. C. Grierson, Oxford Univ. Press, Oxford, 1971.
- Jonson, Ben. *Poems of Ben Jonson*, ed. by George Burke Johnson, Clarendon Press, London, 1953.
- Hall, Joseph. *The Poems of Bishop Hall*, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 5, Green Wood, New York, 1810.
- Marston, John. *The Poems of John Marston*, ed. by Arnold Davenport, Liverpool Univ. Press, Liverpool, 1961.
- Corbet, Richard. *The Poems of Richard Corbet*, ed. by J. A. W. Bennett and H. R. Trevor Roper, Oxford Univ. Press, Oxford, 1955.
- Fletcher, Phineas. *Poems of Phinias Fletcher*, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers, Vol. 6, Green Wood, New York, 1810.
- Beaumont, Sir John. *Poems of Sir John Beaumont*, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers, Vol. 6, Green Wood, New York, 1810.
- Beaumont, Francis. *Poems of Francis Beaumont*, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers, Vol. 6, Green Wood, New York, 1810.
- Drummond, William. *The Poetical Works of William Drummond of Hawthornden*, ed. by L. E. Kastner, William Blackwood and Sons, Edinburgh, 1913.
- Ford, John. *The Works of John Ford*, ed. by Alexander Dyce, Russell & Russell, New York, 1965.
- Kynaston, Francis. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 2, ed. by George Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1906.
- Fletcher, Giles. *Poems of Giles Fletcher*, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers, Vol. 6, Green Wood, New York, 1810.

- Browne, William. Poems of William Browne, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 6, Green Wood, New York, 1810.
- Herrick, Robert. *The Poetical Works of Robert Herrick*, ed. by L. C. Martin, Clarendon Press, Oxford, 1956.
- King, Henry. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 3, ed. by Goerge Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1921.
- Herbert, George. *The Poetical Works of Robert Herrick*, ed. by L. C. Martin, Clarendon Press, Oxford, 1956.
- Carew, Thomas. *The Poems of Thomas Carew*, ed. by Rhodes Dunlap, Clarendon Press, Oxford, 1949.
- Chalkhill, John. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 2, ed. by Goerge Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1906.
- Marnion, Shakerley. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 2, ed. by Goerge Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1906.
- Benlowes, Edward. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 1, ed. by Goerge Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1905.
- Habington, William. Poems of William Habington, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 6, Green Wood, New York, 1810.
- Davenant, Sir John. Poems of Sir William Davenant, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 6, Green Wood, New York, 1810.
- Waller, Edmund. *The Poems of Edmund Waller*, ed. by G. Thorn. Drury. Richard Clay & Sons, New York, 1901.
- Bosworth, William. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 2, ed. by Goerge Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1906.
- Milton, John. *The Poetical Works of John Milton*, ed. by Helen Darbisher, Oxford Univ. Press, Oxford, 1958.
- Suckling, Sir John. Poems of Sir John Suckling, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 6, Green Wood, New York, 1810.
- Whiting, Nathaniel. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 3, ed. by Goerge Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1921.
- Godolphin, Sidney. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 2, ed. by Goerge Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1906.
- Cartwright, William. Poems of William Cartwright, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 6, Green Wood, New York, 1810.
- Butler, Samuel. Poems of Samuel Butler, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. vol. 8, Green Wood, New York, 1810.
- Crashaw, Richard. *The Poems of Richard Crashaw*, ed. by L. C. Martin, Clarendon Press, Oxford, 1957.
- Cleveland, John. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 3, ed. by Goerge Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1921.
- Denham, Sir John. *The Poetical Works of Sir William*, ed. by Theodore Howard Banks Jr., Yale Univ. Press, New Haven, 1928.
- Lovelace, Richard. *The Poems of Richard Lovelace*, ed. by C. H. Wilkinson, Clarendon Press, Oxford, 1930.

- Cowley, Abraham. Poems of Abraham Cowley, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 7, Green Wood, New York, 1810.
- Sherburne, Sir Edward. Poems of Sir Edward Sherburne, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 6, Green Wood, New York, 1810.
- Chamberlayne, William. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 1, ed. by George Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1905.
- Brome, Alexander. Poems of Alexander Brome, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 6, Green Wood, New York, 1810.
- Marvell, Andrew. *The Poems of Andrew Marvell*, ed. by Hugh Macdonald, Routledge & Kegan Paul, London, 1952.
- Vaughan, Henry. *The Works of Henry Vaughan*, ed. by L. C. Martin, Clarendon Press, Oxford, 1957.
- Stanley, Thomas. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 3, ed. by George Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1921.
- Hannay, Patric. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 1, ed. by George Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1905.
- Hall, John. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 2, ed. by George Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1906.
- Cotton, Charles. *Poems of Charles Cotton*, ed. by John Buxton, Routledge & Kegan Paul, London, 1958.
- Katherine, Philips. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 1, ed. by George Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1905.
- Dryden, John. *The Poems of John Dryden*, Vol. 1-4, ed. by Lames Kinsley, Clarendon Press, Oxford, 1958.
- Dillon, Wentworth. Poems of Wentworth Dillon, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. vol. 8, Green Wood, New York, 1810.
- Sprat, Thomas. Poems of Thoams Sprat, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 9, Green Wood, New York, 1810.
- Flatman, Thomas. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 3, ed. by George Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1921.
- Charles Sackville. Poems of Earl of Dorset, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 8, Green Wood, New York, 1810.
- Ayres, Philip. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 2, ed. by George Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1906.
- Shadwell, Thomas. *The Complete Works of Thomas Shadwell*, ed. by Montague Summers, Benjamin Blom, London, 1927.
- Carew, Patric. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 2, ed. by George Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1906.
- Hammond, William. *Minor Poets of the Caroline Period*, Vol. 2, ed. by George Saintsbury, Clarendon Press, Oxford, 1906.
- Wilmot, John. *Poems of John Wilmot, Earl of Rochester*, ed. by Vivian De Sola Pinto, Routledge & Kegan Paul, London, 1953.
- Sheffield, John. Poems of John Sheffield, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 10, Green Wood, New York, 1810.

- Otway, Thomas. Poems of Thomas Otway, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 8, Green Wood, New York, 1810.
- Blackmore, Sir Richard. Poems of Sir Richard Blackmore, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 10, Green Wood, New York, 1810.
- Duke, Richard. Poems of Richard Duke, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 9, Green Wood, New York, 1810.
- Halifax, Earl of. Poems of Earl of Halifax, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 9, Green Wood New York, 1810.
- Garth, Sir Samuel. Poemsof Sir Samuel Garth, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 9, Green Wood, New York, 1810.
- Stepney, George. Poems of George Stepney, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 8, Green Wood, New York, 1810.
- Walsh, William. Poems of William Walsh, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 8, Green Wood, New York, 1810.
- King, William. Poems of William King, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 9, Green Wood, new York, 1810.
- Prior, Mathew. Poems of Matthew Prior, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 10, Green Wood, New York, 1810.
- Pomfret, John. Poems of John Pomfret, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 8, Green Wood, New York, 1810.
- Granville, George. Poems of George Granville, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 11, Green Wood, New York, 1810.
- Swift, Jonathan. Poems of Jonathan Swift, ed. by Joseph Horrell, Routledge & Kega Paul, London, 1958.
- Congreve, William. Poems of Willam Congreve, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 10, Green Wood, New York, 1810.
- Yalden, Thomas. Poems of Thomas Yalden, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 11, Green Wood, New York, 1810.
- Smith, Edmund. Poems of Edmund Smith, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 9, Green Wood, New York, 1810.
- Rowe, Nichollas. Poems of Nicholas Rowe, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 9, Green Wood, New York, 1810.
- Addison, Joseph. Poems of Joseph Addison, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 9, Green Wood, New York, 1810.
- Watts, Issac. Poems of Issac Watts, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 13, Green Wood, New York, 1810.
- Somerville, William. Poems of William Somerville, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 11, Gren Wood, New York, 1810.
- Philips, Ambrose. Poems of Abrose Philips, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 13, Green Wood, New York, 1810.
- Huges, John. Poems of John Hughes, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 10, Green Wood, New York, 1810.
- Parnell, Thomas. Poems of Thomas Parnell, in *The Works of the English Poets from Chaucer to*

- Cowper, ed. by A. Chalmers. Vol. 9, Green Wood, New York, 1810.
- Young, Edward. Poems of Edward Young, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 13, Green Wood, New York, 1810.
- Fenton, Elijah(1683-1730). Poems of Elijah Fenton, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 10, Green Wood, New York, 1810.
- Diaper, William. *The Complete Works of William Diaper*, ed. by Dorothy Broughton, Loutledge & Kegan Paul, London, 1951.
- Gay, John. Poems of John Gay, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 10, Green Wood, New York, 1810.
- Tickell, Thoams. Poems of Thoams Tickell, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 11, Green Wood, New York, 1810.
- Pope, Alexander. *The Complete Works of Alexander Pope*, ed. by Adolphus William Ward, Macmillan, London, 1901.
- Broome, William. Poems of William Broome, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 12, Green Wood, New York, 1810.
- Byrom, John. Poems of John Byrom, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 15, Green Wood, New York, 1810.
- Green, Matthew. Poems of Matthew Green, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 15, Green Wood, New York, 1810.
- Savage, Richard. Poems of Richard Savage, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 11, Green Wood, New York, 1810.
- Pitt, Christopher. Poems of Christopher Pitt, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 12, Green Wood, New York, 1810.
- James, Thomson. Poems of James Thomson, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 12, Green Wood, New York, 1810.
- Dyer, John. Poems of John Dyer, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 13, Green Wood, New York, 1810.
- West, Gilbert. Poems of Gilbert West, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 13, Green Wood, New York, 1810.
- Dodsley, Robert. Poems of Robert Dodsley, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 15, Green Wood, New York, 1810.
- Jenyns, Soame. Poems of Soame Jenyns, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 17, Green Wood, New York, 1810.
- Hamilton, William. Poems of William Hamilton, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 15, Green Wood, New York, 1810.
- Mallet, David. Poems of David Mallet, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 14, Green Wood, New York, 1810.
- Brooke, Henry. Poems of Henry Brooke, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 17, Green Wood, New York, 1810.
- Harte, Walter. Poems of Walter Harte, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 16, Green Wood, New York, 1810.
- Boyse, Samuel. Poems of Samuel Boyse, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 14, Green Wood, New York, 1810.

- Lyttleton, Lord. Poems of Lord Lyttleton, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 14, Green Wood, New York, 1810.
- Whitehead, Paul. Poems of Paul Whitehead, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 16, Green Wood, New York, 1810.
- Armstrong, John. Poems of John Armstrong, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 16, Green Wood, New York, 1810.
- Johnson, Samuel. *The Poems of Samuel Johnson*, ed. by D. N. Smith and E. L. Mcadam, Clarendon Press, Oxford, 1941.
- Hammond, James. Poems of James Hammond, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 11, Green Wood, New York, 1810.
- Moore, Edward. Poems of Lord Edward Moore, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 14, Green Wood, New York, 1810.
- Thomson, William. Poems of William Thompson, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 15, Green Wood, New York, 1810.
- Shenstone, William. Poems of William Shenstone, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 13, Green Wood, New York, 1810.
- Jago, Richard. Poems of Richard Jago, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 17, Green Wood, New York, 1810.
- Whitehead, William. Poems of William Whitehead, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 17, Green Wood, New York, 1810.
- Gray, Thoams. *The Complete works of Thoams Gray*, ed. by James Reeves, Clarendon Press, London, 1973.
- Cambridge, Richard Owen. Poems of Richard Owen Cambridge, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 18, Green Wood, New York, 1810.
- Cawthorn, James. Poems of James Cawthorn, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, 3 ed. by A. Chalmers. Vol. 14, Green Wood, New York, 1810.
- Collins, William. *The Works of William Collins*, ed. by R. Wendorf and C. Ryskamp, Clarendon Press, Oxford, 1979.
- Akenside, Mark. Poems of Mark Akenside, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 14, Green Wood, New York, 1810.
- Smollet, Tobias. Poems of Tobias Smollet, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 15, Green Wood, New York, 1810.
- Wilkie, William. Poems of William Wilkie, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 16, Green Wood, New York, 1810.
- Fawkes, Francis. Poems of Francis Fawkes, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 16, Green Wood, New York, 1810.
- Blacklock, Thomas. Poems of Thomas Blacklock, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 18, Green Wood, New York, 1810.
- Smart, Christpher. *The Poetical Works of Christopher Smart*, ed. by Karina Williamson with Anne Necher, Clarendon Press, Oxford. 1996.
- Warton, Joseph. Poems of Joseph Warton, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 18, Green Wood, New York, 1810.
- Grainger, James. Poems of James Grainger, in *The Works of the English Poets from Chaucer to*

- Cowper, ed. by A. Chalmers. Vol. 14, Green Wood, New York, 1810.
- Cooper, John Gilbert. Poems of John Gilbert Cooper, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers, Vol. 15, Green Wood, New York, 1810.
- Mason, William. Poems of William Mason, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 18, Green Wood, New York, 1810.
- Goldsmith, Oliver. *The Poetical Works of Oliver Goldsmith*, ed. by Austin Dobson, Oxford Univ. Press, Oxford, 1906.
- Warton, Thomas. Poems of Thomas Warton, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 18, Green Wood, New York, 1810.
- Cunningham, John. Poems of John Cunningham, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 14, Green Wood, New York, 1810.
- Scott, John. Poems of John Scott, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 17, Green Wood, New York, 1810.
- Churchill, Charles. Poems of Charles Churchill, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 14, Green Wood, New York, 1810.
- Cowper, William. Poems, ed. by Hugh I'anson Fausset, Dent, London, 1958.
- Falconer, William. Poems of William Falconer, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 14, d, New York, 1810.
- Lloyd, Robert. Poems of Robert Lloyd, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 15, Green Wood, New York, 1810.
- Langhorne, John. Poems of John Langhorne, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 16, Green Wood, New York, 1810.
- Mickle, William Julius. Poems of William Julius Mickle, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 17, Green Wood, New York, 1810.
- Beattie, James. Poems of James Beattie, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 18, Green Wood, New York, 1810.
- Lovibond, Edward. Poems of Edward Lovibond, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 16, Green Wood, New York, 1810.
- Jones, Sir William. Poems of Sir William Jones, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 18, Green Wood, New York, 1810.
- Logan, John. Poems of John Logan, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. vol. 18, Green Wood, New York, 1810.
- Chatterton, Thomas. Poems of Thomas Chatterton, in *The Works of the English Poets from Chaucer to Cowper*, ed. by A. Chalmers. Vol. 15, Green Wood, New York, 1810.
- Crabbe, George. *The Poetical Works of George Crabbe*, ed. by A. J. Carlyle and R. M. Carlyle, Oxford Univ. Press, London, 1932.
- Wordsworth, William. *The Poetical Works of William Wordsworth*, ed. by E. DE Selincourt, Clarendon Press, Oxford. 1940.
- Byron, George Gordon. Poems, ed. by V. De Sola Pinto, Dent, London, 1968.
- Shelley, Percy Bysshe. *The Complete Works of Percy Bysshe Shelley*, ed. by Neville Roger, Clarendon Press, Oxford. 1972.
- Keats, John. *Poetical Works*, ed. by H. W. Garrod, Oxford Univ. Press, London. 1972.

2. 参考書目

- Araki, K. (荒木一雄) 1955. 「Mod StE の ME [a:] 音の発達経路について」『英文学研究』31, 201-10.
 _____. 1956. 「Shakespeare の発音 - 特に ME/a:/ について」『人文研究』7, 502-15.
 _____. 1959. 「Kökeritz と Dobson」『英語青年』105, 528-9.
 _____. 1964. 「ME/a:/, ai, ε: の同音化の結果音について」『人文研究』15, 315-25.
 _____. 1966. 『英文法 - 理論と実践』東京: 研究社
 _____. 1967. 「An Index of Milton's Rhymes」『英語学』4, 77-106.
 _____. 1971. 「John Hart: An Orthographe and a Method の解説」Otsuka (ed.) 1971, 321-39.
 _____. 1972. 「ME/i:/, /u:/ の発達過程について」『名古屋大学文学部研究論集』55, 103-123.
 _____. 1973. ■Rev. of Prins 1972■ Studies in English Literature. English Number 1973, 170-177.
 _____. 1977. 「近代標準英語母音組織の発達 (1)」『名古屋大学文学部研究論集』70, 93-123.
 _____. 1978. 「近代標準英語母音組織の発達 (2)」『名古屋大学文学部研究論集』73, 123-154.
 _____. 1979. 「母音の分析について」『名古屋大学文学 30 年周年記念論集』355-368.
 _____. 1980. 「Push chain か Drag chain か」In Honour of Yoshinobu Mori: Studies Contributed on the Occasion of his Retirement from Osaka University. 1980, 1-15.
 _____. 1981. 「近代標準英語母音組織の発達 (3)」『名古屋大学文学部研究論集』79, 69-95.
 _____. 1982. ■Rev. of Prins 1972■ Studies in English Literature. English Number 1983, 216-223.
- Araki, K. and M. Ukaji (荒木一雄・宇賀治正朋). 1984. 『英語史 A』英文学大系 10, 東京: 大修館書店.
- Araki, K. and Y. Nakao (荒木一雄・中尾祐治). 1980. 『シェイクスピアの発音と文法』東京: 荒竹出版.
- Barber, C. 1976. Early Modern English. London: Andre Deutsch.
- Baugh, A. C. and T. Cable. 1978³. A History of the English Language. Englewood Cliffs: Prentice-Hall.
- Blake, N. F. 1983. Shakespeare's Language: an Introduction. London: Macmillan.
- Blake, G. L. 1958. A History of the English Language. The Language Library. London: Andre Deutsch.
 _____. 1963. English Dialects. The Language Library. London: Andre Deutsch.
 _____. 1976. The language of Shakespeare. The Language Library. London: andre Deutsch.
- Bradley, H. 1968². The Making of English. London: macmillan.
- Bloomfield, L. 1933. Language. London: George Allen & Unwin.
- Brook, G. L. 1958. A History of the English language. London: Andre Deutsch.
 _____. 1963. English Dialects. London: Andre Deutsch.
 _____. 1976. The Language of Shakespeare. London: Andre Deutsch.
- Brunner, K. 1960-2. Die englische Sprache: ihre geschichtliche Entwicklung. Tübingen: Niemeyer.
- Cambell, A. 1959. Old English Grammar. Oxford: Clarendon Press.
- Cercignani, C. 1981. Shakespeare Works and Elizabethan Pronunciation. Oxford: Clarendon.
- Chambers, J. K. & P. Trudgill. 1980. Dialectology. Cambridge: Cambridge University Press.
- Chomsky, N. & M. Halle. 1968. The Sound Pattern of English. New York: Harper & Row.
- Chen, M. & W. S-y. Wang. 1975. "Sound Change: Actuation and Implementation" Language, 51, 255-81.
- Danielson, B. 1963. John Hart's Works on English Orthography and Pronunciation. Part II. Stockholm: Almqvist & Wiksell.
- Davies, C. 1934. English Pronunciation from the Fifteen to the Eighteenth Century: A Hand book to the Study of Historical Grammar. London: Dent. repr. 1970. Connecticut: Green wood.
- Dobson, E. J. 1955. "Early Modern Standard English" Transactions of the Philological Society, 25-54;

- Lass(ed.) 1969, 419-39.
- _____. 1962. "Middle English Lengthening in Open Syllables" *Transactions of the Philological Society*, 124-48.
- _____. 1968². *English Pronunciation 1500-1700*. 2 Vols. Oxford: Oxford Univ. Press.
- Ekwall, E. 1958. "Rev. of Dobson 1957" *Review of English Studies* 9, 303-12.
- _____. 1975. *A History of Modern English Sound and Morphology*. Oxford: Basil Blackwell.
- Ellis, A. J. 1869-71. *On Early English Pronunciation*. repr. 1969. New York: Haskell House.
- Franz, W. 1939⁴. *Die Sprache Shakespeares in Vers und Prosa*. Halle: Max Niemeyer.
- Gimson, A. C. 1980³. *An Introduction to the Pronunciation of English*. London: Edward Arnold.
- Halle, M. 1962. "Phonology of Generative Grammar" *Word*, 18, 54-72.
- _____. 1977. "enseness, Vowel Shift, and the Phonology of the Back Vowels in Modern English." *Linguistic Inquiry*, 8, 611-25.
- Halle, M. & S. J. Keyser. 1967. "Rev. of Danielsson(1963)" *Language*, 43, 773-87.
- Heguri, H. (平郡秀信) 1976. 「エリザベス朝の ME a:, ai, ε: の融合について」『*岐阜女子大学紀要*』5, 143-155.
- _____. 1977a 「Caroline Period の ME a:, ME ai, ME ε: の融合について」『*岐阜女子大学要*』6, 199-221.
- _____. 1977b. 「ME a: の発達過程について」『*Perspective*』Vol. 5, 31-61.
- _____. 1978. 「史的音韻論から見た Dryden と Pope の発音について」『*岐阜女子大学紀要*』7, 117-139.
- _____. 1980. 「ME i: の発達過程について」『*中京大学教養論叢*』第21巻第4号, 67-87.
- _____. 1981. 「ME u: の発達過程について」『*中京大学教養論叢*』第22巻第4号, 15-31.
- _____. 1985. 「初期近代英語の ME/ay/ の音価について」『*中京大学教養論叢*』第25巻第4号, 33-53.
- _____. 1986a. 「初期近代英語の ME/a:/ の音価について」『*中京大学教養論叢*』第26巻第4号, 53-77.
- _____. 1986b. 「初期近代英語の ME/ε:/ の音価について」『*中京大学教養論叢*』第27巻第2号, 199-227.
- _____. 1986c. 「後期近代英語の ME/ay/ の音価について」『*中京大学教養論叢*』第27巻第3号, 189-240.
- _____. 1987a. 「後期近代英語の ME/a:/ の音価について」『*中京大学教養論叢*』第27巻第4号, 35-83.
- _____. 1987b. 「後期近代英語の ME/ε:/ の音価について」『*中京大学教養論叢*』第28巻第1号, 117-174.
- _____. 1990a. 「初期近代英語の ME/ɔ:/ の音価について」『*中京大学教養論叢*』第31巻第1号, 103-148.
- _____. 1990b. 「後期近代英語の ME/ɔ:/ の音価について」『*中京大学教養論叢*』第31巻第2号, 189-226.
- _____. 1991a. 「初期近代英語の ME/ɔu/ の音価について」『*中京大学教養論叢*』第31巻第4号, 189-226.
- _____. 1991b. 「後期近代英語の ME/ɔu/ の音価について」『*中京大学教養論叢*』第32巻第2号, 117-153.
- _____. 1991c. 「初期近代英語の ME/au/ の音価について」『*中京大学教養論叢*』第32巻第3号, 135-164.
- _____. 1991d. 「後期近代英語の ME/au/ の音価について」『*中京大学教養論叢*』第32巻第4号, 189-206.
- _____. 1992. 「初期近代英語の ME/e:/ の音価について」『*中京大学教養論叢*』第33巻第4号, 103-132.
- _____. 1995. 「Samuel Johson (1708-94) の脚韻について」『*中京大学教養論叢*』第36巻第3号, 155-208.
- _____. 1996. 「H. Drummond の脚韻について」『*中京大学教養論叢*』第37巻第4号, 19-141.
- _____. 1997a. 「Faery Queene, Book の脚韻について」『*中京大学教養論叢*』第38巻第3号, 1-96.
- _____. 1997b. 「Faery Queene, Book の脚韻について」『*中京大学教養論叢*』第38巻第4号, 91-146.
- _____. 1998a. 「Faery Queene, Book の脚韻について」『*中京大学教養論叢*』第39巻第1号, 1-59.
- _____. 1998b. 「Faery Queene, Book の脚韻について」『*中京大学教養論叢*』第39巻第2号, 63-134.
- _____. 1998c. 「Faery Queene, Book の脚韻について」『*中京大学教養論叢*』第39巻第3号, 21-89.
- _____. 1998d. 「Faerie Queene, Book の脚韻について」『*中京大学教養論叢*』第39巻第4号, 1-75.
- _____. 1999. 「Spenser's Minor Poems の脚韻について」『*中京大学教養論叢*』第40巻第2号, 115-187.
- _____. 2000a. 「Dryden (1631-1700) の脚韻について ()」『*中京大学教養論叢*』第41巻第2号, 1-61.

- _____. 2000b. 「Dryden (1631-1700) の脚韻について ()」 『中京大学教養論叢』 第41巻第4号, 65-127.
- _____. 2001a. 「Dryden (1631-1700) の脚韻について ()」 『中京大学教養論叢』 第42巻第1号, 55-110.
- _____. 2001b. 「Dryden (1631-1700) の脚韻について ()」 『中京大学教養論叢』 第42巻第1号, 1-66.
- _____. 2001c. 「A. Marvell (1621-78) の脚韻について」 『中京大学教養論叢』 第42巻第3号, 15-89.
- _____. 2001d. 「John Donne (1572-1632) の脚韻について」 『中京大学教養論叢』 第42巻第4号, 1-57.
- _____. 2002a. 「Michael Drayton (1563-1631) の脚韻について」 『中京大学教養論叢』 第43巻第1号, 29-168.
- _____. 2002b. 「Alexander Pope (1688-1744) の脚韻について」 『中京大学教養論叢』 第43巻第2号, 25-142.
- _____. 2002c. 「G. Gascoigne (c.1535-77) の脚韻について」 『中京大学教養論叢』 第43巻第3号, 1-92.
- _____. 2002d. 「Henry Vaughan (1622-95) の脚韻について」 『中京大学教養論叢』 第43巻第4号, 1-107.
- _____. 2003a. 「Sir Philip Sidney (1554-86) の脚韻について」 『中京大学教養論叢』 第44巻第1号, 1-110.
- _____. 2003b. 「Earl of Stirling (1567-1640) の脚韻について」 『中京大学教養論叢』 第44巻第2号, 1-147.
- _____. 2003c. 「Samuel Daniel (?1563-1619) の脚韻について」 『中京大学教養論叢』 第44巻第4号, 15-110.
- _____. 2004a. 「William Warner (?1561-1609) の脚韻について」 『中京大学教養論叢』 第45巻第1号, 1-91.
- _____. 2004b. 「Robert Herrick (1591-1674) の脚韻について」 『中京大学教養論叢』 第45巻第2号, 83-151.
- _____. 2004c. 「Charles Cotton (1630-87) の脚韻について」 『中京大学教養論叢』 第45巻第3号, 61-133.
- _____. 2004d. 「William Diaper (1685-1717) の脚韻について」 『中京大学教養論叢』 第45巻第4号, 1-67.
- _____. 2006. 「ME/u/ の脚韻について」 『中京大学教養論叢』 第47巻第4号, 19-107.
- _____. 2007a. 「ME/oi/ の発達過程について」 『中京大学教養論叢』 第48巻第1号, 1-47.
- _____. 2007b. 「ME/e/ の発達過程について」 『中京大学教養論叢』 第48巻第3号, 1-114.
- _____. 2008. 「ME/i/ の発達過程について」 『中京大学国際教養学部論叢』 第1巻第1号, 1-76.
- _____. 2009. 「ME/ɔ/ の発達過程について」 『中京大学国際教養学部論叢』 第1巻第2号, 1-81.
- Hill, A. A. 1953. "Rev. of Kökeritz(1953)" *Language*, 29, 549-61.
- Hudson, R. A. 1980. *Sociolinguistics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Jespersen, O. 1909. *A modern English Grammar*. Part I. London; George Allen & Unwin.
- Jordan, R. 1934. *Handbuch der Mittellenglischen Grammatik I.* (rev.) H. C. Mathews, Heidelberg: Carl Winter.
- King, R. D. 1969. *Historical Linguistics and Generative Grammar*. Englewood Cliffs: Prentice-Hall.
- Kiparsky, P. 1968. "Linguistic Universal and Linguistic Change" *Bach-Harms(eds.)* 1968, 170-202; Kiparsky 1982, 13-43.
- _____. 1982. *Explanation in Phonology*. Publication in Language Sciences 4. Dordrecht and Cinnaminson N. J.: Foris.
- Kökeritz, H. 1932. *The Phonology of the Suffolk Dialect, descriptive and historical*. Uppsala: A-b Lundequistska Bokhandeln.
- _____. 1945. "The reduction of initial kn and gn in English." *Language* 21, 77-86.
- _____. 1953. *Shakespeare's Pronunciation*. New haven & London: Yale Univ. Press.

- _____. 1954. *A Guide to Chaucer's Pronunciation*. Stockholm: Almqvist & Wiksell.
- _____. 1961a. "Rev. od Dobson 1957 [= Dobson 1968²]." *Language* 37, 150-61.
- _____. 1961b. "Elizabethan Prosody and Historical Phonology." R. Lass(ed.) 1969³, 208-27.
- _____. 1965. "Dialectal Traits in Sir Thomas Wyatt's Poetry." R. Lass(ed.) 1969³, 440-9.
- Kurath, H. 1956. "The loss of Long Consonants and the Rise of Voiced Fricative in Middle English." *Language* 32, 435-45; R. Lass(ed.) 1969³, 142-53.
- _____. 1964. *A Phonology and Prosody of Modern English*. Ann Arbor: Univ. of Michigan Press.
- Labov, W. 1972. *Sociolinguistics Patterns*. Philadelphia: Univ. of Pennsylvania Press.
- Lass, R. 1969. *Approaches to English Historical Linguistics: An Anthology*. New York: Holt, Rinehart Winston.
- _____. 1972. *English Phonology and Phonological Theory*. Cambridge: Cambridge Univ. Press.
- _____. 1980. *On Explaining Language Change*. Cambridge: Cambridge Univ. Press.
- _____. 1999. *The Cambridge History of the English Language* 3. Cambridge: Cambridge Univ. Press.
- Lass, R. & J. M. Anderson, 1975. *Old English Phonology*. Cambridge: Cambridge Univ. Press.
- Linell, P. 1979. *Psychological Reakity in Phonology: Cambridge Studies in Linguistics* 25. Cambridge: Cambridge Univ. Press.
- Luick, K. 1914-40 *Historische Grammatik der Englischen Sprache*. 2 vols. repr. 1964. Oxford: Basil Blackwell.
- McCawley, J. D. 1974. "Review of the Sound Pattern of English." *International Journal of American Linguistics*, 40, 50-88
- Moore, S. 1951. *Historical Outline of English Sounds and Inflectios*. rev. by A. H. Marckwart, Ann Arbor: Wahr.
- Mosse, F. 1949. *A Handbook of Middle English*. tr. by J. A. Walker. Baltimore: The Johns Hopkins Press, 1952.
- Murrey, A. A. H., H. Bradley, C. T. Onions and W. A. Craigie. (eds) 1888-1933. *The Oxford English Dictionary*. (OED) 13 vols. A Supplement to the OED, Burchfield(ed.), Oxford: At the Clarendon Press.
- Nakao, T. 1978. *The Prosodic Phonology of the Late Middle English*. Tokyo: Shinozaki.
- _____. 1979. 『英語発達史』東京：篠崎書林.
- _____. 1985. 『音韻史』英語学大系 11. 東京：大修館書店.
- Ogura, M. 1980. "The Development of ME/ε:/: A Case of Lexical Diffusion." *Studies in English Literature, English Number*, 39-57.
- _____. 1987. *Historical English Phonology A lexical Perspective*. Tokyou: Kenkyusha.
- Orton, H. 1933. *The Phonology of a South Durham Dialect*. London: Routledge and Kegan Paul.
- Orton, H. and W. J. Halliday. 1962-70. *Survey of English Dialects*. 3 vols. Leeds: Arnold.
- Postal, P. 1968. *Aspects of Phonological Theory*. New York: Harper & Row.
- Prins, A. A. 1972. *A History of English Phonemes*. Leiden: Leiden Univ. Press.
- Samuels, M. L. 1963. "Some Applications of Middle English Dialectology." R. Lass(ed.) 1969a, 404-18.
- _____. 1965 "The Role of Functional Selection in the History of English." R. Lass(ed.) 1969a, 325-44.
- _____. 1972. *Linguistic Evolution*. Cambridge: Cambridge Univ. Press.
- Sapir, E. 1921. *Language*. New York: Harcourt Brace.
- Schane, S. A. 1973. *Generative Phonology*. Englewood Cliffs: Prentice-Hall.

- Scott, C. T. & J. L. Erickson. (ed.) 1968. *Reading for the History of the English Language*. Boston: Allyn & Bascon.
- Scragg, D. G. 1974. *A History of English Spelling*. Manchester: Univ. Press.
- Stockwell, R. P. 1961. "The Middle English 'Long Close' and 'Long Open' Mid Vowels." R. Lass(ed.) 1969a, 154-63.
- _____. 1964. "On the Utility of an Overall Pattern in Historical English Phonology." R. Lass(ed.) 1969a, 88-96.
- _____. 1969. "Mirrors in the History of English Pronunciation." R. Lass(ed.) 1969³, 228-45.
- Stockwell, R. P. and C. Barritt. 1961. "Scribal Practice: Some Assumption." R. Lass(ed.) 1969a, 133-41.
- Stockwell, R. P. and R. K. S. Macaulay(eds.) 1972. *Linguistic Change and Generative Theory*. Bloomington & London: Indiana Univ. Press.
- Strang, B. M. H. 1970. *A History of English*. London: Methuen.
- Sweet, H. 1888. *History of English Sounds*. London: OUP.
- Trudgill, P. 1983. *On Dialect: Social and Geographical Perspectives*. Oxford: Blackwell.
- _____. (ed.) 1984. *Language in the British Isles*. Cambridge: Univ. Press.
- Trubetzkoy, N. S. 1939. *Principles of Phonology*. tr. by C. A. M. Baltaxe. Nerkley: Univ. of California Press, 1969.
- Vietor, W. 1906. *A Shakespeare Phonology*. New York: Frederick Ungar.
- Wakelin, M. F. 1977. *English Dialects: An Introduction*. London: The Athlone Press.
- Wang, W. S-Y. 1968. "Vowels Features, Paired Variables, and the English Great Vowel Shift." *Language* 44.
- _____. (ed.) 1977. *The Lexicon in Phonological Change*. The Hague, etc.: Mouton.
- Wells, J. C. 1982. *Accents of English*. 3 vols. Cambridge: Cambridge Univ. Press.
- Wolfe, P. M. 1972. *Linguistic Change and the Great Vowel Shift in English*. Berkeley: Univ. of California Press.
- Wrenn, C. L. 1943. "The Value of Spelling as Evidence." *Transaction of the Philological Society* (1943), 14-39.
- _____. 1949. *The English Language*. London: Methuen & Co. (rpt.) Kenkyusha, 1954.
- Wright, J. 1896-1905. *The English Dialect Dictionary*. 6 vols. Oxford: Oxford Univ. Press.
- _____. 1905. *The English Dialect Grammar*. Oxford: Henry Frowde.
- Wyld, H. C. 1923. *Studies in English Rhymes from Surrey to Pope*. repr. 1965. New York: Russel & Russell.
- _____. 1927³. *A Short History of English*. London: Murray.
- _____. 1936³. *A History of Modern Colloquial English*. Oxford: Basil Blackwell.
- Zachrisson, R. E. 1913. *Pronunciation of English Vowels 1400-1700*. Göteborg. repr. New York: ASM, 1971.
- _____. 1927. *The English Pronunciation at Shakespeare's Time as taught by William Bullokar*. Uppsala: Almqvist & Wiksell.

3. 資料

- Araki, K., H. Heguri, S. Suzuki, Y. Konzawa, and M. Takenaka 1993a 「英詩脚韻の研究 (1)」『京都外国語大学研究論叢』XL, 1-44.
- _____. 1993b. 「英詩脚韻の研究 (2)」『京都外国語大学研究論叢』XLI, 16-46.

- _____. 1994a. 「英詩脚韻の研究 (3)」『京都外国語大学研究論叢』XLII, 18-42.
- Araki, K., H. Heguri, Y. Konzawa, and M. Takenaka. 1994b. 「英詩脚韻の研究 (4)」『京都外国語大学研究論叢』XLIII, 1-37.
- _____. 1995a. 「英詩脚韻の研究 (5)」『京都外国語大学研究論叢』XLIV, 1-42.
- _____. 1995b. 「英詩脚韻の研究 (6)」『京都外国語大学研究論叢』XLV, 351-405.
- Araki, K., K. Morisima, H. Heguri, Y. Konzawa, and M. Takenaka. 1996a. 「英詩脚韻の研究 (7)」『京都外国語大学研究論叢』XLVI, 194-216.
- _____. 1996b. 「英詩脚韻の研究 (8)」『九州産業大学国際文化学部紀要』7, 134-158.
- Heguri, H. 1997. 「The Shepherds Calender の脚韻」『中京大学教養論叢』第38巻第3号, 241-265.
- _____. 1998a. 「E. Benlowes(1603?-76) の脚韻」『中京大学教養論叢』第39巻第1号, 133-186.
- _____. 1998b. 「Sir John Denham の脚韻」『中京大学教養論叢』第39巻第2号, 221-255.
- _____. 1998c. 「K. Philips (1631-64) の脚韻」『中京大学教養論叢』第39巻第3号, 193-233.
- _____. 1998d. 「Flatman (1637-88) の脚韻」『中京大学教養論叢』第39巻第4号, 77-103.
- _____. 1999a. 「W. Wordsworth (1770-1850) の脚韻」『中京大学教養論叢』第40巻第1号, 139-168.
- _____. 1999b. 「R. Lovelace (1618-58) の脚韻」『中京大学教養論叢』第40巻第2号, 59-86.
- _____. 1999c. 「Sir, Thomas Wyatt (1503-42) の脚韻」『中京大学教養論叢』第40巻第3号, 199-244.
- _____. 1999d. 「R. Crashaw (1613-49) の脚韻」『中京大学教養論叢』第40巻第4号, 181-218.
- _____. 2000a. 「T. Campion (1567-1620) の脚韻」『中京大学教養論叢』第41巻第1号, 69-92.
- _____. 2000b. 「Sir John Beaumont (1583-1627) の脚韻」『中京大学教養論叢』第41巻第2号, 155-180.
- _____. 2000c. 「Sir John Davies (1569-1626) の脚韻」『中京大学教養論叢』第41巻第3号, 59-82.
- _____. 2000d. 「Giles Fletcher (1588-1623) の脚韻」『中京大学教養論叢』第41巻第3号, 83-104.
- _____. 2000e. 「George Herbert (1593-1635) の脚韻」『中京大学教養論叢』第41巻第4号, 143-176.
- _____. 2001a. 「Francis Beaumont (1584-1616) の脚韻」『中京大学教養論叢』第42巻第1号, 183-209.
- _____. 2001b. 「Milton (1608-74) の脚韻」『中京大学教養論叢』第42巻第2号, 109-131.
- _____. 2001c. 「Earl of Surrey (?1517-47) の脚韻」『中京大学教養論叢』第42巻第3号, 109-122.
- _____. 2001d. 「Richard Corbet (1582-1635) の脚韻」『中京大学教養論叢』第42巻第4号, 127-143.
- _____. 2002a. 「George Turberville (?1540-?1610) の脚韻」『中京大学教養論叢』第43巻第1号, 169-197.
- _____. 2002b. 「Sir John Suckling (1609-41) の脚韻」『中京大学教養論叢』第43巻第2号, 167-182.
- _____. 2002c. 「Edward Sherburne (1618-1702) の脚韻」『中京大学教養論叢』第43巻第3号, 133-150.
- _____. 2002d. 「Sir william Davenant (1608-68) の脚韻」『中京大学教養論叢』第43巻第4号, 181-216.
- _____. 2003a. 「William Habington (1605-54) の脚韻」『中京大学教養論叢』第44巻第1号, 201-226.
- _____. 2003b. 「Phinias Fletcher (1582-1650) の脚韻」『中京大学教養論叢』第44巻第2号, 193-244.
- _____. 2003c. 「John Ford (1588-1639) の脚韻」『中京大学教養論叢』第44巻第3号, 201-214.
- _____. 2003d. 「Francis Kynaston (1587-1642) の脚韻」『中京大学教養論叢』第44巻第4号, 205-232.
- _____. 2004a. 「John Lyly (?1554-1606) の脚韻」『中京大学教養論叢』第45巻第1号, 205-231.
- _____. 2004b. 「Sir Walter Raleigh (1552-1618) の脚韻」『中京大学教養論叢』第45巻第2号, 153-166.
- _____. 2004c. 「Henry King (1592-1669) の脚韻」『中京大学教養論叢』第45巻第3号, 153-174.
- _____. 2004d. 「P. Hannay(died 1629) の脚韻」『中京大学教養論叢』第45巻第4号, 69-97.
- _____. 2005a. 「J. Chalkhill(fl. 1600) の脚韻」『中京大学教養論叢』第46巻第1号, 59-78.
- _____. 2005b. 「William Chamberlayne(1619-89) の脚韻」『中京大学教養論叢』第46巻第2号, 29-84.
- _____. 2005c. 「William Congreve 1670-1729) の脚韻」『中京大学教養論叢』第46巻第4号, 35- 62.
- _____. 2006a. 「William Browne ?1591-/1643) の脚韻」『中京大学教養論叢』第47巻第1号, 191 -244.
- _____. 2006b. 「Edmond Waller(1606-87) の脚韻」『中京大学教養論叢』第47巻第3号, 37-68.

- _____. 2006c. 「Sir William Jones (1746-94) の脚韻」『中京大学教養論叢』第 47 巻第 4 号, 109-136.
- _____. 2007. 「Jone Keats (1795-1821) の脚韻」『中京大学教養論叢』第 48 巻第 3 号, 115-173.
- _____. 2009. 「John Cleaveland (1613-58) の脚韻」『中京大学国際教養学部論叢』第 1 巻第 2 号, 107-119.
- _____. 2011. 「G. Chapman (?1559-1634) の脚韻」『中京大学国際教養学部論叢』第 4 巻第 2 号, 15-67.